

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

松林遺跡

(第2次調査)

2004年9月

高松市教育委員会
株式会社 ユーリックホーム



噴 碟 斷 面

例　　言

1. 本報告書は、株式会社ユーリックホームが施工する宅地造成工事に伴う発掘調査報告書で、高松市多肥上町に所在する松林遺跡（まつばやしいせき）の報告を収録した。

2. 発掘調査地ならびに調査期間は次の通りである。

調査地：高松市多肥上町 1200 ほか

発掘調査：平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 4 月 12 日

整理作業：平成 16 年 4 月 14 日～平成 16 年 9 月 30 日

3. 発掘調査及び整理作業は高松市教育委員会が担当し、その費用は株式会社ユーリックホームが全額負担した。

4. 発掘調査は高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員大嶋和則が担当し、中西克也（讃岐文化遺産研究会）と大朝利和が補佐をし、整理作業は大嶋が担当した。

5. 本報告書の執筆・編集は大嶋が行った。

6. 発掘調査から整理作業、報告書執筆を実施するにあたって、下記の関係諸機関ならびに方々からご教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。（五十音順、敬称略）

香川県教育委員会、片桐孝浩、佐藤竜馬、林田真典、松本和彦

7. 発掘調査から整理作業、報告書執筆まで下記の方々の協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。（敬称略）

阿部亮太・川嶋一成・中村茂央（徳島文理大学）

8. 押図として、国土地理院発行 1 / 25,000 地形図「高松南部」を一部改変して使用した。

9. 本報告の高度値は海拔高を表し、方位は世界測地系の北を示す。

10. 本書で用いる遺構の略号は次の通りである。

SB：掘立柱建物 SD：溝 SK：土坑 SP：柱穴

11. 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 調査の経緯と経過	
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 整理作業の経過	1
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査成果	
第1節 調査の方法	6
第2節 調査地の概要と基本層序	6
第3節 遺構	21
第4章 まとめ	
第1節 遺構の変遷について	56
第2節 高松市における検出された地震痕跡について	57
観察表	60
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第 1 図 調査地及び周辺遺跡位置図	2	第 31 図 SD7 平・断面図	32
第 2 図 試掘調査地位置図 (S=1/500)	3	第 32 図 SD8 平・断面図	33
第 3 図 調査区グリッド割図	6	第 33 図 SD9 平・断面図及び出土遺物実測図	34
第 4 図 調査区平面図 (S=1/250)	7	第 34 図 SD10 断面図及び出土遺物実測図	34
第 5 図 遺構配置図① (S=1/100)	9	第 35 図 SD11 断面図及び出土遺物実測図	35
第 6 図 遺構配置図② (S=1/100)	10	第 36 図 検出溝平・断面図①	35
第 7 図 遺構配置図③ (S=1/100)	11	第 37 図 検出溝平・断面図②	36
第 8 図 遺構配置図④ (S=1/100)	12	第 38 図 SD17 平面図	37
第 9 図 遺構配置図⑤ (S=1/100)	13	第 39 図 SD17 断面図	38
第 10 図 遺構配置図⑥ (S=1/100)	14	第 40 図 SD17 土器出土状況図①	39
第 11 図 遺構配置図⑦ (S=1/100)	15	第 41 図 SD17 土器出土状況図②	40
第 12 図 調査区東部西壁土層断面図①	16	第 42 図 SD17 土器出土状況図③	41
第 13 図 調査区東部西壁土層断面図②	17	第 43 図 SD17 土器出土状況図④	42
第 14 図 調査区南部北壁土層断面図	18	第 44 図 SD17 上層出土遺物実測図①	43
第 15 図 調査区西部西壁土層断面図①	19	第 45 図 SD17 上層出土遺物実測図②	44
第 16 図 調査区西部西壁土層断面図②	20	第 46 図 SD17 中層出土遺物実測図①	45
第 17 図 SB1 平・断面図	21	第 47 図 SD17 中層出土遺物実測図②	46
第 18 図 SB2 平・断面図	22	第 48 図 SD17 下層出土遺物実測図①	47
第 19 図 検出土坑平・断面図①	24	第 49 図 SD17 下層出土遺物実測図②	48
第 20 図 SK8 平・断面図及び出土遺物実測図	25	第 50 図 SD17 下層出土遺物実測図③	49
第 21 図 検出土坑平・断面図②	27	第 51 図 SD17 下層出土遺物実測図④	50
第 22 図 SK16 平・断面図及び出土遺物実測図	28	第 52 図 SD17 下層出土遺物実測図⑤	51
第 23 図 検出土坑平・断面図③	28	第 53 図 検出溝平・断面図③	52
第 24 図 SPI 平・断面図及び出土遺物実測図	29	第 54 図 SD20 断面図及び出土遺物実測図	53
第 25 図 SP15 平・断面図及び出土遺物実測図	29	第 55 図 SD23 断面図及び出土遺物実測図	53
第 26 図 SD1 平・断面図及び出土遺物実測図	30	第 56 図 噴縫 1・噴縫 2 平・断面図	54
第 27 図 SD2 平・断面図及び出土遺物実測図	31	第 57 図 噴縫 3・噴縫 4 平・断面図	55
第 28 図 SD3・SD4 平・断面図	31	第 58 図 地震検出遺跡位置図	57
第 29 図 SD5 断面図	32	第 59 図 高松平野の出水分布	59
第 30 図 SD6 断面図及び出土遺物実測図	32		

挿表目次

表 1 整理作業工数表	1	表 2 高松市内における地震検出地一覧表	58
-------------	---	----------------------	----

写真図版目次

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 写真 1 | 試掘状況 (3Tr) | 写真 42 | SD17 北部断面 (南から) |
| 写真 2 | 試掘状況 (9Tr) | 写真 43 | SD17 完掘状況 (南から) |
| 写真 3 | 機械掘削状況 | 写真 44 | SD17 完掘状況 (北から) |
| 写真 4 | 遺構検出状況 | 写真 45 | SD17 完掘状況 (北東から) |
| 写真 5 | 調査区北東部完掘状況 (北から) | 写真 46 | SD17 剥削状況 (南から) |
| 写真 6 | 調査区東部中央完掘状況 (北西から) | 写真 47 | SD17 木器出土状況 (北から) |
| 写真 7 | 調査区南東部完掘状況 (北から) | 写真 48 | SD17 土器 69 出土状況 (東から) |
| 写真 8 | 調査区南東部完掘状況 (南から) | 写真 49 | SD17 上器 126 出土状況 (南から) |
| 写真 9 | 調査区南部完掘状況 (西から) | 写真 50 | SD17 上器 149 出土状況 (南から) |
| 写真 10 | 調査区西部完掘状況 (南から) | 写真 51 | SD17 土器 213 出土状況 (南から) |
| 写真 11 | 調査区西部完掘状況 (北から) | 写真 52 | SD17 上器 89 出土状況 (西から) |
| 写真 12 | SB1 半堀状況 (西から) | 写真 53 | SD20・23 断面 (北から) |
| 写真 13 | B1 完掘状況 (東から) | 写真 54 | SD24 断面 (東から) |
| 写真 14 | SB2 完掘状況 (東から) | 写真 55 | 噴礫 1・2 断面 (東から) |
| 写真 15 | SK8 断面 (北から) | 写真 56 | 噴礫 4 断面 (東から) |
| 写真 16 | SK8 上器出土状況 (南から) | 写真 57 | 松林遺跡出土遺物① |
| 写真 17 | SK8 完掘状況 (南から) | 写真 58 | 松林遺跡出土遺物② |
| 写真 18 | SP1 土器出土状況 (西から) | 写真 59 | 松林遺跡出土遺物③ |
| 写真 19 | SP15 上器出土状況 (南から) | 写真 60 | 松林遺跡出土遺物④ |
| 写真 20 | SK18 断面 (南から) | 写真 61 | 松林遺跡出土遺物⑤ |
| 写真 21 | SD1 完掘状況 (東から) | | |
| 写真 22 | SD2 断面 (東から) | | |
| 写真 23 | SD2 完掘状況 (東から) | | |
| 写真 24 | SD3・4・SR2 断面 (東から) | | |
| 写真 25 | SD8 完掘状況 (南西から) | | |
| 写真 26 | SD9 完掘状況 (南西から) | | |
| 写真 27 | SD9 土器出土状況 (南から) | | |
| 写真 28 | SD10 完掘状況 (南から) | | |
| 写真 29 | SD10 断面 (南から) | | |
| 写真 30 | SD11 完掘状況 (南から) | | |
| 写真 31 | SD15 断面 (南から) | | |
| 写真 32 | SD15 完掘状況 (南から) | | |
| 写真 33 | SD16・17 完掘状況 (南東から) | | |
| 写真 34 | SD17 南部断面 (南から) | | |
| 写真 35 | SD17 南部完掘状況 (南から) | | |
| 写真 36 | SD17 土器 32 出土状況 (南から) | | |
| 写真 37 | SD17 完掘状況 (南から) | | |
| 写真 38 | SD17 中部断面 (南から) | | |
| 写真 39 | SD17 土器 66 出土状況 (南から) | | |
| 写真 40 | SD17 上器 37 出土状況 (南から) | | |
| 写真 41 | SD17 上器 64 出土状況 (西から) | | |

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

株式会社ユーリックホームが計画する宅地造成工事に關し、予定地内における埋蔵文化財包蔵地の有無について照会があった。高松市教育委員会では工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である松林遺跡に隣接し、その集落遺跡から続く微高地に所在していることから集落城が広がっている可能性が高いと考え、株式会社ユーリックホームに対し、「周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、包蔵地に隣接していることから、遺跡が存在する可能性が極めて高く、工事着手後に遺跡が発見された場合は工事の進捗に多大な影響を及ぼす可能性もあるため、工事着手前に試掘確認調査を実施することが望ましい。」と説明を行い、任意協力をお願ひしたものである。

株式会社ユーリックホームと協議の結果、事前に試掘調査を実施することで合意した。宅地造成工事の内、宅地部分については盛土を行うことから地下遺構に影響は無いが、道路部分については掘削を伴い地下遺構に影響を及ぼす可能性が高く、また永久構造物となることから、道路部分の約1,350m²を対象地とし、平成16年3月29日に試掘調査を実施した。12本のトレンチ調査の結果、全トレンチで弥生時代～江戸時代にかけての遺構・遺物を確認することができた。高松市教育委員会は平成16年3月31日に香川県教育委員会に対し確認調査結果を送付するとともに、土地所有者兼造成工事の施工者である株式会社ユーリック興産から提出された埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第57条の2第1項）を進呈した。同日に、香川県教育委員会より、周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について、発掘調査実施の旨の回答が高松市教育委員会にあり、株式会社ユーリック興産に伝達した。

これを受けて、高松市教育委員会は株式会社ユーリックホームと試掘調査結果をもとに協議を行った結果、遺構の希薄な第1・第11・第12トレンチを除く、第2～第10トレンチ部分の約800m²について工事着手前に発掘調査を実施することで合意し、平成16年3月31日に埋蔵文化財調査協定書を締結した。業務名は「宅地造成工事に伴う埋蔵文化財調査管理業務」とし、高松市教育委員会は発掘調査・整理作業の実務を行い、その費用負担および契約・支払事務については株式会社ユーリックホームが行うこととした。平成16年5月20日が造成工事完了予定であったことから、株式会社ユーリックホームから発掘調査の早期着手を求められ、協議の結果、4月1日～14日を発掘調査期間、4月15日～平成17年3月31日を整理作業期間とした。結果的には、平成16年9月30日に全作業を完了した。

第2節 調査の経過

発掘調査は平成16年4月1日から開始した。調査終了箇所から工事を実施していくため、事前の施工業者との打ち合わせにより、北東部から調査を終了させていくこととなり、調査区の北東部を5日間、南東部から南部を5日間、西部を4日間の工程で調査を実施することで合意した。幸いにも好天に恵まれ、調査区の北東部は4月5日、南西部から南部については4月8日にそれぞれ調査を終了し、4月12日に全体の調査が終了した。

第3節 整理作業の経過

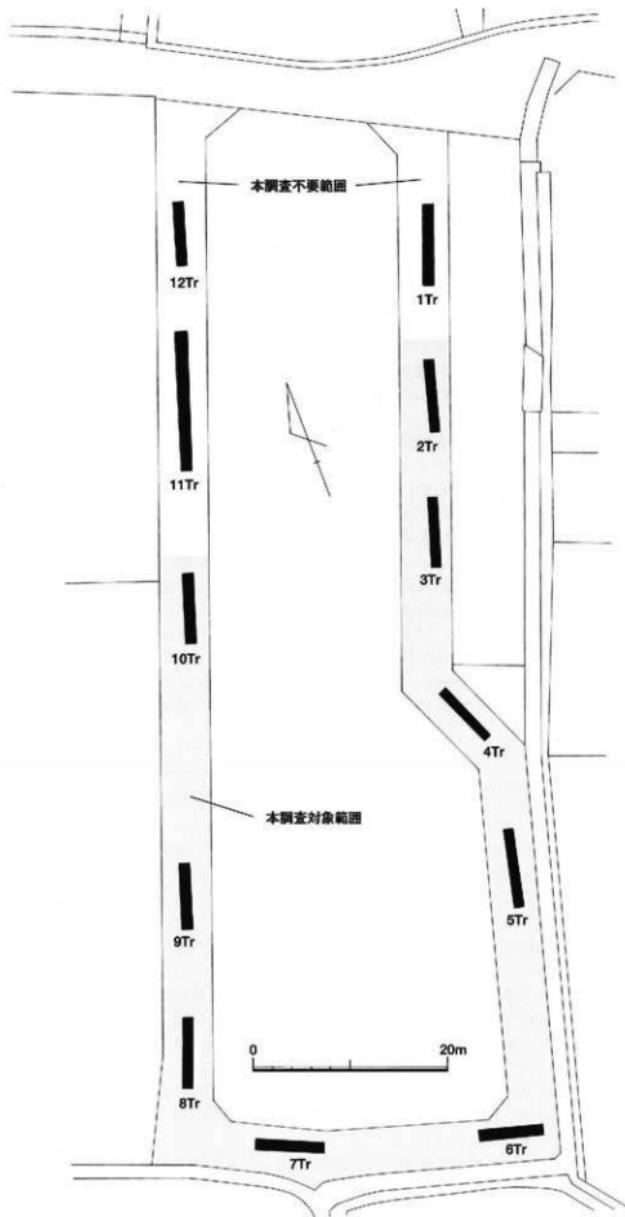
整理作業は平成16年4月15日から実施し、7月31日に整理作業は終了した。その後、報告書執筆作業を行つた。詳しい工程表は以下のとおりである。

表1 整理作業工程表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
洗浄						
横合・復元						
実測						
トレース						
写真撮影						
レイアウト						
執筆・編集						



第1図 調査地及び周辺遺跡位置図



第2図 試畠調査地位置図 (S=1/500)

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

高松市は香川県の中央やや東寄りに位置し、市域の大部分は讃岐平野の一部を形成する高松平野が広がっている。南部に讃岐山脈の北縁がかかり、東部に屋島、立石山塊、南西部に石浦尾山、淨願寺山、白峰、堂山の山系が連なる。いずれも讃岐山脈の基盤である洪積台地と同じ地層からなるメサ、あるいはピュート型の溶岩台地で、20～300mの低い山地である。北方はひらけ、瀬戸内海に面し、男木島、女木島、大槌島、小槌島などの島をも市域に含み、備讃瀬戸を挟んで岡山県と対峙する。

高松平野は、讃岐山脈より流れ出た諸河川が運んだ土砂によって形成された沖積平野である。高松平野には、西から本津川、香東川、御坊川、詰田川、春日川、新川といった河川が北流しているが、なかでも香東川が平野の形成に最も大きな影響を及ぼしており、現存の春日川以西が香東川による沖積平野といわれている。現在、石浦尾山塊の西側を直線状に北流する香東川は17世紀初めの河川改修によるもので、それ以前には現在の香川町人野付近から東へ分岐した後、石浦尾山塊の南側から回り込んで、平野中央部を東北流するもう一本の主流路が存在していた。この旧流路は、現在では水田地帯及び市街地の地下に埋没しているが、空中写真等から、林から木本地区にかけての分ヶ池、下池、長池、大池、ガラ池を結ぶ流路等数本の旧河道が知られており、発掘調査でもその痕跡が確認されている。なお、17世紀の鹿川直前の流路は、御坊川として今でもその名残りをとどめている。

高松平野を流れる諸河川は、南の讃岐山脈から平野での流入口で穏やかな傾斜を持つ扇状地形の沖積平野を形成し、耕作に適した地味豊かな土壤をもたらしたが、諸河川の中流域は伏流し、表層は涸れ川になることが多く、早くからため池を造築して水不足を解消してきた。山間の洪積台地と洪積層の境日に多くのため池が分布する。これらのため池は、年間1,000mm前後と降水量の乏しい讃岐平野において農業用水確保のために不可欠なものである。また、今回の調査地である多肥地区周辺は、ため池に加えて出水（すい）と呼ばれる自噴地下水脈の利用が盛んで、両者を併用した特徴的な配水網と嚴格な水利慣行を伝えてきた。調査地周辺では、栗木出水、平井出水、鈴木出水等が見られる。しかし、昭和50年の香川用水の通水によつて、一帯は三郎池の受益範囲に取り込まれ、農業用水の確保の不安が払拭された反面、地元水源を核とした水利慣行が急速に消滅するとともに、ため池や出水の水源自体もその役割を失いつつある。

第2節 歴史的環境

高松平野では、ここ10数年間の大規模な開発事業（高松東道路建設事業、空港跡地開発事業等）の事前調査により、遺跡数が飛躍的に増大しつつある。特に、今回の調査地の多肥上町松林周辺においては、香川県立桜井高等学校や都市計画道路の建設等に伴う発掘調査が行われ、面的に遺跡の広がりや内容が判明している地域である。高松平野の歴史的景観は他の報告書に譲ることとし、ここでは周辺の調査について述べる。

旧石器・縄文時代の遺跡は、今回の調査地周辺では遺跡は知られていない。松林遺跡や多肥松林遺跡の旧河道中からわずかに縄文時代晚期の遺物が出土している程度である。当該期の遺跡は高松平野全体でもほとんど知られておらず、不明な点が多い。

弥生時代前期になると、多肥松林遺跡で溝が検出されているほか、松林遺跡では集石遺構が見られる。中期中葉になると、香川県立桜井高等学校の中心部を南から北へ流れる自然河道が埋没を始めている。この流路から上器とともに、鳥形木製品、木製農具等が出土している。流路の両岸には掘立柱建物や竪穴住居が営まれており、特に流路東側の集落域は日暮・松林遺跡まで広がっている。この時期には多肥松林遺跡の北西部において洪水砂層、松林遺跡において地表の液状化現象である噴露が認められ、自然災害があったことを物語っている。中期後半～後期前半には遺構・遺物ともほとんど見られない。後期後半には日暮・松林遺跡において竪穴住居が多数検出されている。

弥生後期中葉以降には、幅5m程度の灌漑水路が多数掘削されており、古墳時代前期で埋没するものもあるが、古墳時代後期までの遺物を含む溝も存在する。また、日暮・松林遺跡や多肥宮尻遺跡においては古墳時代中期末～後期前半の土器や木製品を包含する自然河道が検出されている。一方、古墳時代の集落域や古墳については不明である。

平安時代には周辺の自然河道の埋没がほぼ完了しており、多肥松林遺跡において掘立柱建物や溝が掘削されており、溝からは壺串が多量に出土している。

中・近世においては条里地割の溝や掘立柱建物が検出されている。特に松林遺跡では香川郡の一条と二条の界外溝が検出されている。また、日暮・松林遺跡においては多量の瓦器塊が出土している。

周辺の調査履歴（～2004. 6. 30）

遺跡名	調査期間	面積	調査機関	文献
松林遺跡（通字路）	1986. 5. 19～1986. 11. 8	1,000 m ²	高松市教育委員会	1,2
松林遺跡（宅地造成）	2004. 4. 1～2004. 4. 12	800 m ²	高松市教育委員会	本書
多肥松林遺跡（高校）	1993. 4. 26～1994. 9. 6	17,600 m ²	(財) 香川県埋蔵文化財調査センター	3～6
多肥松林遺跡（高松上木）	1994. 10. 1～1995. 3. 31	5,900 m ²	(財) 香川県埋蔵文化財調査センター	6
多肥松林遺跡（県道）	1997. 4. 1～1997. 12. 31	7,000 m ²	(財) 香川県埋蔵文化財調査センター	7
日暮・松林遺跡（新町計画道路）	1993. 11. 15～1995. 9. 29	11,600 m ²	高松市教育委員会	8～11
日暮・松林遺跡（済生会）	2002. 5. 12～2002. 7. 31	2,200 m ²	高松市教育委員会	12～14
日暮・松林遺跡（農道）	2004. 5. 12	70 m ²	高松市教育委員会	未刊
日暮・松林遺跡（特養ホーム）	2004. 6. 23～調査中	1,500 m ²	高松市教育委員会	未刊
多肥宮尻遺跡（都市計画道路）	1997. 4. 1～1999. 9. 30	12,245 m ²	(財) 香川県埋蔵文化財調査センター	15～17

既存報告書

松林遺跡

- 「松林遺跡」「香川県埋蔵文化財調査年報 平成 7 年度」香川県教育委員会 1996
- 「香川県立高松城井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 松林遺跡」高松市教育委員会 1996

多肥松林遺跡

- 「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡 平成 5 年度」香川県教育委員会 1994
- 「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡 岩伏・中所遺跡 平成 6 年度」香川県教育委員会 1995
- 「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 1 号 多肥松林遺跡」(財) 香川県埋蔵文化財調査センター 1999
- 「高松土木事務所新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡」香川県教育委員会 1995
- 「多肥松林遺跡」「県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成 9 年度」(財) 香川県埋蔵文化財調査センター 1998

日暮・松林遺跡

- 「日暮・松林遺跡」「香川県埋蔵文化財調査年報 平成 5 年度」香川県教育委員会 1994
- 「日暮・松林遺跡」「香川県埋蔵文化財調査年報 平成 6 年度」香川県教育委員会 1995
- 「日暮・松林遺跡」「香川県埋蔵文化財調査年報 平成 7 年度」香川県教育委員会 1996
- 「都市計画道路福岡多肥上町郷土記念碑に伴う埋蔵文化財調査報告書 日暮・松林遺跡」高松市教育委員会 1997
- 「日暮・松林遺跡」「高松市内遺跡発掘調査概報平成 14 年度」高松市教育委員会 2003
- 「日暮・松林遺跡」「香川県埋蔵文化財調査年報 平成 14 年度」香川県教育委員会 2003
- 「香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡（済生会）」高松市教育委員会 2003

多肥宮尻遺跡

- 「多肥宮尻遺跡」「県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成 9 年度」(財) 香川県埋蔵文化財調査センター 1998
- 「多肥宮尻遺跡」「県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成 10 年度」(財) 香川県埋蔵文化財調査センター 1999
- 「多肥宮尻遺跡」「県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成 11 年度」(財) 香川県埋蔵文化財調査センター 2000

第3章 調査成果

第1節 調査の方法

調査地の北側は平成7年度に調査を実施した通学路（市道多肥上町51号線）に面しており、宅地造成部分の道路は宅地造成地の外周にあたることから、調査区は北側が開いたコの字となった。なお、調査終了部分から造成工事を行っていくことから、北東部、南東部、南部、西部の4地区に分け、順次調査を行った。

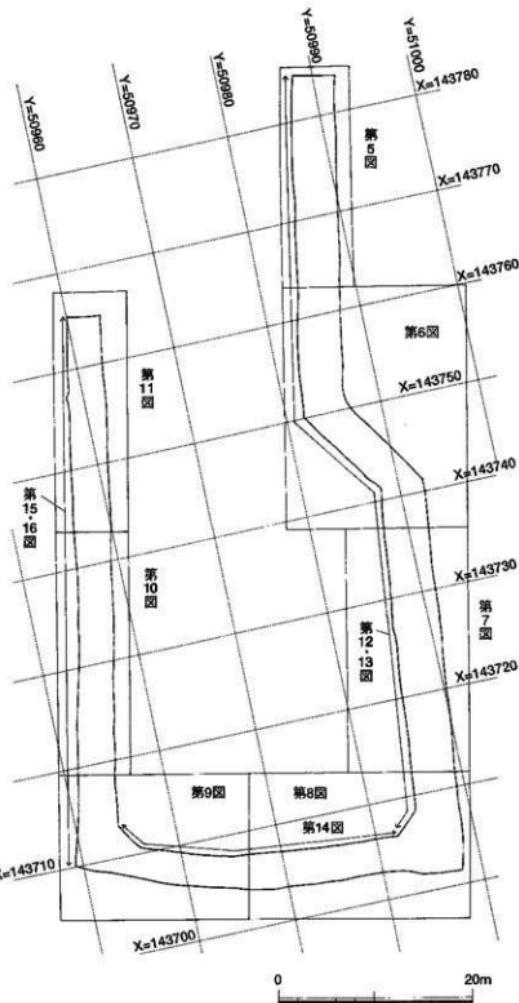
試掘調査時に、調査地北端では近世の遺構面を確認していたが、調査期間が短く、試掘調査においても溝1条しか検出していないことから、近世の遺構面の調査は実施せず、重機により地表面まで掘り下げ、遺構検出にあたった。調査区の幅が4～5mの調査であるが、現況の地割りに合わせて、10mのグリッド設定を行い、測量・遺物の取り上げを行った。測量は平板測量による1/50図化を基本としたが、主要遺構や遺物の出土状況図、土層断面図等は適宜手書きによる1/10及び1/20図化を行った。なお、調査終了後に宅地造成工事で使用する4級座標を基準に座標計算を行い、座標との整合を測った。

第2節 調査地の概要と基本手順

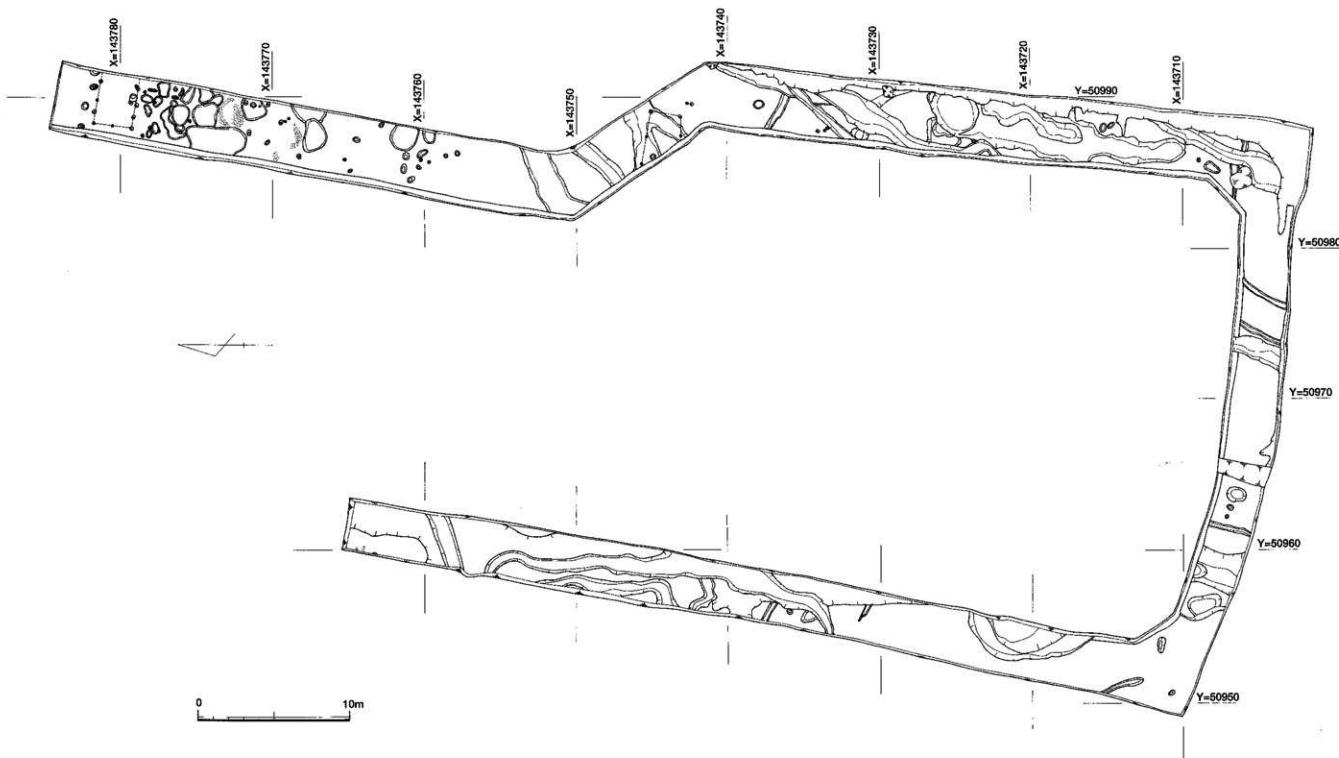
調査地の調査前の状況は、南北2枚の水田となっており、標高は南側の水田が約22.3m、北側が約22.0mを測る。遺構面の標高は南端で約22.1m、北端で約21.4mを測り、高低差は70cmで、北側に向かって緩やかに下がる地形である。

調査区がコの字であることから、上層区は北東部及び南東部の西面、南部の北面、西部の西面の3面で作成した。南部では、厚さ約20cmの耕作土直下において地山の浅黄色シルト～粘土層が検出された。南東部や西部の南半では耕作土層の下層に厚さ数cmのぶい橙色及びぶい黄褐色砂混粘質土の床土層が堆積している。北東部や西部北半においては、この床土層の下層に弥生土器等を含む褐灰色砂混粘質土の包含層が堆積しており、北側ほど堆積層が厚くなっている。

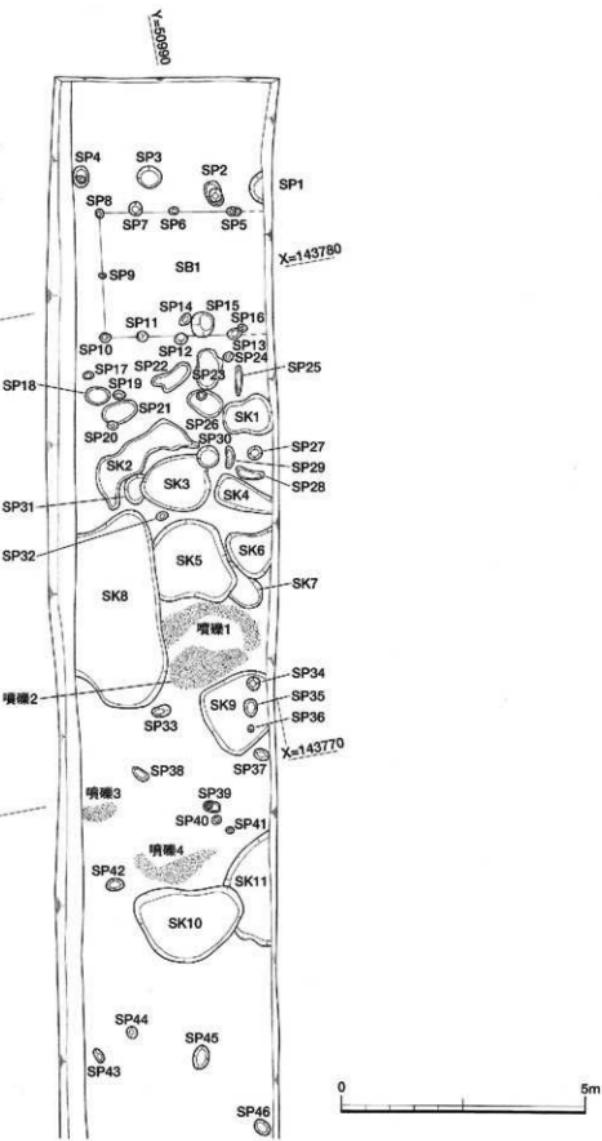
遺構面は包含層上面と地山となる浅黄色シルト～粘土層上面の2面において確認した。なお、包含層上面の遺構面は先述のとおり、試掘調査時に近世の溝1条のみであったことから、この面での遺構調査は実施しなかった。地山上面での検出遺構は、溝24条、土坑20基、掘立柱建物2棟を含むビット79基である。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、木器、石器などコンテナ10箱分の土器が出土した。



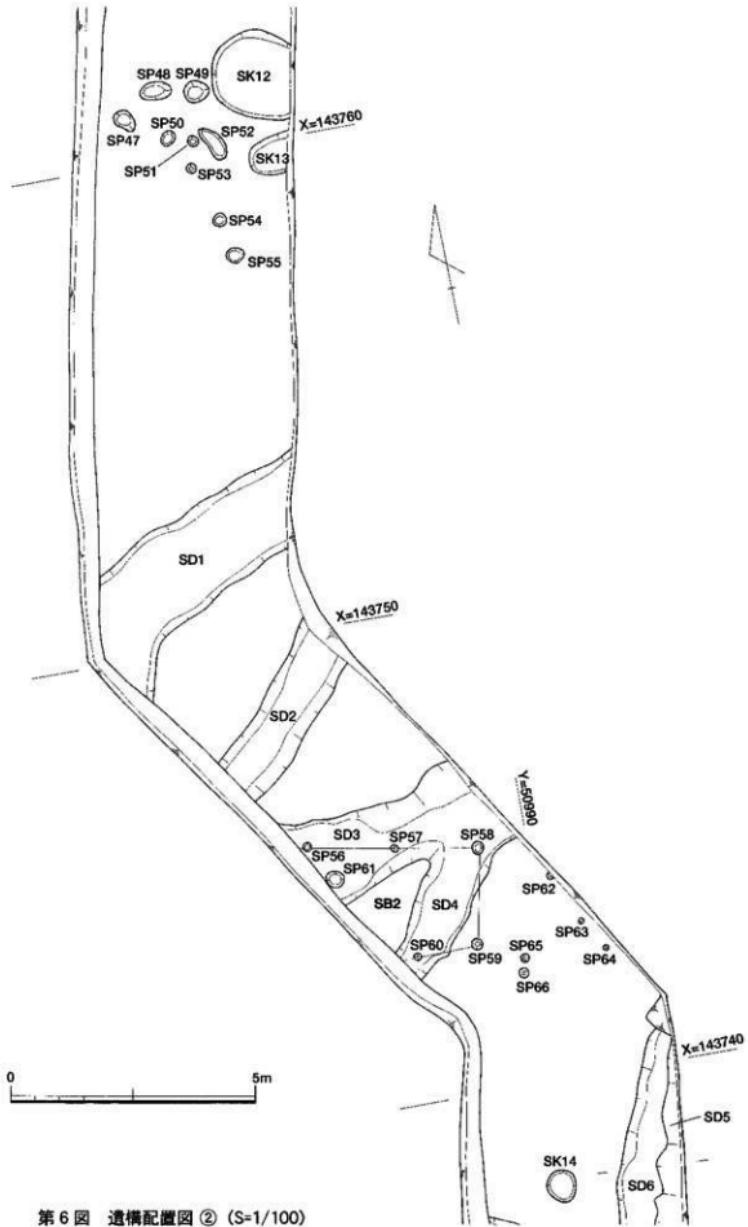
第3図 調査区グリッド割図



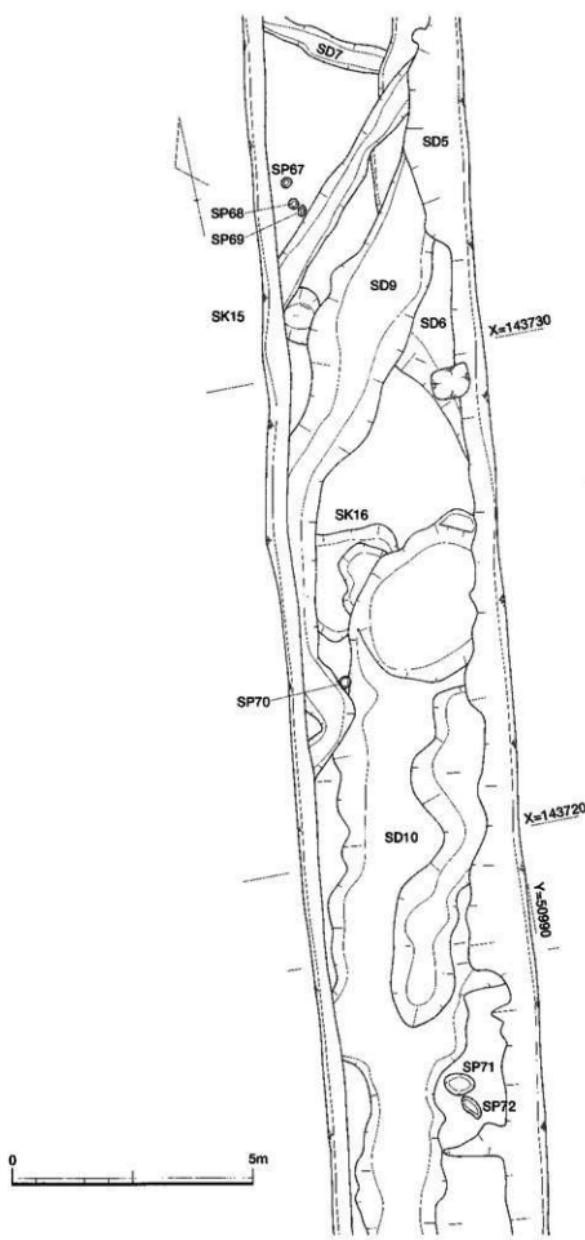
第4図 調査区平面図 (S=1/250)



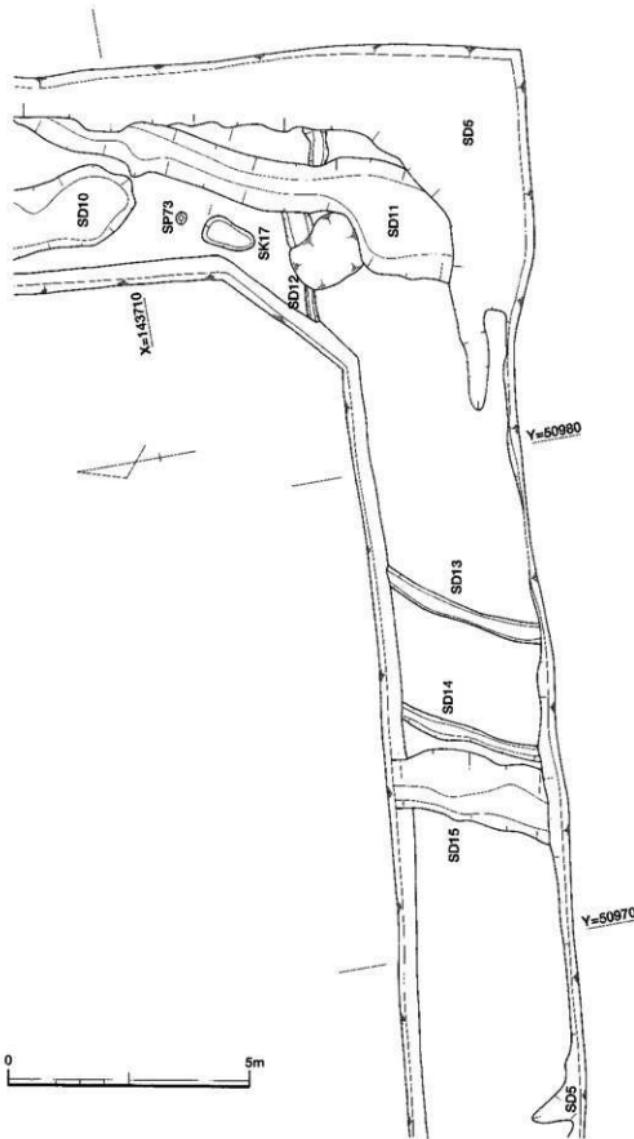
第5図 遺構配置図① (S=1/100)



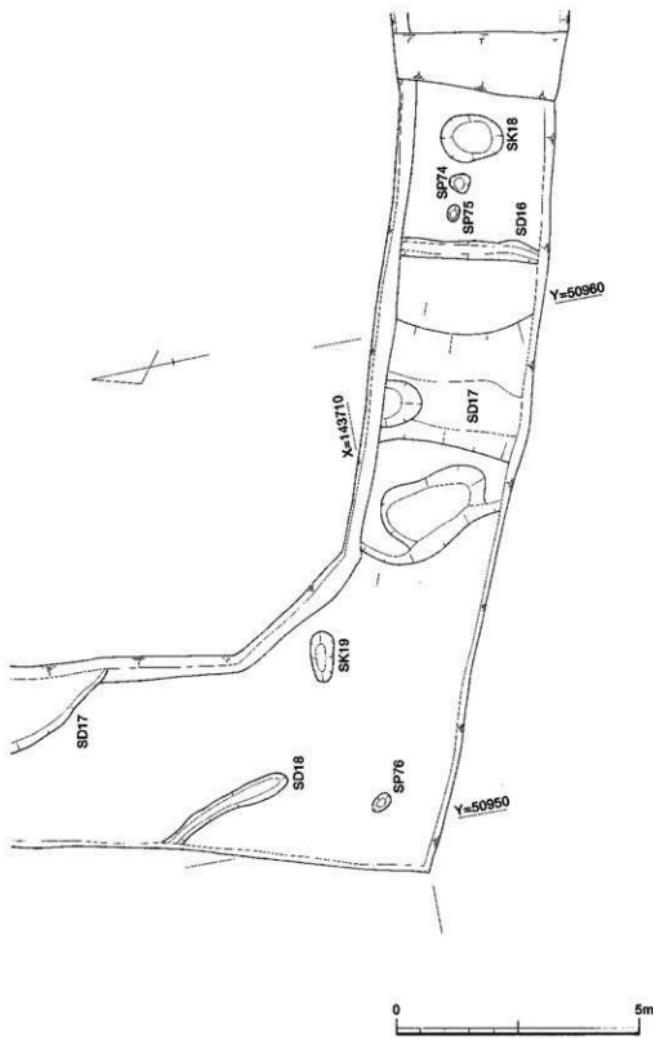
第6図 造構配置図② (S=1/100)



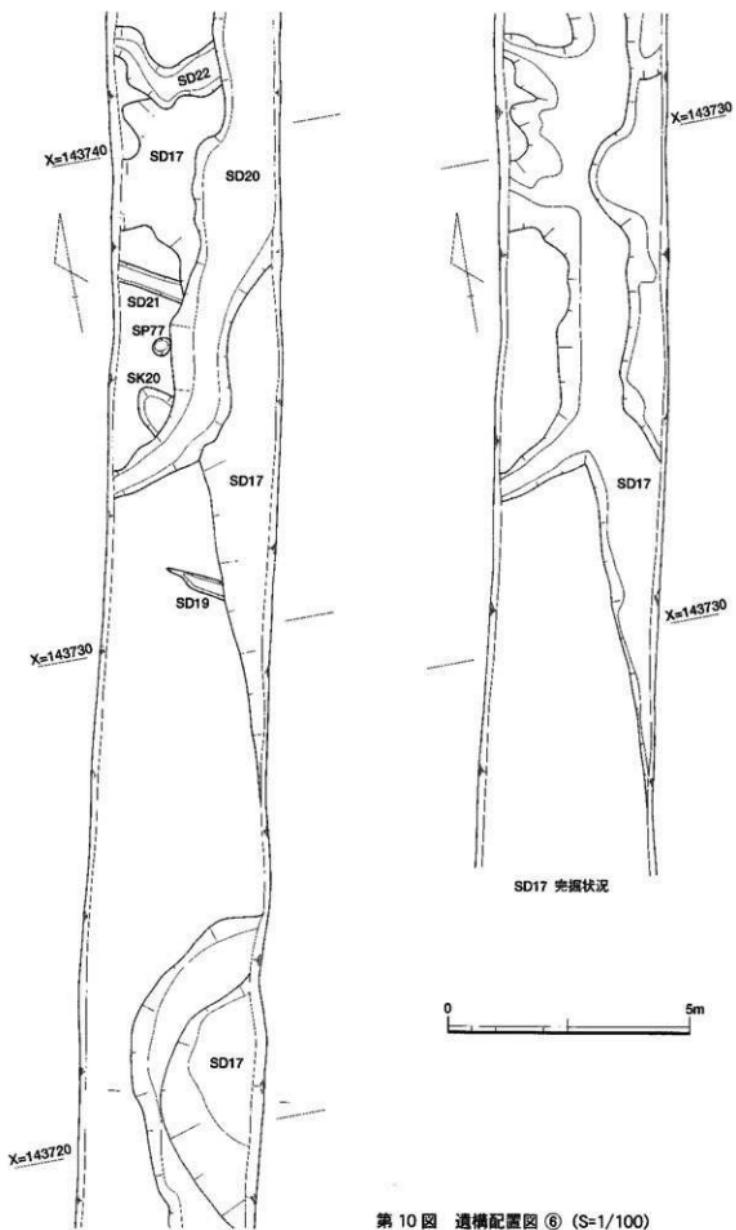
第7図 遺構配置図③
(S=1/100)



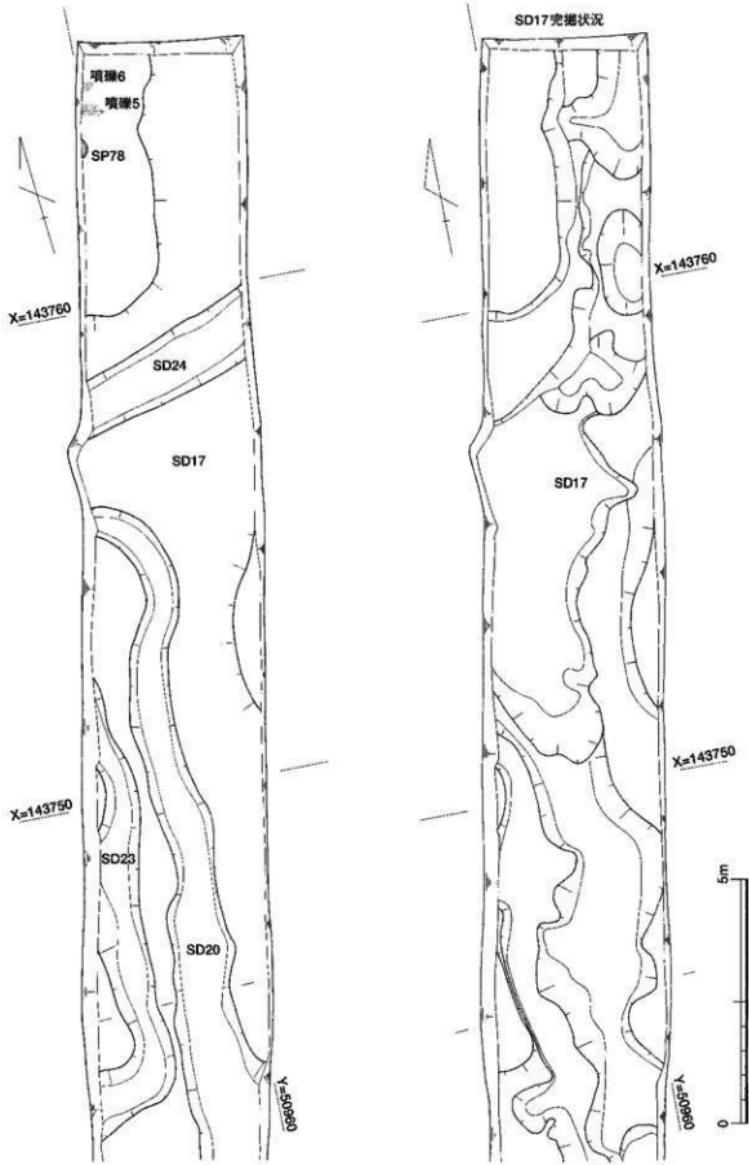
第8図 遺構配置図④ (S=1/100)



第9図 造構配置図⑤ (S=1/100)

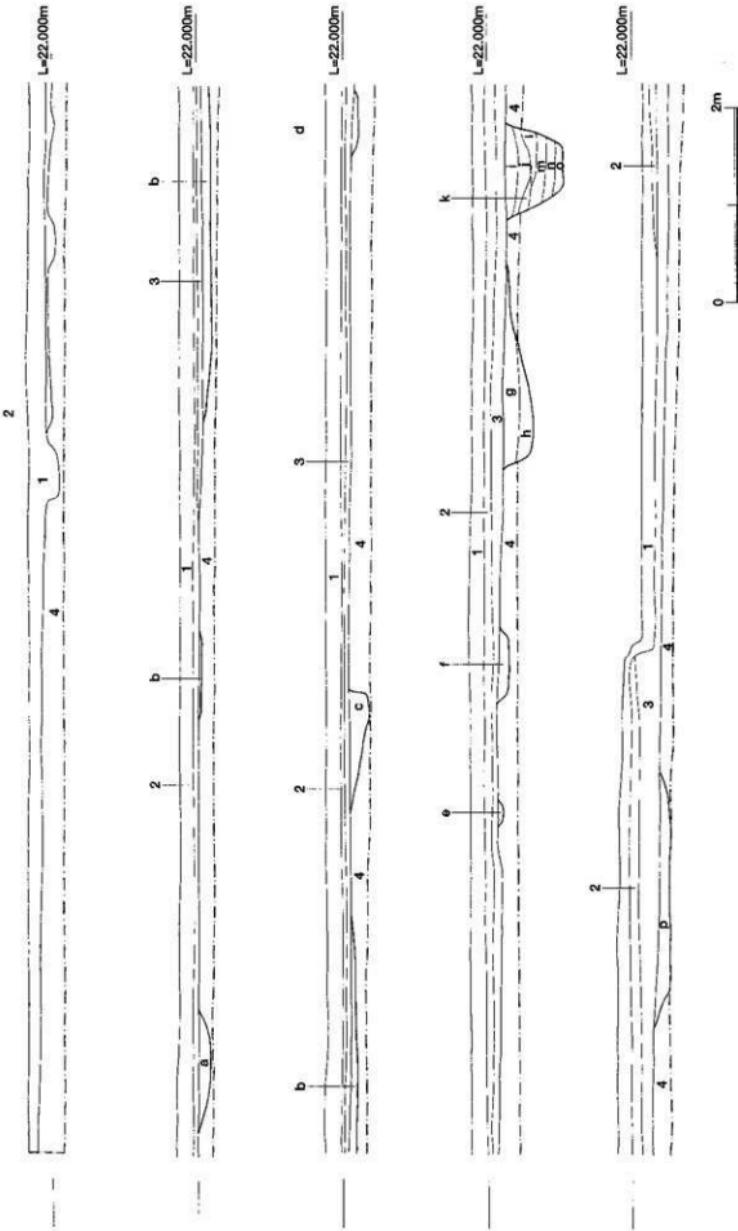


第10図 遺構配置図⑥ (S=1/100)

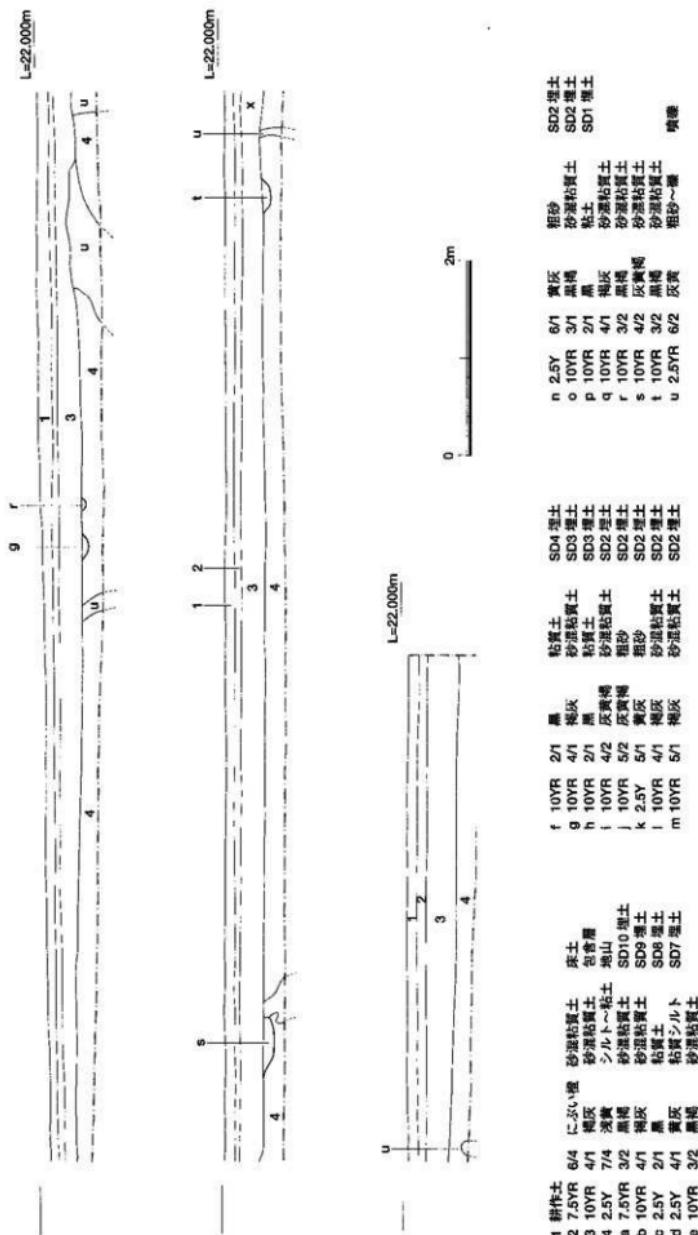


第 11 図 遺構配置図 ⑦ (S=1/100)

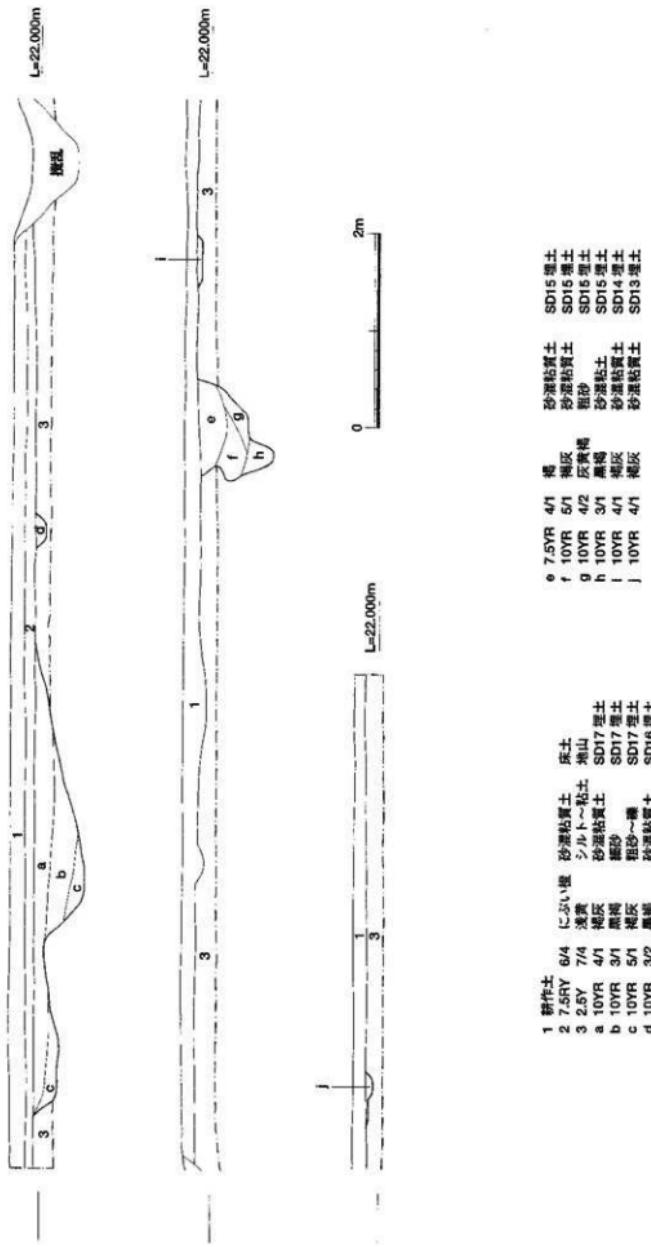
第12圖 調查區東部西壁土層斷面圖①



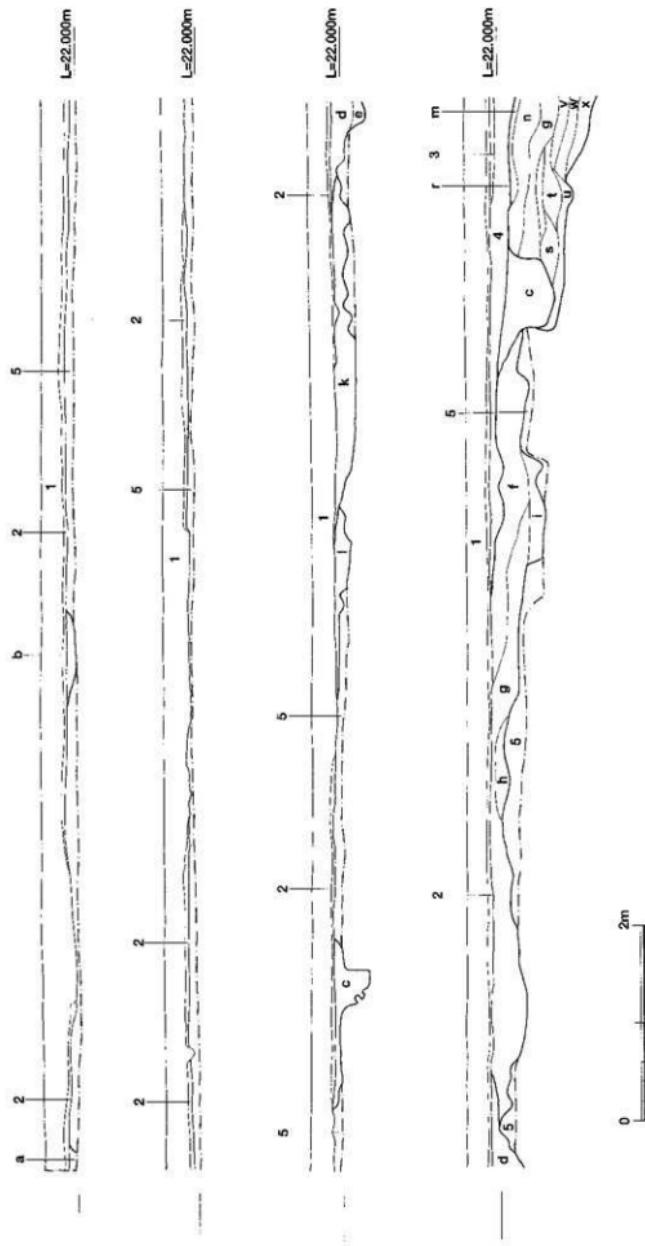
第13図 調査区東部西壁土層断面図(2)



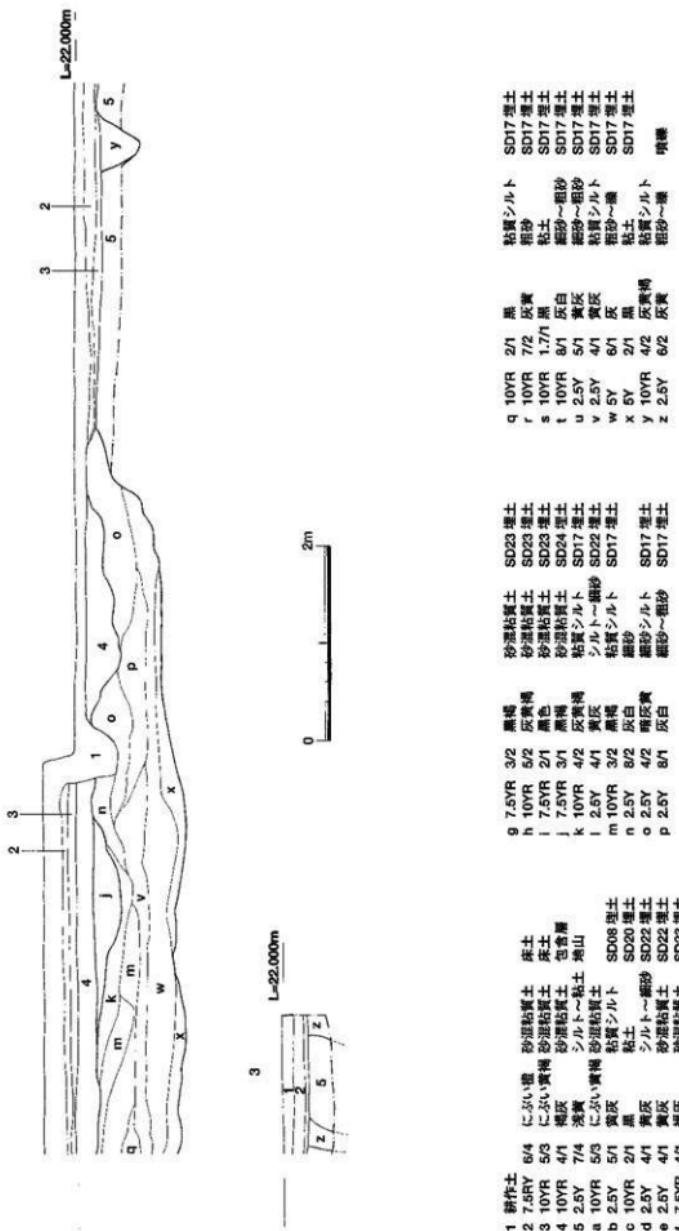
第14図 調査区南部北壁土壌断面図



第15図 調査区西部西壁土層断面図①



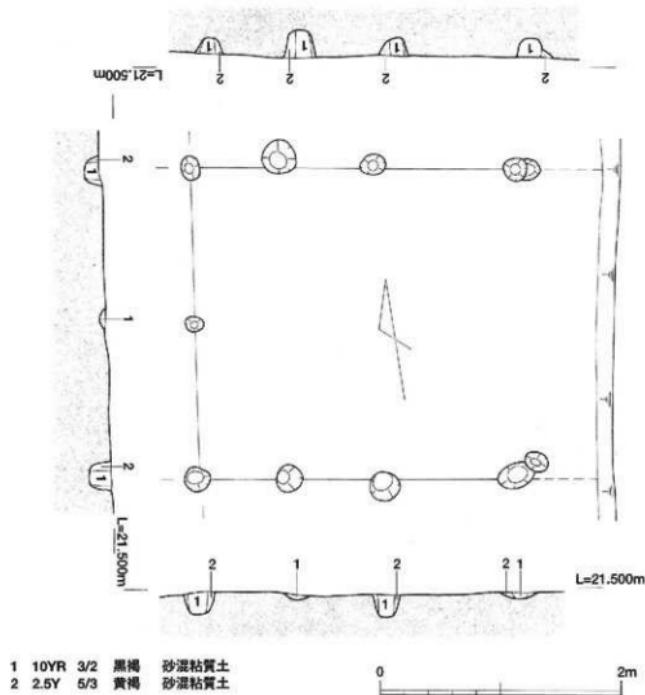
第16図 調査区西部西壁土層断面図②



第3節 遺構

SB1 (第17図)

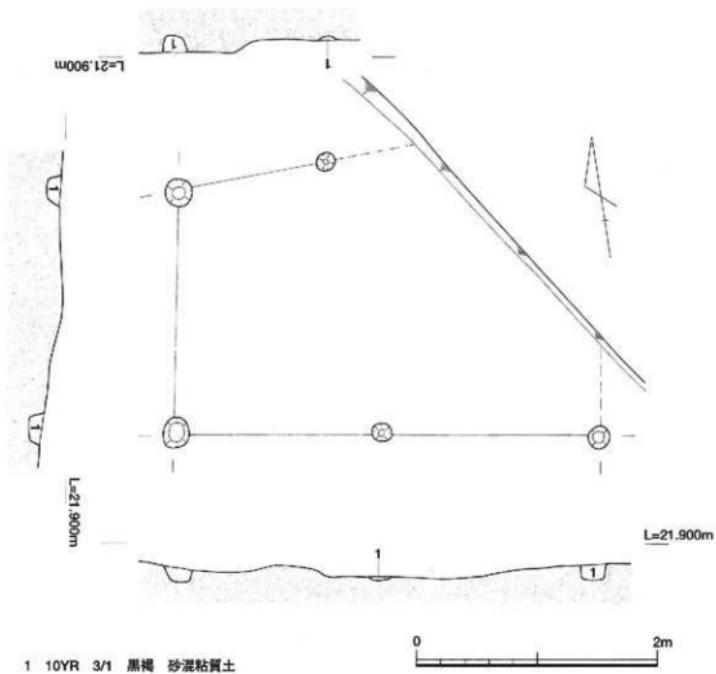
調査区北東端で検出した掘立柱建物である。南北2間(2.5m)、東西3間(2.9m)以上、床面積 7.25 m^2 以上で、建物主軸方位はN-80°-Wである。掘立柱建物を構成する柱穴は直径15~30cmの円形ないし梢円形を呈し、直径10~15cmの柱痕を検出した。いずれの柱穴も、柱痕埋土は黒褐色砂混粘質土で、掘方埋土は黄褐色砂混粘質土である。梁間の柱間は1.25mと均等であるのに対し、桁行は70cm~1.2mと不均衡である。いずれの柱穴からも遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、概ね条里地割に合致していることから、条里制施行以後の遺構と考えられる。



第17図 SB1平・断面図

SB2 (第18図)

調査区西部中央で検出した掘立柱建物である。南北1間(2m)、東西2間(3.5m)以上、床面積 7 m^2 以上で、建物主軸方位はN-80°-Wである。掘立柱建物を構成する柱穴は直径15~25cmの円形ないし梢円形を呈する。いずれの柱穴も、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。いずれの柱穴からも遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、弥生終末期の遺物をわずかに含むSD3・4の上面から掘り込んでおり、概ね条里地割に合致していることから、条里制施行以後の遺構と考えられる。



第18図 SB2平・断面図

SK1 (第19図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は瓢箪形を呈し、長辺 1.08 m、短辺 80cm、深さ 5cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK2 (第19図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長辺 2.2 m、短辺 66cm、深さ 7cm を測る。埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK3 (第19図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は橢円形を呈し、長辺 1.44 m、短辺 1.16m、深さ 5cm を測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK4 (第 19 図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長辺 1.26 m 以上、短辺 64cm、深さ 11cm を測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK5 (第 19 図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態はやや不整形ではあるが円形を呈し、長計 1.7m、短辺 1.6m、深さ 6cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK6 (第 19 図)

調査区北東部で検出した土坑である。東半が調査区外に延びるため平面形態は不明であるが、長辺 1m 以上、短辺 1m、深さ 6cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK7 (第 19 図)

調査区北東部で検出した土坑である。SK5・6 に切られているが、平面形態は梢円形を呈すると考えられ、長径 1.1m、短径 62cm、深さ 3cm を測る。埋土は暗褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK8 (第 20 図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は側溝の掘削によって西辺が不明であるが、やや不整形な長方形を呈すると考えられ、長辺 4.06 m、短辺 1.9cm、深さ 8cm を測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層であるが、全体に焼土を含んでいた。断面形状は浅いレンズ状の堆積である。

遺構の床面直上で、遺物が出土しており、第 20 図に掲載した。1・2 は弥生土器の甕である。外面はマツのため調整不明であるが、内面は縦方向に板ナデが施されている。3・4 は弥生土器の壺の体部である。3 は外面部ナデ、内面指頭圧のちヨコハケで、外面に櫛原体による列点文が施されている。4 は外面部ナデのち体部最大径部分のみヨコヘラミガキを施しており、内面指頭圧である。5 は弥生土器の壺の頸部である。直立する頸部最下段に押圧突帯を 1 条巡らせている。外面粗いタテハケ、内面指頭圧である。6 は弥生土器の広口壺である。外面粗いタテハケのち体部最大径付近のみヨコヘラミガキ、内面タテハケのち指頭ナデである。S1 はサクカイト製の削器である。剥片の背部を調整しただけのものである。出土遺物から弥生中期中葉の遺構と考えられる。

SK9 (第 21 図)

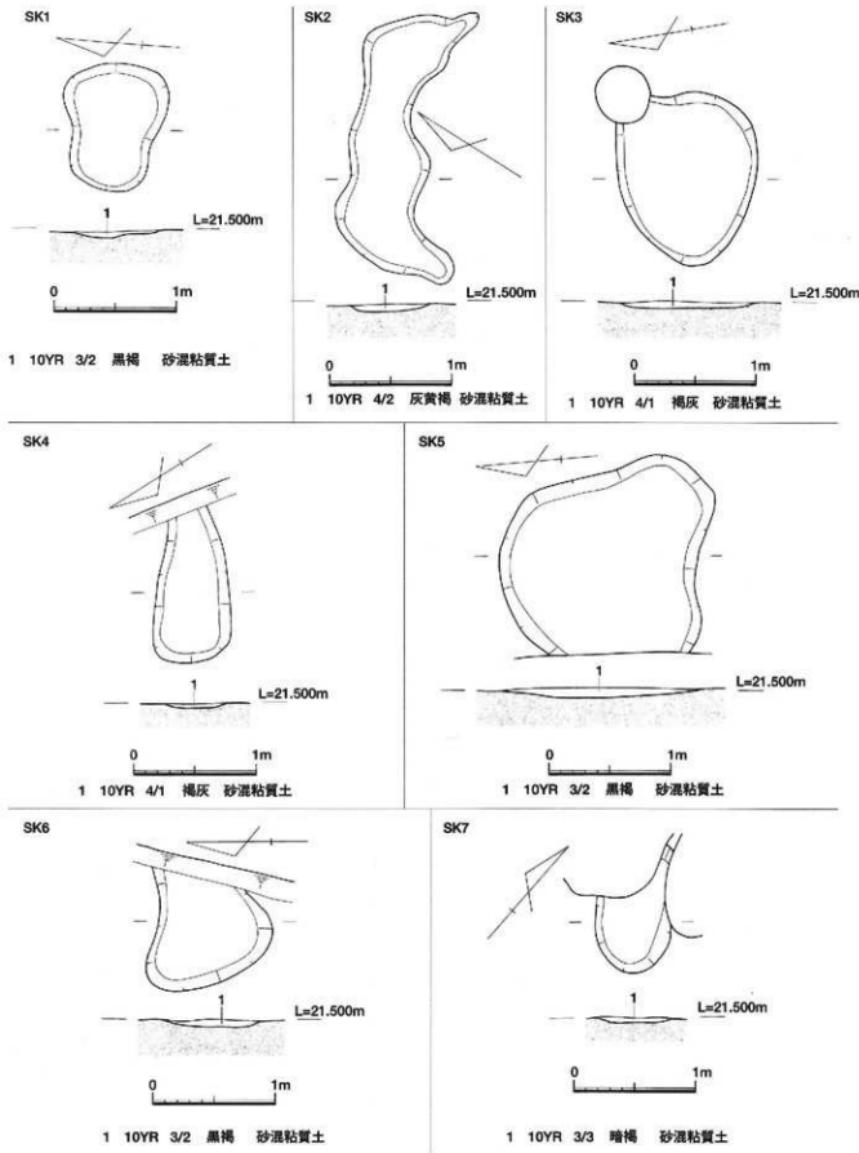
調査区北東部で検出した土坑である。東辺が調査区外に延びるが、平面形態は方形を呈すると考えられ、長辺 1.54m 以上、短辺 1.52m、深さ 3cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。土坑の床面において SP34・35・36 の 3 基のピットを検出した。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK10 (第 21 図)

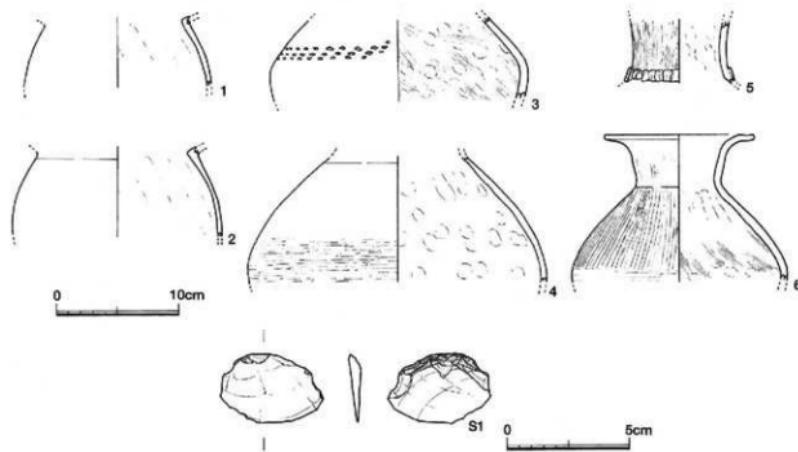
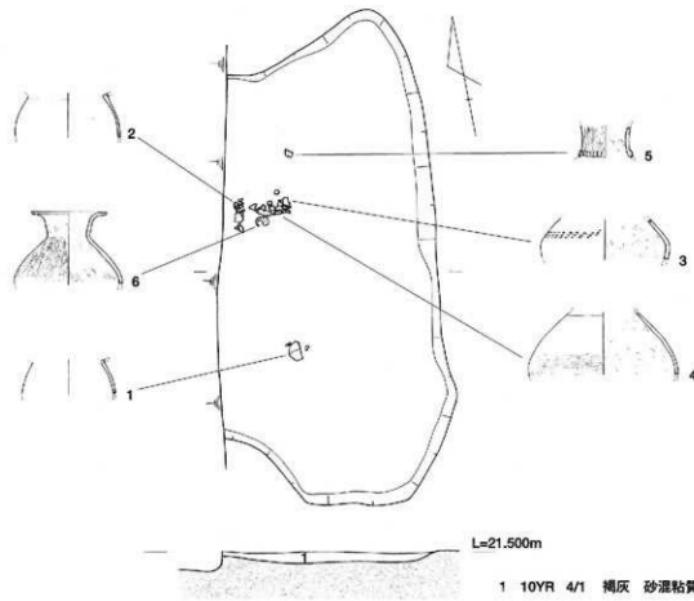
調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は梢円形を呈し、長径 2.26 m、短径 1.5m、深さ 8cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK11 (第 21 図)

調査区北東部で検出した土坑である。東半が調査区外に延びるため平面形態は不明であるが、長辺 2.36 m 以上、短辺 94cm 以上、深さ 3cm を測る。埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第19図 檜出土坑平・断面図①



第20図 SK8 平・断面図及び出土遺物実測図

SK12 (第21図)

調査区北東部で検出した土坑である。東辺が調査区外に延びるが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、長辺1.8m、短辺1.6m以上、深さ11cmを測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK13 (第21図)

調査区北東部で検出した土坑である。東半が調査区外に延びるが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、長辺90cm以上、短辺80cm、深さ10cmを測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅い逆台形を呈する。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK14 (第21図)

調査区東部中央で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し、長径64cm、短径60cm、深さ2cmを測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK15 (第21図)

調査区東部中央で検出した土坑である。SD8・9に切られており、平面形態は不明であるが、長辺1.12m、短辺60cm以上、深さ15cmを測る。埋土は褐灰色シルトの単層で、断面形状はレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK16 (第22図)

調査区東部中央で検出した土坑である。SD9・10に切られており、平面形態は不明であるが、長辺2.62m、短辺1.4m以上、深さ5cmを測る。埋土は暗灰黄色砂混粘質土の単層で、断面形状はレンズ状の堆積であるが、東半がやや深くなっている。

出土遺物は第22図7の弥生土器の甌1点だけである。外面タテハケ、内面指頭圧である。古墳時代の溝SD9・10に切られており、弥生終末期の遺構と考えられる。

SK17 (第23図)

調査区南東部で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈し、長辺1.1m、短辺62cm、深さ2cmを測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK18 (第23図)

調査区南部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長辺1.28m、短辺92cm、深さ29cmを測る。埋土は灰白色砂混粘質土の単層で、断面形状はU字である。遺物は出土しておらず、時期は不明であるが、近世の溝であるSD5の埋土と似ることから、近世以降の遺構の可能性が考えられる。

SK19 (第23図)

調査区南西部で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈し、長辺1.02m、短辺48cm、深さ18cmを測る。埋土は灰褐色砂混粘質土の単層で、断面形状はU字である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

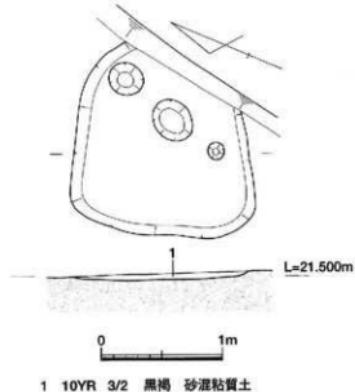
SK20 (第23図)

調査区西部中央で検出した土坑である。SD17に切られており、平面形態は不明であるが、長辺90cm以上、短辺88cm、深さ5cmを測る。埋土は黄褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

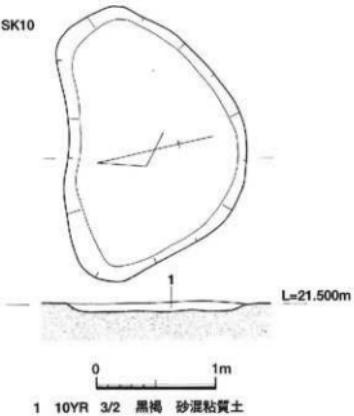
SP1 (第24図)

調査区北東端で検出したピットである。東半が調査区外に延びるため、平面形態は不明であるが、長辺70cm、短辺30cm以上、深さ22cmを測る。埋土は黄褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は逆台形である。

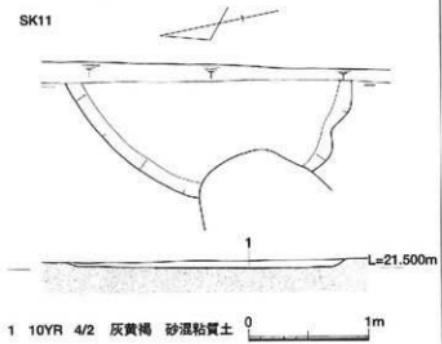
SK9



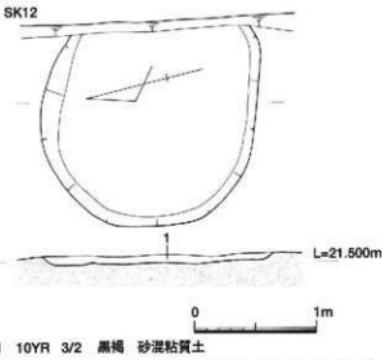
SK10



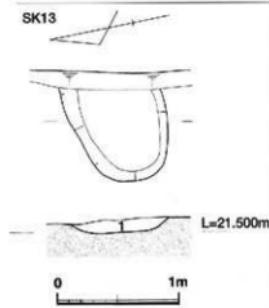
SK11



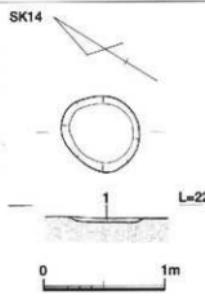
SK12



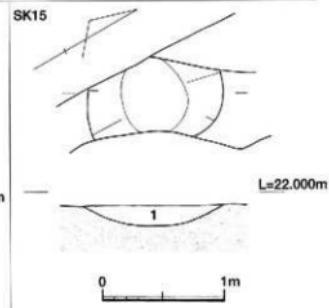
SK13



SK14



SK15

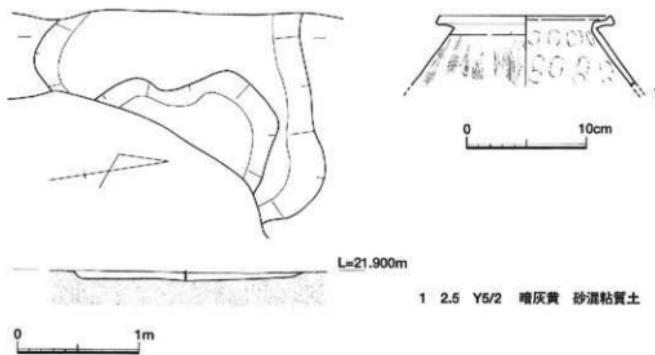


1 10YR 3/2 黒褐 砂混粘質土

1 10YR 4/1 暗灰 砂混粘質土

1 10YR 5/1 暗灰 粘質シルト

第21図 検出土坑平・断面図②



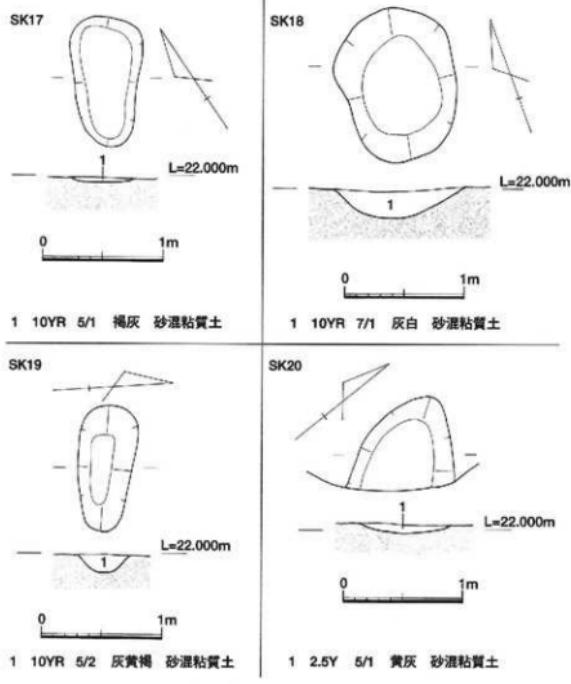
第22図 SK16平・断面図及び出土遺物実測図

出土遺物は第24図に掲載した。8は弥生土器の壺である。外面ナデのち下半のみヘラミガキ、内面指頭圧のちヨコハケである。体部外面には波状の列点文を2列巡らせている。9は弥生土器の壺の口縁部である。内外面ともナデである。10は弥生土器の底部である。外面タテヘラミガキ、内面タテハケである。底面は板ナデ状の幅広いミガキが施されている。S2はサヌカイトの剥片である。出土遺物から弥生中期の遺構と考えられる。

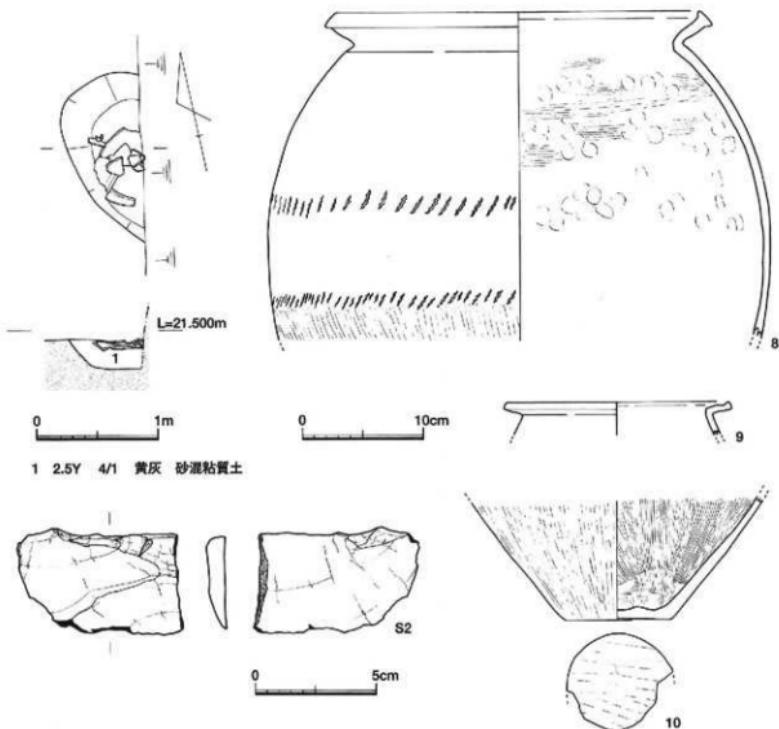
SP15 (第25図)

調査区北東部で検出したピットである。平面形態は円形を呈し、長径52cm、短径50cm、深さ29cmを測る。埋土は黄灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は逆台形である。

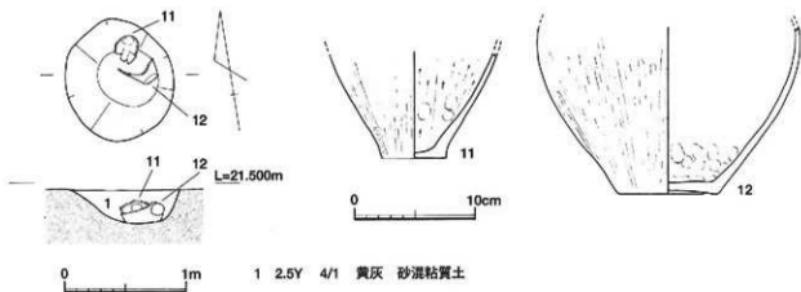
出土遺物は第25図に掲載した。11は弥生土器の底部で、外面タテヘラミガキ、内面指頭圧のちタテヘラケグリである。12も弥生土器の底部で、外面タテヘラミガキ、内面指頭圧である。出土遺物から弥生中期の遺構と考えられる。



第23図 検出土坑平・断面図③



第24図 SP1 平・断面図及び出土遺物実測図



第25図 SP15 平・断面図及び出土遺物実測図

SD1 (第 26 図)

調査区東部中央で検出した溝である。幅 1.98m, 検出長 4.8m, 深さ 10cm を測る。埋土は黒色粘土の単層で、断面形状は逆台形である。

出土遺物は第 26 図 13 の弥生土器広口壺の頸部だけである。外面タテハケ、内面指頭圧で、内面に接合痕が残る。弥生終末期の遺物である。

SD2 (第 27 図)

調査区東部中央で検出した溝である。幅 1.2m, 検出長 3.38m, 深さ 50cm を測る。埋土は 7 層に分層でき、断面形状は U 字である。第 1 層は灰黄褐色砂混粘質土で、上層とした。第 2 層は灰黄褐色粗砂、第 3 層は黄灰色粗砂、第 4・第 5 層は褐灰色砂混粘質土、第 6 層は黄灰色粗砂となっており、概ね砂層が続くことから中層とした。第 7 層は黒褐色砂混粘質土で、下層とした。

遺物は主に下層から出土しており、第 27 図に掲載した。14 は弥生土器の底部である。15 は弥生土器の高杯の脚部である。外面ナデ、内面ヨコヘラケズリである。いずれも弥生終末期の遺物である。

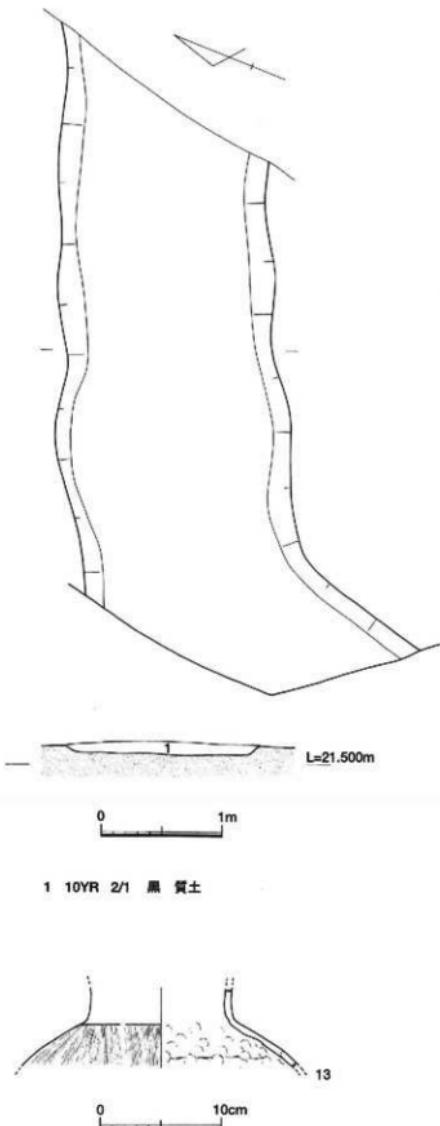
SD3・4 (第 28 図)

調査区東部中央で検出した溝で、2 本の溝が合流している。SD3 は幅 2.2m, 深さ 23cm, SD4 は幅 1.12m, 深さ 14cm を測る。SD3 の埋土は 2 層に分層でき、上層は褐灰色砂混粘質土、下層は黒色粘質土で、下層は SD4 の埋土と同じである。SD3 からわずかに弥生土器の小片が出土している。

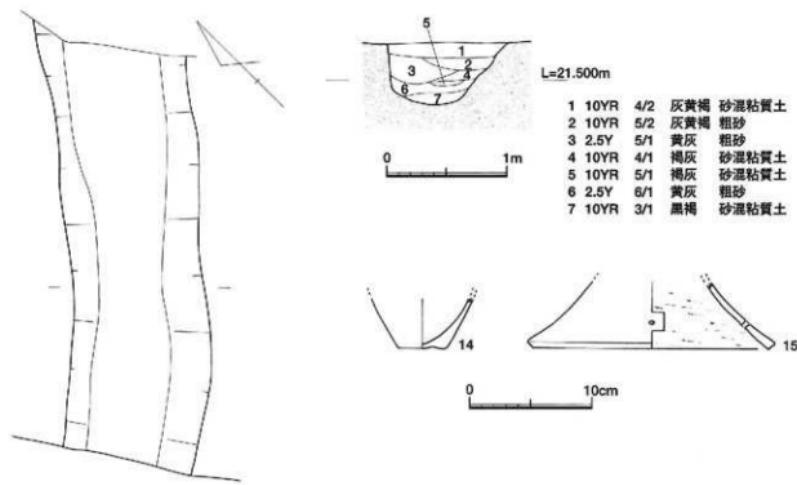
SD5 (第 6 ~ 8・29 図)

調査区の東部と南部で検出した溝である。東肩は調査区外であり、規模は不明である。埋土はにぶい黄橙色砂混粘質土で、深さ 35cm を測る。出土遺物は図示しなかつたが、肥前系磁器の端反碗があり、19 世紀以降の溝と考えられる。

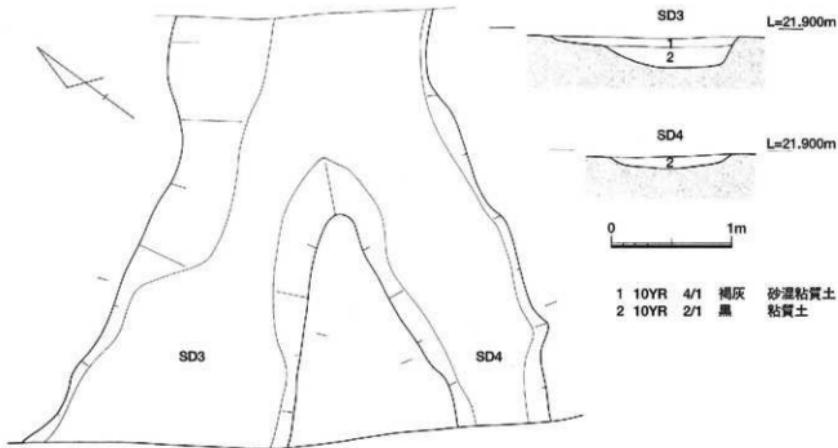
SD5 は条里地割に合致しており、香川郡の 1 条と 2 条の条界にある。平成 7 年度の調査地（松林遺跡（通学路））においても、SD5 の延長部分において SD102 を検出している。SD102 は 9 ~ 14 世紀の溝と考えられ、SD5 とは時期的な隔たりがある。SD5 の東側には現在の水路が所在し、平成 7 年度調査地の南側において東へ屈曲し



第 26 図 SD1 平・断面図及び出土遺物実測図



第27図 SD2 平・断面図及び出土遺物実測図



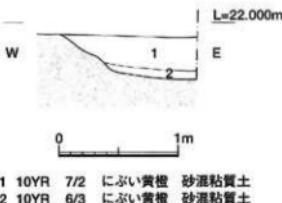
第28図 SD3・SD4 平・断面図

ている。この水路に平行して 18 世紀の遺物を含んだ SD105 を検出していることから、SD5 は SD105 につながるものと考えられる。

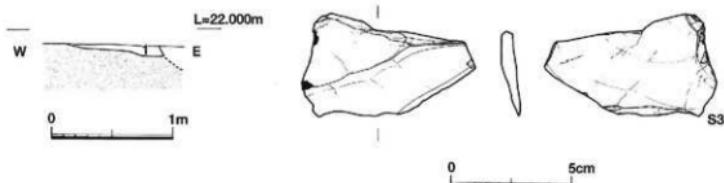
SD6 (第 7・30 図)

調査区東部中央で検出した溝である。SD5・8・9 に切られしており、規模は不明である。埋土は黄灰色砂混粘質土の単層で、深さ 10cm を測る。

出土遺物は第 30 図 S3 のサスカイトの剥片 1 点だけである。古墳時代の溝 SD 9 に切られており、古墳時代以前の溝と考えられる。



第 29 図 SD5 断面図



第 30 図 SD6 断面図及び出土遺物実測図

SD7 (第 31 図)

調査区東部中央で検出した溝である。SD6 に切られており、幅 60cm、検出長 2.54m、深さ 10cm を測る。埋土は黄灰色粘質シルトの単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無いが、SD6 に切られており、古墳時代以前の溝と考えられる。

SD8 (第 32 図)

調査区東部中央で検出した溝である。幅 66cm、検出長 5.2 m、深さ 10cm を測る。埋土は黒色粘質土の単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

SD9 (第 7・33 図)

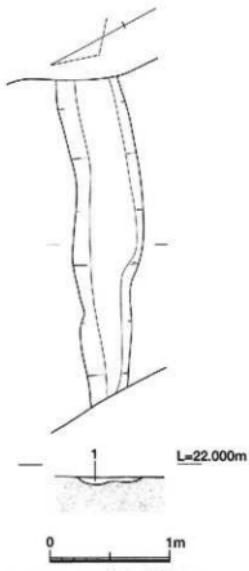
調査区東部中央で検出した溝である。幅 2m、検出長 13m、深さ 16cm を測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅い U 字である。

出土遺物は第 33 図に掲載した。16 は須恵器の壺である。外面平行タタキのちカキ目、内面同心円のあて具痕が見られる。17 は弥生土器の底部で、底面に線刻が施されている。須恵器壺から 7 世紀頃の遺構と考えられる。

SD10 (第 7・8・34 図)

調査区南東部で検出した溝である。幅 3.6m、検出長 17.44 m、深さ 42cm を測る。埋土は 2 層に分層でき、上層は褐色の粘土ブロックを含む黒褐灰色砂混粘質土、下層は黄灰色粘質シルトである。断面形状は浅い U 字である。

出土遺物は第 34 図に掲載した。18～24 は弥生土器であ



第 31 図 SD7 平・断面図

る。18は高杯で、外面ヨコヘラケズリである。19・20は甕である。20の外面はタタキ、内面はタテヘラケズリである。21～24は底部である。24の外面はタテヘラミガキ、内面タテヘラケズリである。25は土師器の甕である。26は須恵器の蓋である。外面の回転ヘラケズリの範囲はわずかである。27は須恵器の坏である。28は須恵器の高杯脚柱部で、沈線を1条めぐらせてている。弥生終末期の遺物を多く含むが、須恵器から7世紀中葉の遺構と考えられる。

SD11（第8・35図）

調査区南東部で検出した溝である。幅2.4m、検出長9.64m、深さ17cmを測る。埋土は黒褐色砂混粘質土で、断面形状は浅いU字である。

出土遺物は第35図29の弥生土器の広口壺の口縁1点だけである。内面に突帯1条を巡らせている。弥生中期の遺物である。

SD12（第36図）

調査区南東部で検出した溝で、SD11に切られている。幅56cm、検出長4m、深さ17cmを測る。埋土は褐灰色粘質シルトの単層で、断面形状は浅いU字である。出土遺物は弥生土器の小片とサヌカイトの剥片1点があるが、時期は不明である。

SD13（第36図）

調査区南部で検出した溝である。幅42cm、検出長3.5m、深さ4cmを測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いU字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

SD14（第36図）

調査区南部で検出した溝である。幅40cm、検出長3m、深さ5cmを測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いU字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

SD15（第37図）

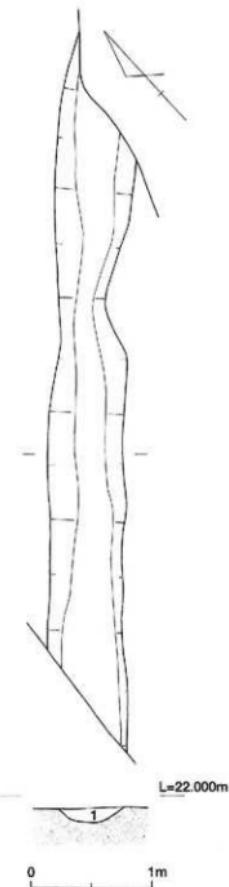
調査区南部で検出した溝である。幅1.46m、検出長3.2m、深さ70cmを測る。埋土は4層に分層でき、第1層は褐灰色砂混粘質土、第2層は灰黄褐色粗砂、第3層は褐灰色粗砂、第4層は黒褐色砂混粘質土である。断面形状はU字を呈するが、西肩の落ち込みは急である。上層と下層に砂混粘質土、中層に粗砂層が見られることと、溝の方位からSD2につながる可能性が高い。弥生土器の小片が数点出土しただけで、時期は不明である。

SD16（第37図）

調査区南部で検出した溝である。幅42cm、検出長2.84m、深さ10cmを測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いU字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

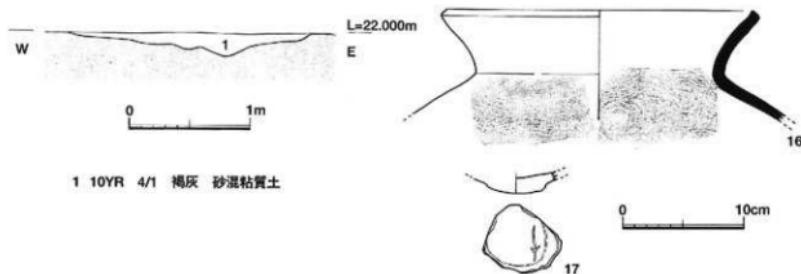
SD17（第38～52図）

調査区西部で検出した溝である。幅4.9m、検出長58m、深さ80cmを測る。断面図は3箇所で作成しており、上・中・下の3層に大別できる。上層は褐灰色～灰黄褐色の砂混粘質土である。中層は灰白～黄灰色のシルト～砂層で、一部黒色粘土層が見られる。下層は褐

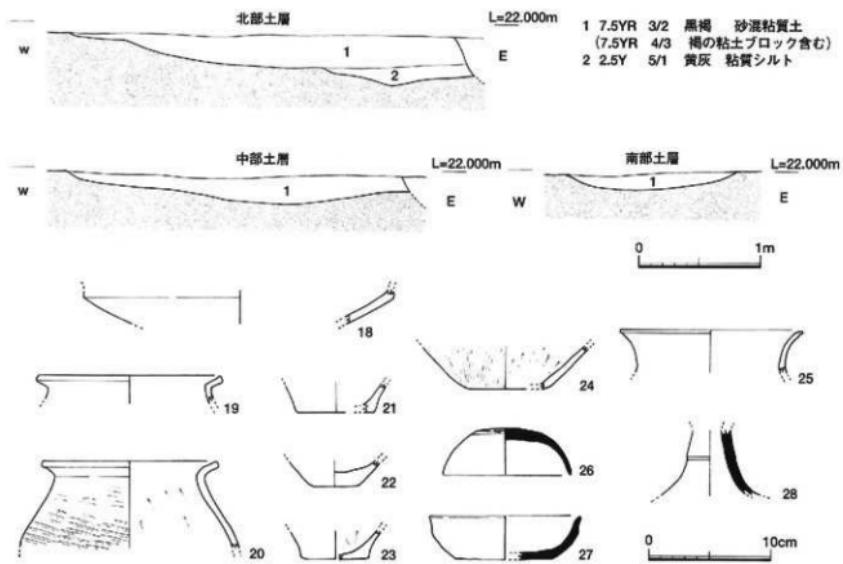


1 2.5Y 2/1 黒 粘質土

第32図 SD8 平・断面図



第33図 SD9 平・断面図及び出土遺物実測図

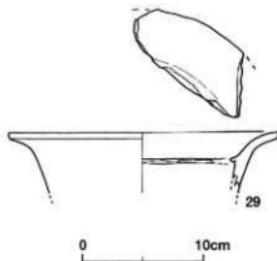


第34図 SD10 断面図及び出土遺物実測図

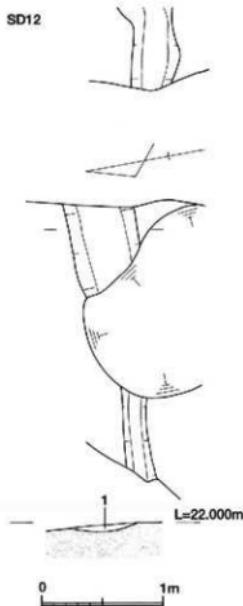


0 1m

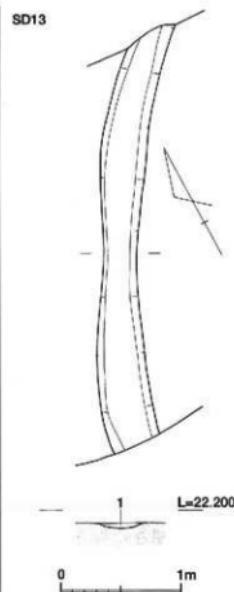
1 10YR 3/2 黒褐 砂混粘質土



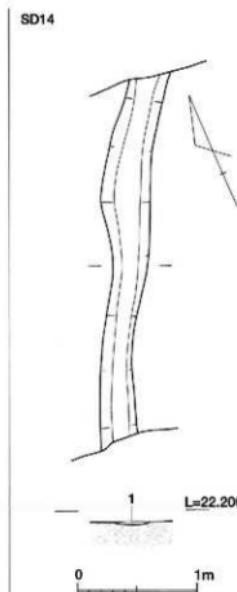
第35図 SD11断面図及び出土遺物実測図



1 10YR 4/1 暗灰 粘質シルト

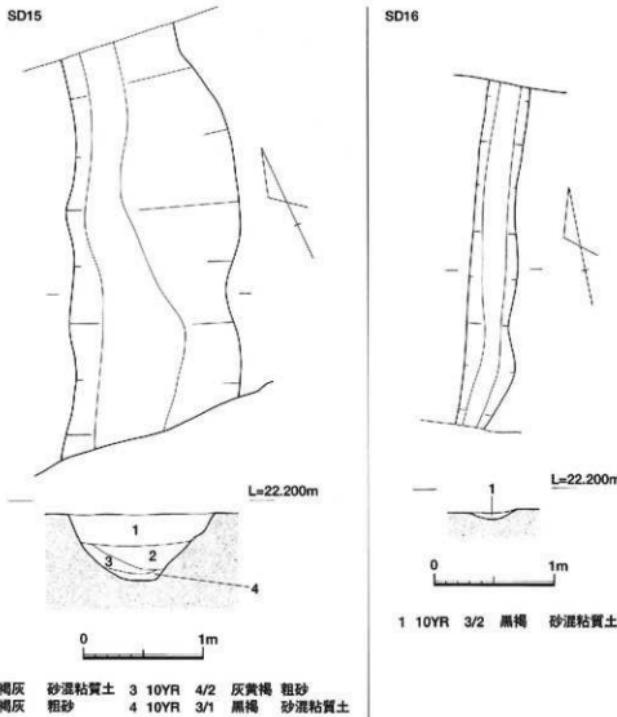


1 10YR 4/1 暗灰 砂混粘質土



1 10YR 4/1 暗灰 砂混粘質土

第36図 検出溝平・断面図①



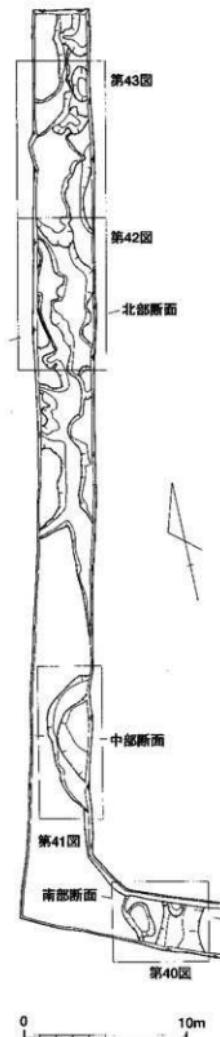
第37図 検出溝平・断面図②

灰～黄灰色の粗砂～礫層である。溝の規模・方位から多肥松林遺跡（県道）I区 SD03 から流れ込み、松林遺跡（通学路）SD201 に続くものと考えられる。

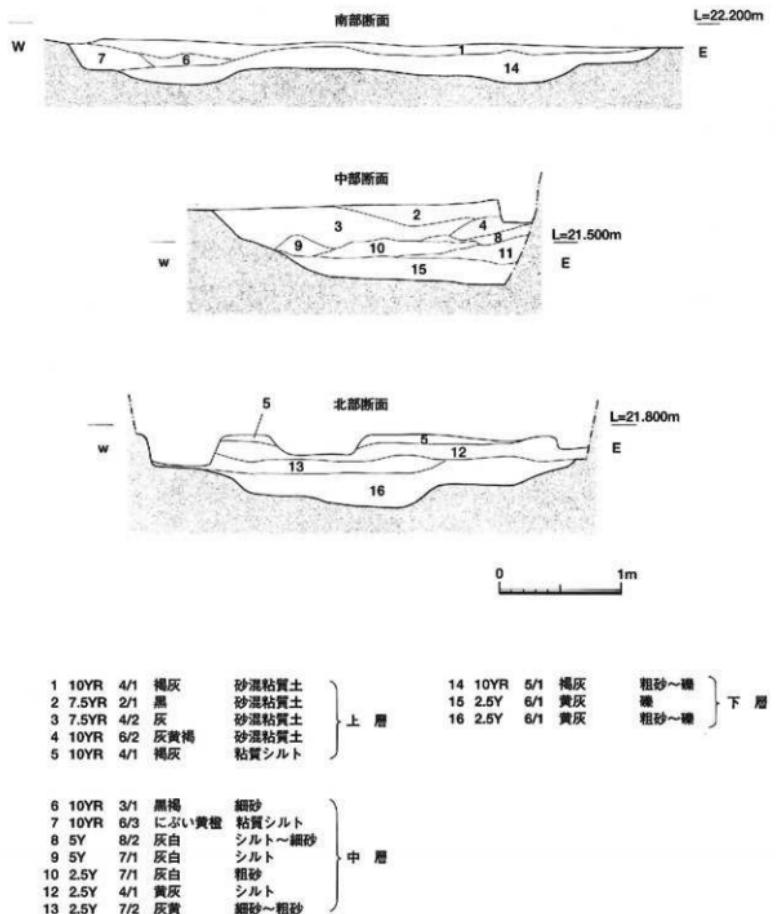
出土遺物は第44～52図に掲載した。第44・45図は上層出土遺物である。30～63は弥生土器である。30・31は弥生中期の壺で、口縁端部をやや拡張させ、凹線2条が施されている。30は口縁端部に刻目と頸部に押圧突帯が施されている。32～35は弥生終末期の壺の口縁部である。外面タテハケ、内面指頭圧である。36は弥生終末期の壺の体部上半で、外面タテハケ、内面指頭圧である。体部には焼成後の穿孔が見られる。37も弥生終末期の壺の体部上半である。外面タテハケのち指頭圧、内面タテヘラケズリのち指頭圧で、頸部の一部にヨコハケが見られる。38は弥生終末期の細頸壺の頸部である。外面タテハケ、内面指頭圧である。39は弥生終末期の複合口縁壺である。40～42は弥生終末期の広口壺である。43～50は弥生終末期の高杯で、脚部内面はヨコヘラケズリである。51は弥生中期の鉢で、口縁部に凹線2条を巡らせている。52は弥生終末期の製塙土器である。53は弥生終末期の小型丸底土器である。54は弥生終末期の鉢である。55～63は底部である。56・57には焼成前の穿孔が見られる。64～66は土器器である。64・65は古墳時代前期の高杯脚部で、内面ヨコヘラケズリである。64の脚柱部には焼成後の穿孔が見られる。66は古墳時代後期の壺である。67～69は須恵器である。67は古墳時代後期の壺で、外面平行タタキのちカキ目である。68・69はそれぞれ古墳時代後期の蓋と壺である。サヌカイト製の石器も見られ、S4は石鎚、S5は石錐である。

第46・47図は中層出土遺物である。70～121は弥生土器である。70～78は弥生終末期の壺である。79は弥生中期の広口壺である。80～82は弥生終末期の広口壺である。83は弥生終末期の長頸壺である。外面タケハケ、内面指頭圧である。84～87は弥生終末期の広口壺で、内面指頭圧である。88は弥生終末期の複合11縁壺である。89～96は弥生終末期の高杯である。89・90は脚部で、外面タテヘラミガキ、内面ヨコヘラケズリである。89は円形スカシが3方向2段に見られ、そのうち、下段の1箇所は2個1対となっている。92～96は壺部である。92が比較的残りがよく、外面ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、内面分割ヘラミガキである。97・98は弥生終末期の高杯または大型鉢である。外面はヨコヘラケズリである。99は弥生終末期の鉢である。100は弥生終末期の小型丸底土器である。101～121は底部である。102～107のように内面タテヘラケズリを施すものが多いが、111～113のように板ナデのものも見られる。122～125は土師器である。122は古墳時代前半の甕である。123・124は古墳時代後期の甕である。125は古墳時代前期の高杯である。外面縦方向の板ナデ、内面ヨコヘラケズリのち裾部のみヨコハケである。126・127は古墳時代後期の須恵器の蓋と杯である。石器ではS6のサヌカイト製石獣が出土している。

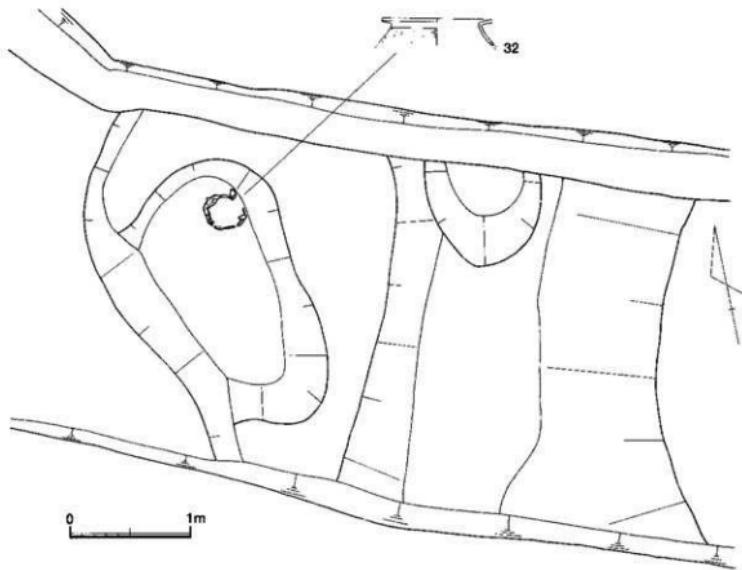
第48～52図は下層出土遺物である。128～213は弥生土器である。128～130は弥生中期の甕である。128・129は口縁部を拡張させ、端部に凹線2条を施したものである。131～149は弥生終末期の甕である。内面上半指頭圧のものが多い。147は山陰系の甕で、内面ヨコヘラケズリである。148は胎土に5mm程度の大粒の結晶片岩が含まれており、阿波（吉野川上流域）の甕である。149は外面タタキのち下半のみナデ、内面タテヘラケズリのち指頭圧で、上半部には接合痕が多く残る。150～154は弥生中期の広口壺である。150は11縁部外間に凹線2条を施している。151は頸部で、外面に突帯2条を巡らせている。152は口縁部に凹線4条巡らしたのち凹形浮文を貼り付けている。また、11縁部内面には波状文が施されている。153も口縁部に凹線4条を施したのち棒状浮文を貼り付けている。154は口縁部に指頭圧の圧痕が見られる。凹形浮文が剥がれ落ちた可能性が考えられる。155～162は弥生終末期の広口壺である。口縁部を水平気味に開き、頸部は垂直または内傾する。163は弥生終末期の細頸甕である。外面タテハケ、内面ヨコハケのち指頭圧である。164～166は弥生中期の高杯である。口縁部外間に凹線2条を巡らせている。164は11縁部を拡張させ、上面にも凹線2条を施している。167～184は弥生終末期の高杯である。167は11縁部が外方へ屈曲している。168は口縁部が長い。169～175は11縁部内面に凹線状の瘤みが見られるもので、外面ヨコヘラケズリである。176は169～175の環部分であり、外面ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、内面分割ヘラミガキである。脚部内面はヨコヘラケズリである。177は脚柱部で、内面指頭圧である。179は壺部から大きく聞く脚部をもつものである。179・180は脚柱部がほぼ垂直で、裾部が外方へ聞くもので、180の裾部には円形スカシが4方向に施されている。181～184は裾部である。いずれも内面ヨコヘラケズリで、円形スカシが施されている。185・186は弥生終末期の鉢である。185は外面タタキである。186は11縁部が外方へ聞くもので、内面ヨコヘラケズリのちナデである。187～188は弥生終末期の小型丸底土器である。190・191は弥生終末期の大型鉢で、外面ヨコヘラケズリである。192～213は底部である。192～194



第38図 SD17平面図



第39図 SD17断面図



第40図 SD17 土器出土状況図①

は外面タテヘラミガキ、内面タテヘラケズリである。195～198は内面がタテヘラケズリのもので、199～206は内面が指頭圧のものである。213は丸底であり、内面はタテヘラケズリである。214～223は土師器である。214は古墳時代後期の土師器の壺である。215～218は古墳時代後期の壺である。218は接合痕を多く残し、外面指頭圧、内面板ナデで非常に粗いつくりである。219～223は古墳時代前期の高杯である。ややふくらみを持った脚柱部から水平気味に外へ広がる裾部を持ち、内面はヨコヘラケズリである。224・225は古墳時代後期の須恵器の蓋である。226は時期不明の土製品である。上方に短い突起と左右に長い突起をもつ。突起の整形はケズリで行われている。S7は平基式の石籬である。W1・W2はミカン削材である。W3～W6は板材で、W3の片面は焼け焦げ、炭になっている。W7は棒状の木材である。加工痕などは観察できなかつたが、柄または弓の可能性がある。出土遺物は弥生中期から古墳後期のものが混在している。最終埋没は7世紀前半頃と考えられる。

SD18（第53図）

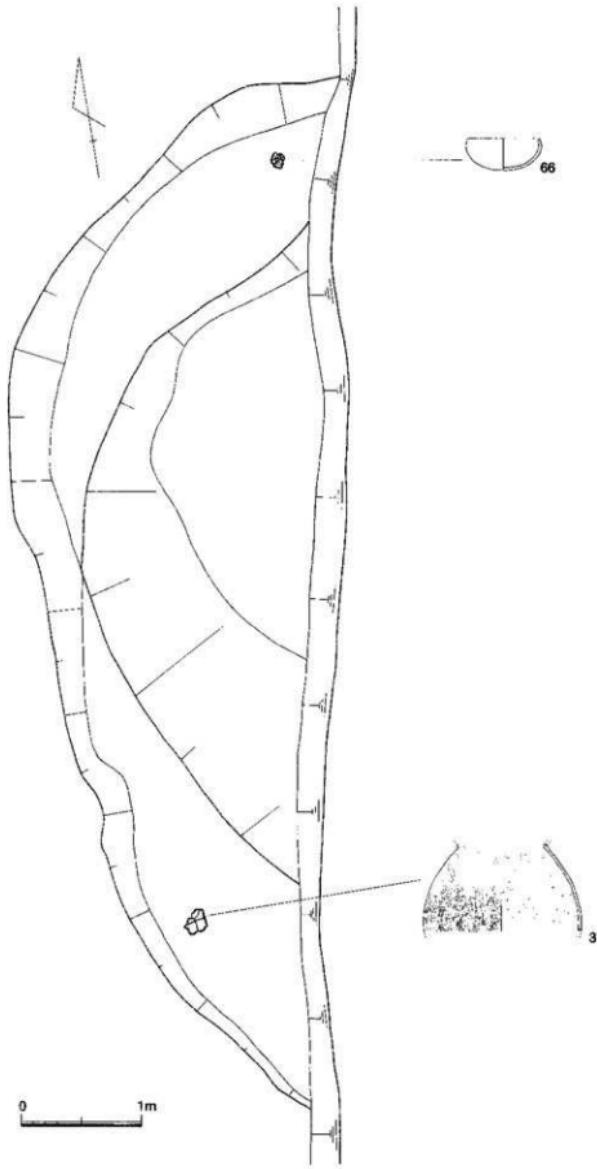
調査区南西部で検出した溝である。幅46cm、検出長2.8m、深さ4cmを測る。埋土は黄灰色粘質シルトの単層で、断面形状は浅いU字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

SD19（第53図）

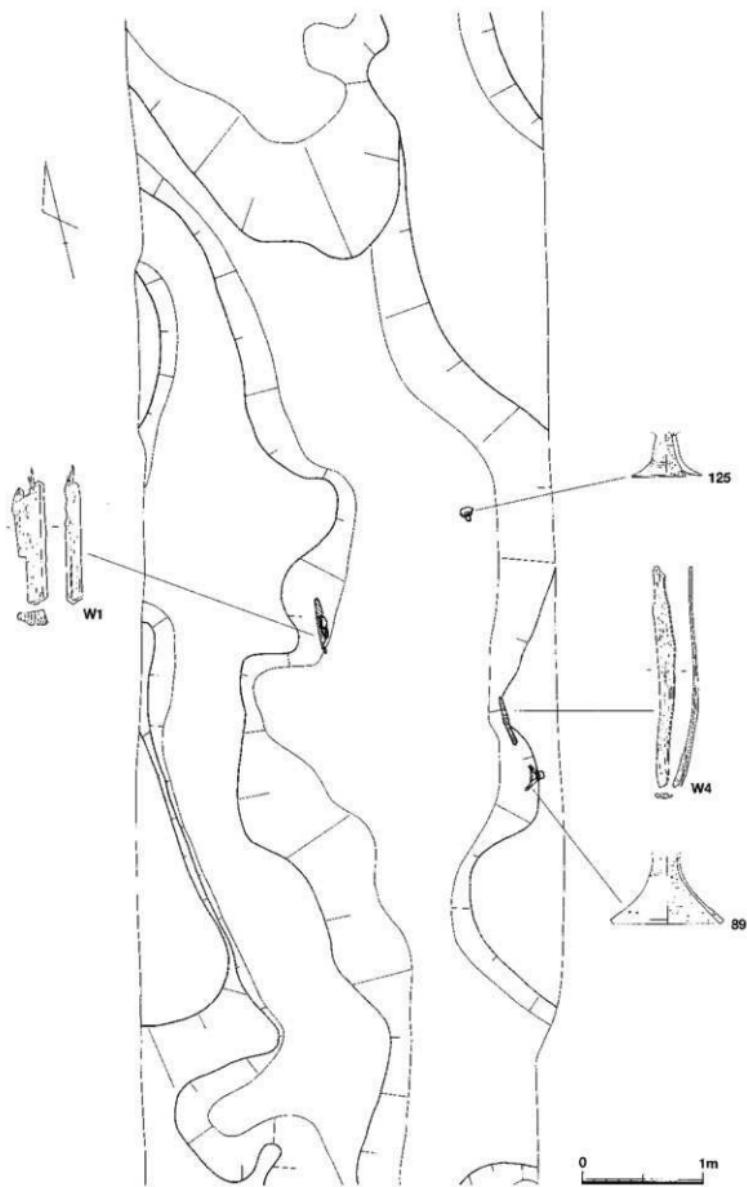
調査区西部でSD17に切られた状態で検出した溝である。幅36cm、検出長1.24m、深さ4cmを測る。埋土は黄灰色砂粘質土の単層で、断面形状は浅いU字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

SD20（第10・11・54図）

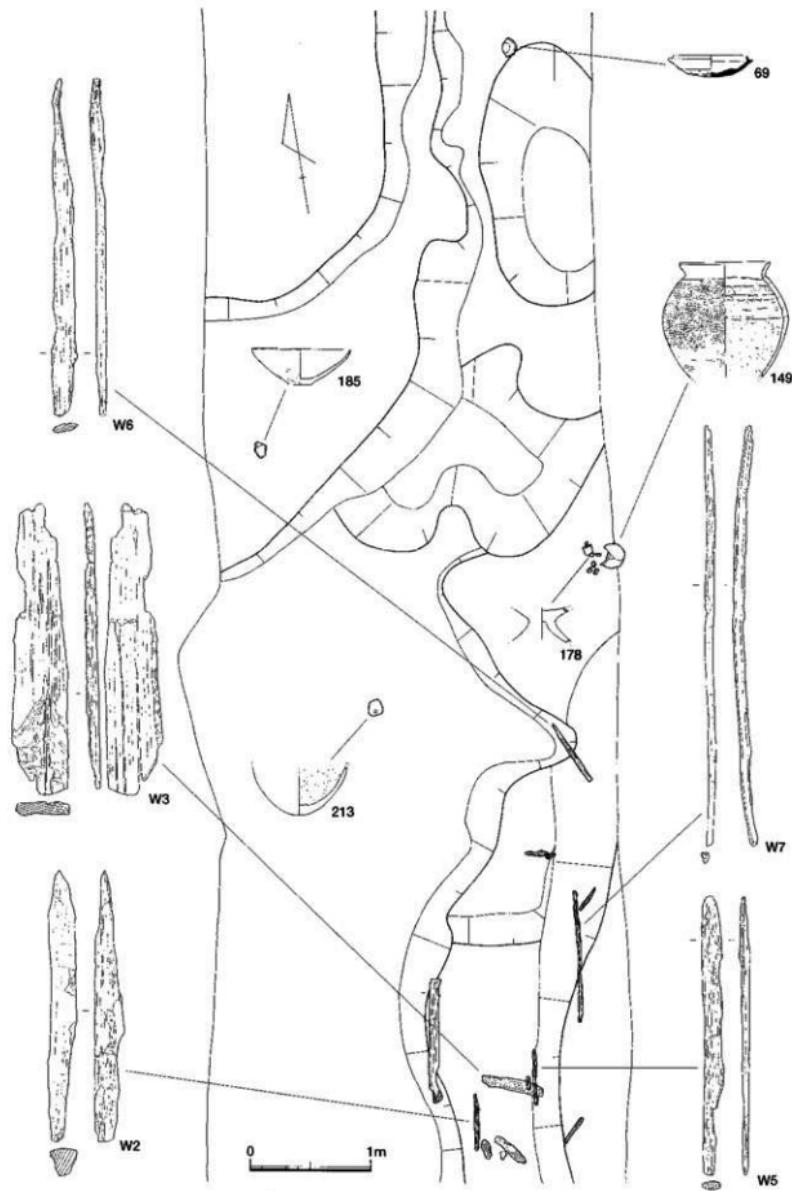
調査区西部で検出した溝である。幅1.6m、検出長27.4m、深さ25cmを測る。埋土は黒色粘土の単層で、断面形状は逆台形である。



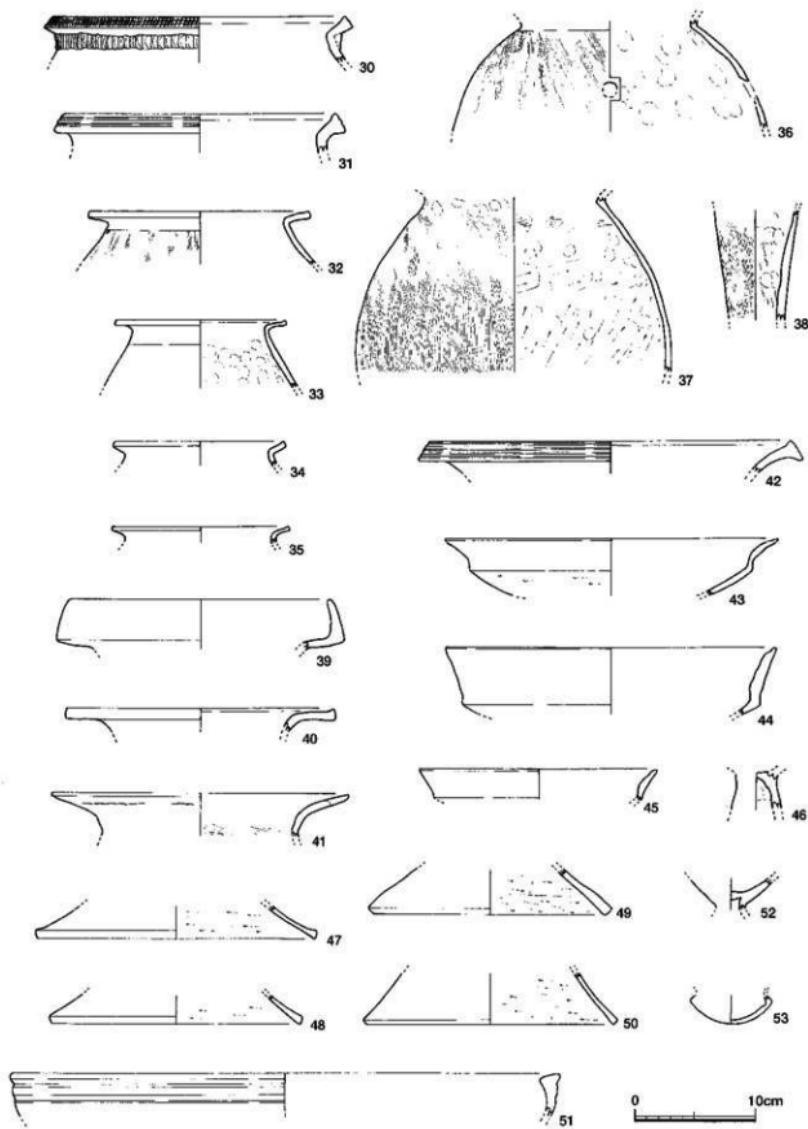
第41図 SD17 土器出土状況図②



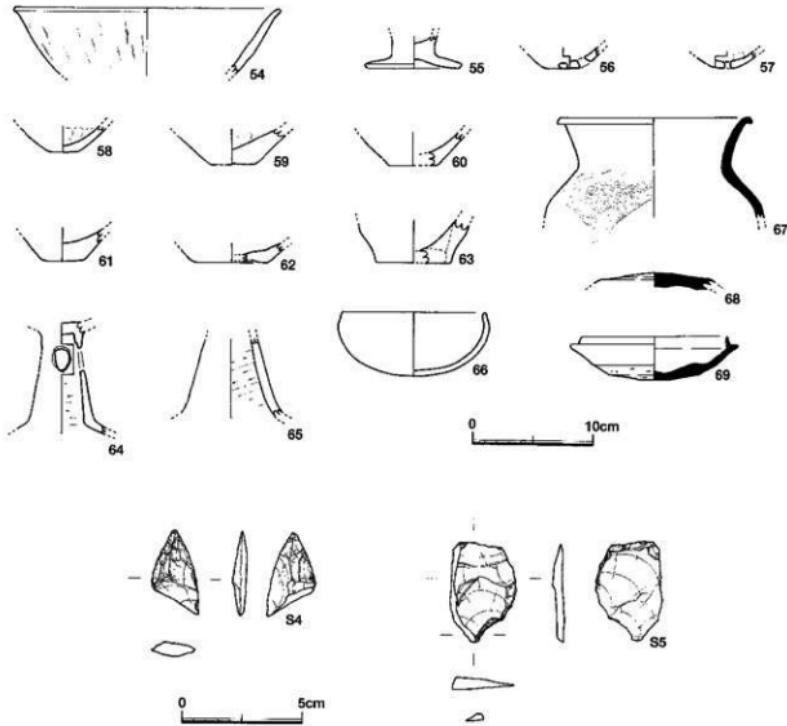
第42図 SD17 土器出土状況図③



第43図 SD17 土器出土状況図④



第44図 SD17上層出土遺物実測図①



第45図 SD17 上層出土遺物実測図②

出土遺物は第54図に掲載した。227は土師器の高杯脚部、228は弥生土器の底部で、いずれも混入品と考えられる。229は須恵器の蓋である。SD17を切っており、須恵器の蓋が出土していることから7世紀前半の造構と考えられる。

SD21（第53図）

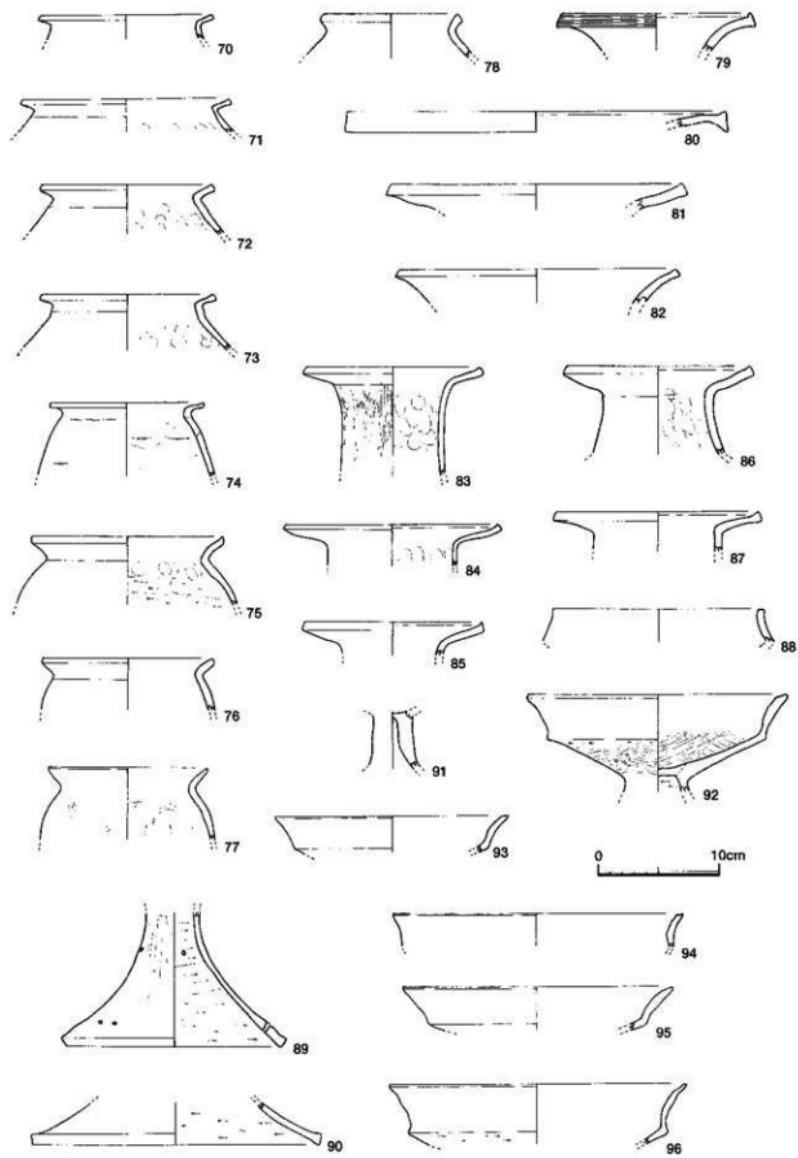
調査区西部でSD17に切られた状態で検出した溝である。幅40cm、検出長1.44m、深さ8cmを測る。埋土は黄灰色粘質シルトの単層で、断面形状は浅いU字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

SD22（第53図）

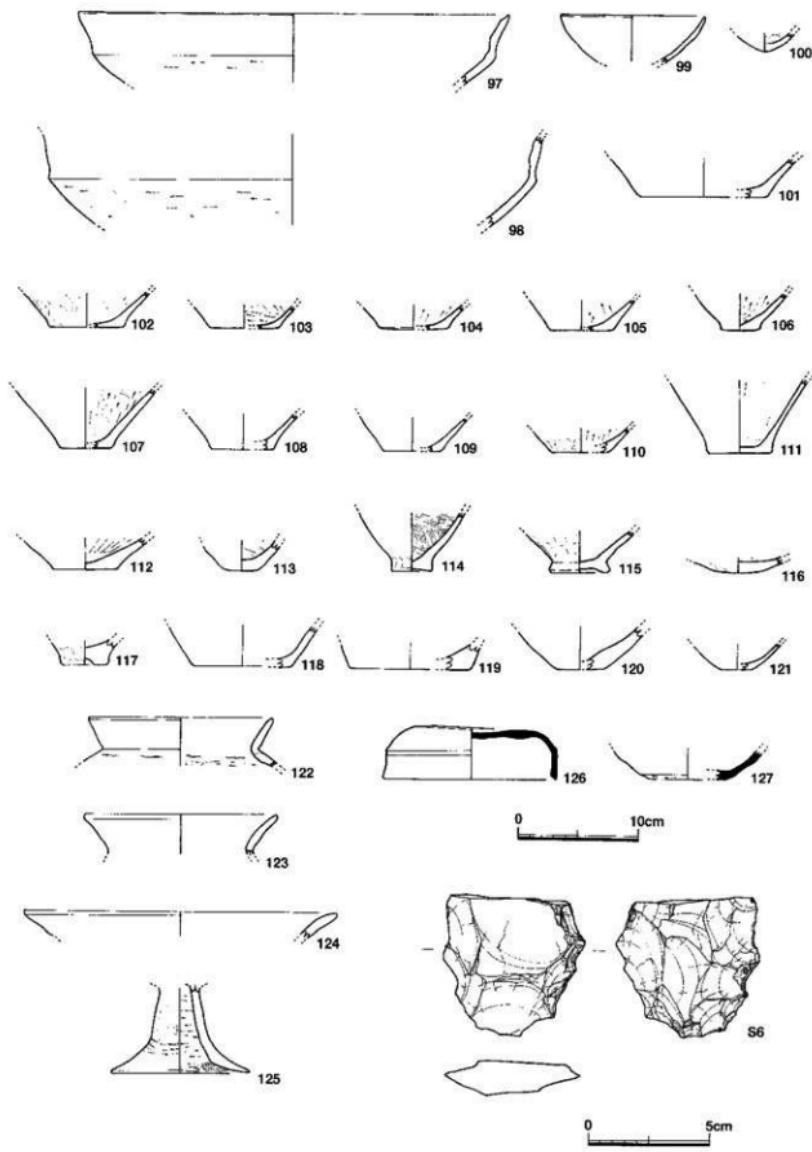
調査区西部で検出した溝である。幅90cm、検出長2.28m、深さ12cmを測る。埋土は黄灰色シルト～細砂の単層で、断面形状は逆台形である。出土遺物は無く、時期は不明である。

SD23（第11・55図）

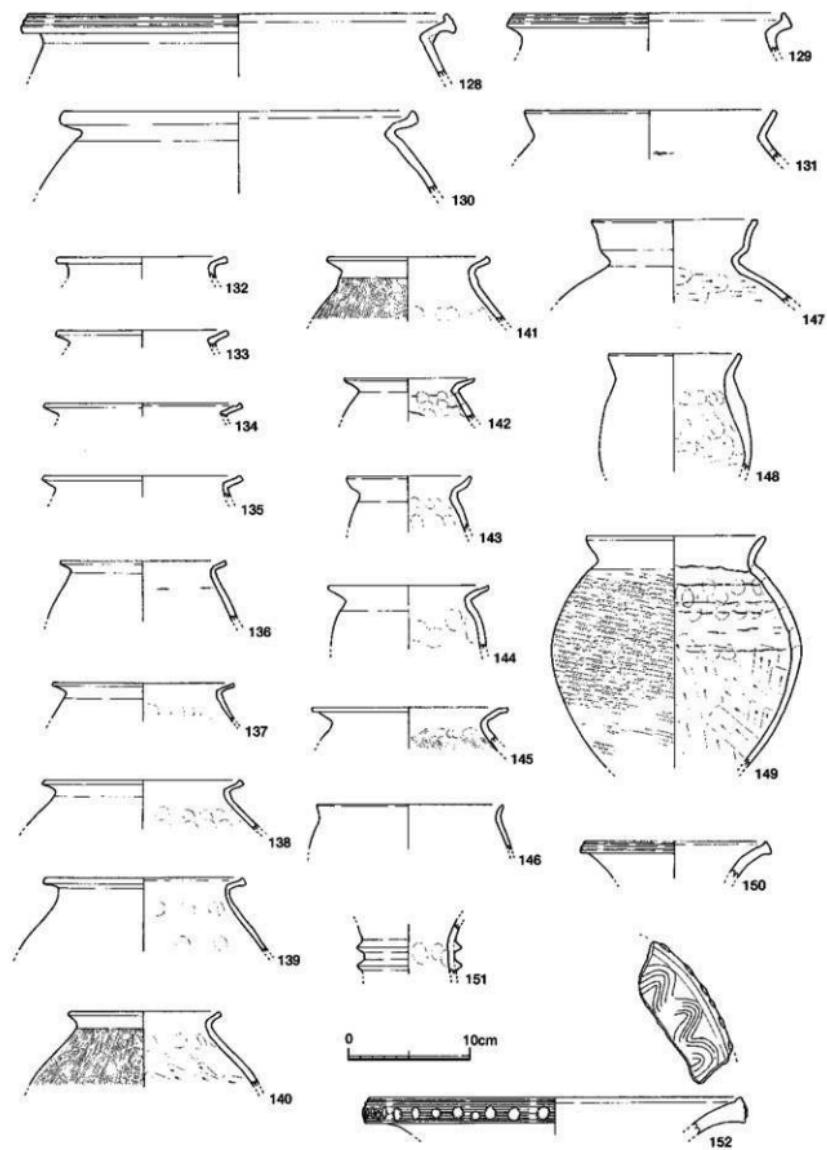
調査区西部で検出した溝である。幅1.4m、検出長9.5m、深さ25cmを測る。埋土は黒色砂混粘土の単層で、断面形状は逆台形である。



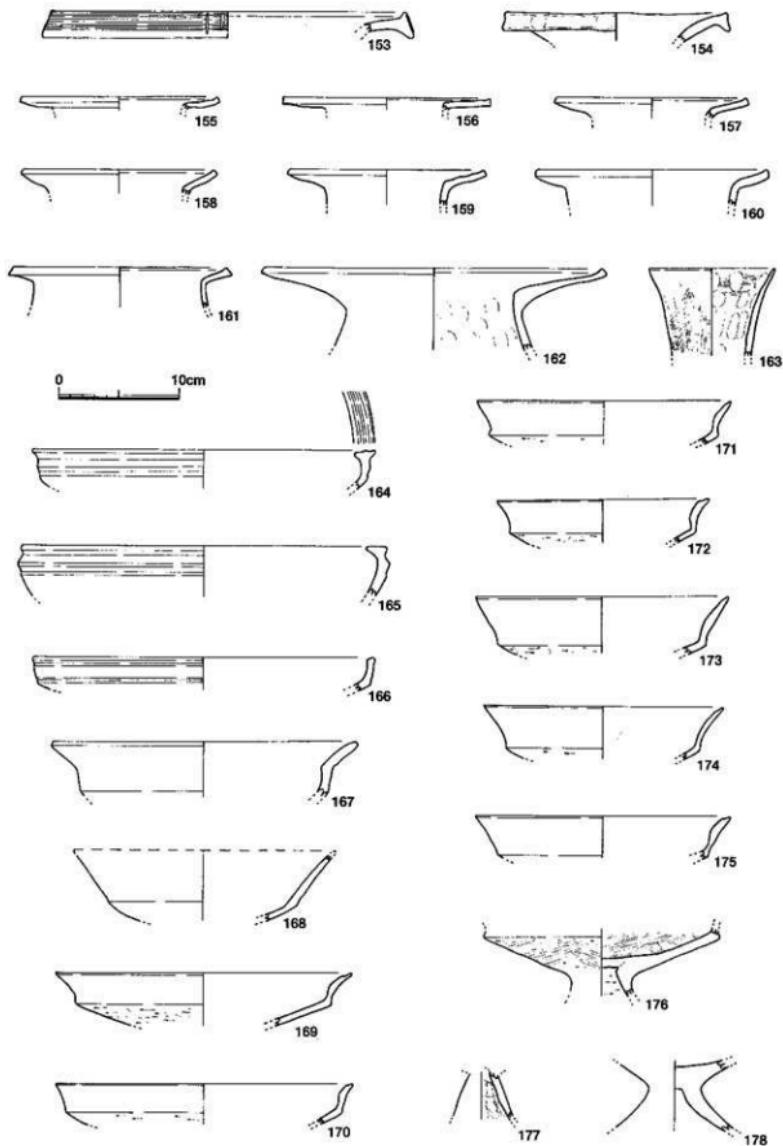
第46図 SD17 中層出土遺物実測図①



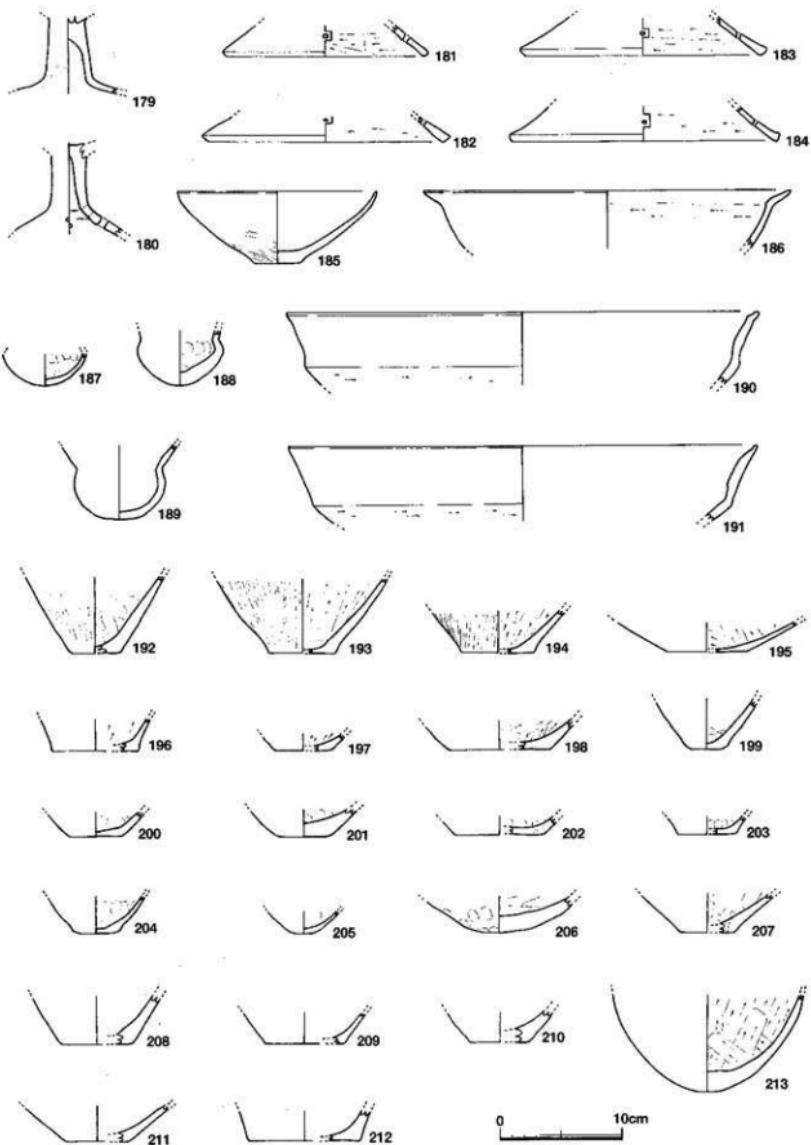
第47図 SD17中層出土遺物実測図②



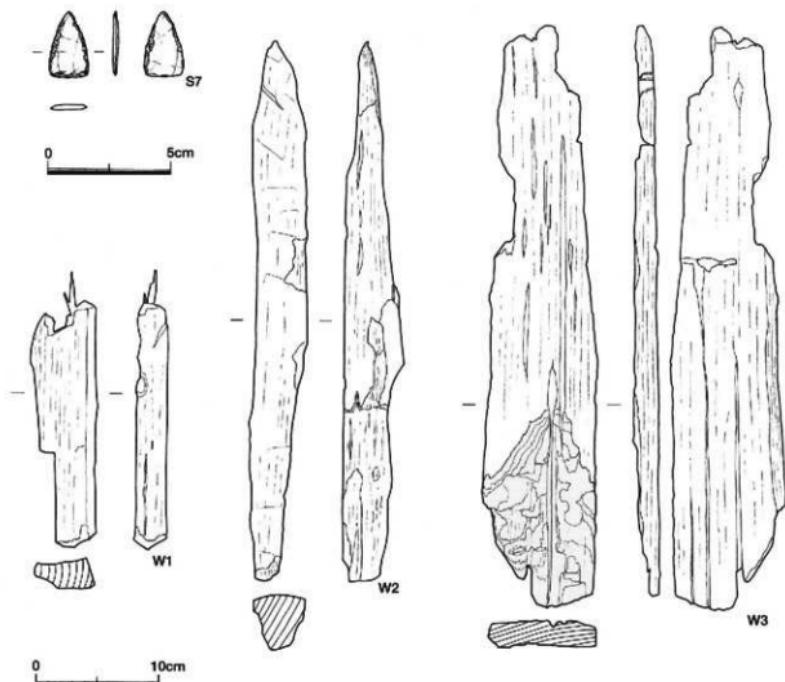
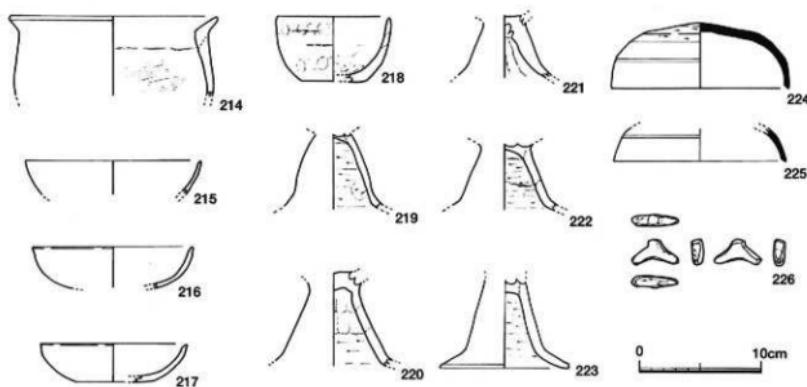
第48図 SD17下層出土遺物実測図①



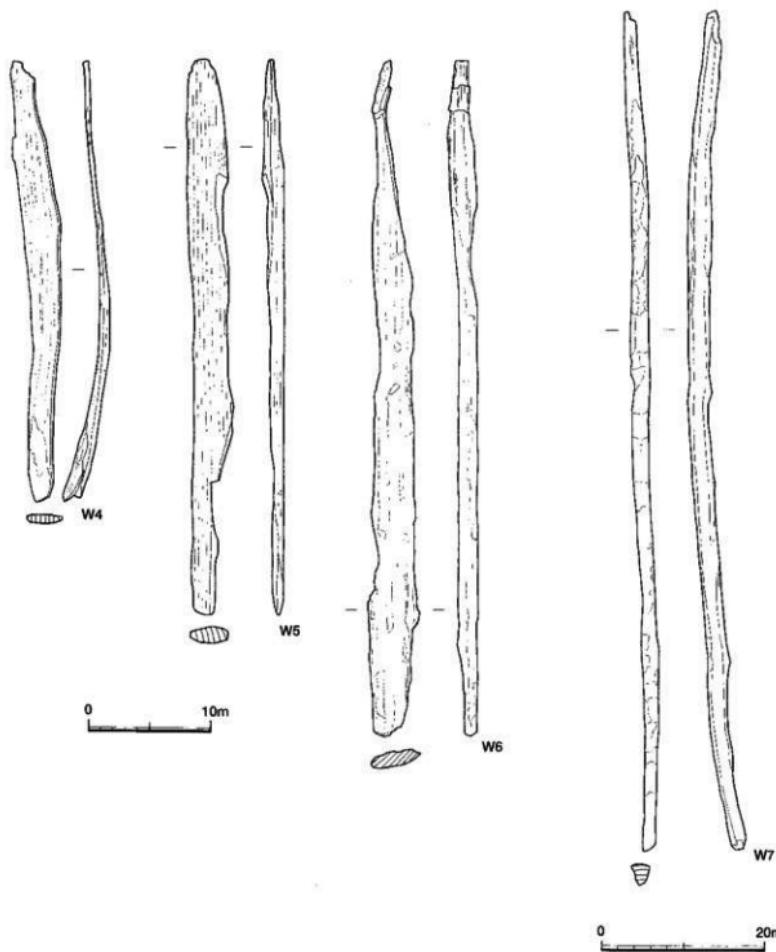
第49図 SD17下層出土遺物実測図②



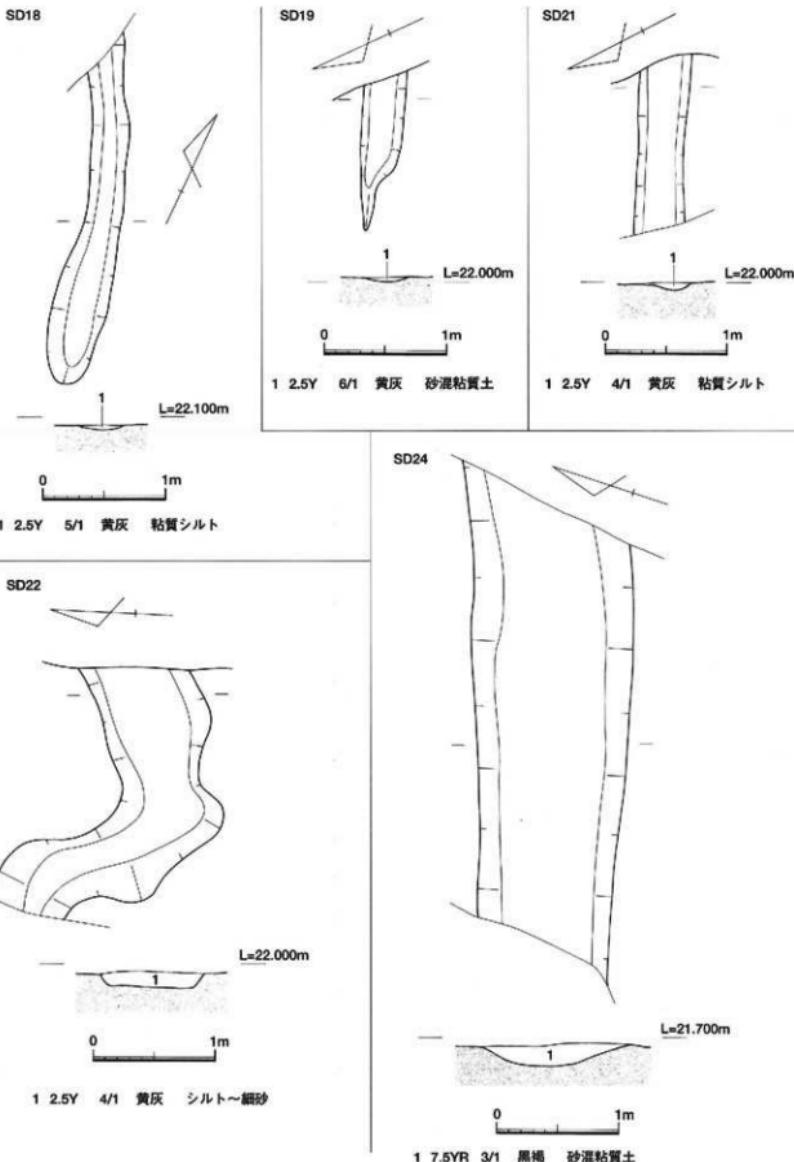
第50図 SD17下層出土遺物実測図③



第51図 SD17下層出土遺物実測図④



第52図 SD17下層出土遺物実測図⑤

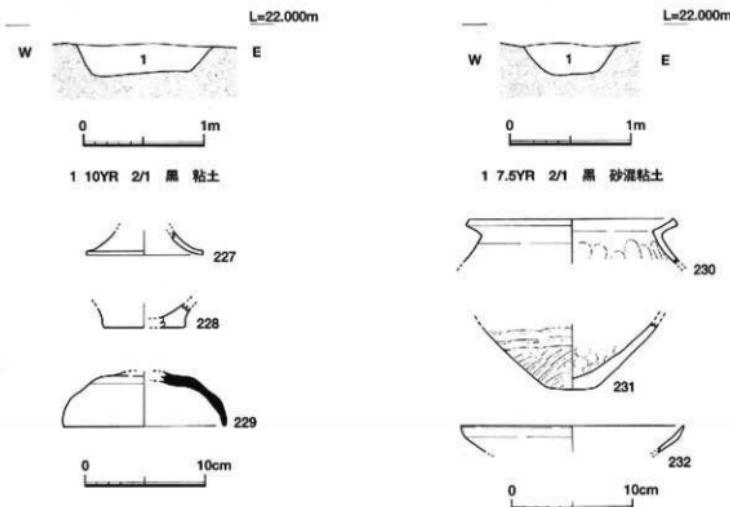


第53図 検出溝平・断面図③

出土遺物は第 55 図に掲載した。230・231 は弥生土器で混入品と考えられる。232 は土師器の坏である。SD17 を切っており、SD20 とほぼ平行していることから、7 世紀前半頃の遺構と考えられる。

SD24 (第 53 図)

調査区北西部で検出した溝である。幅 1.34m, 検出長 3.7m, 深さ 28cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

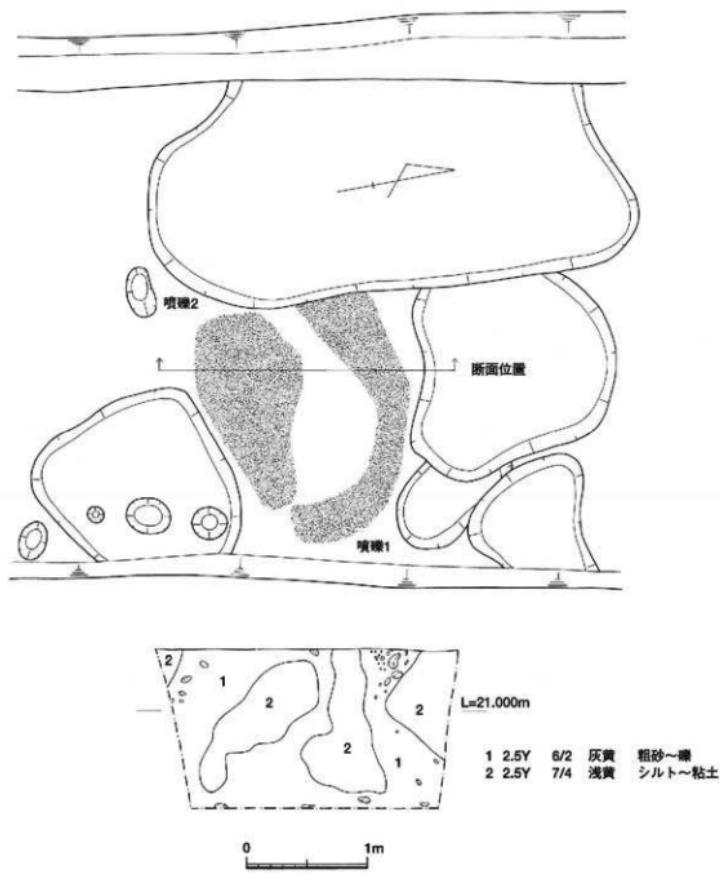


第 54 図 SD20 断面図及び出土遺物実測図

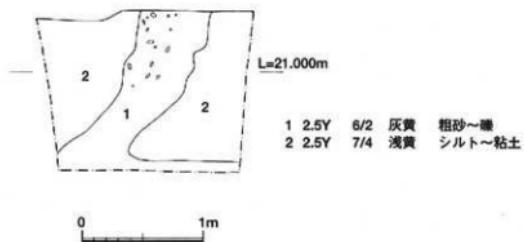
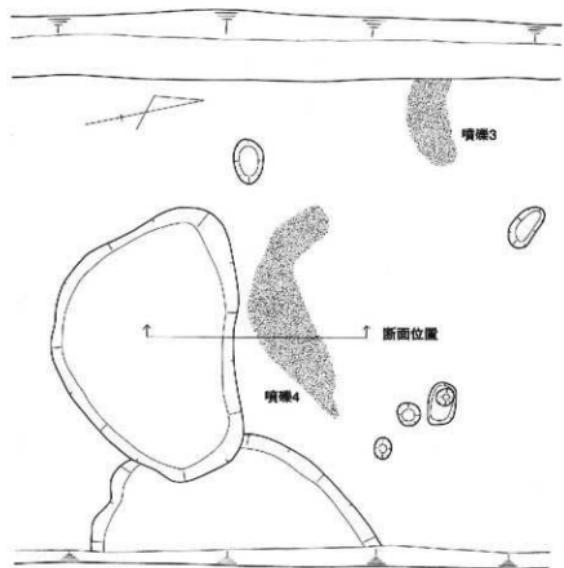
第 55 図 SD23 断面図及び出土遺物実測図

噴礫 (第 11・56・57 図)

調査区の北東部で 4 個所、北西部で 2 個所検出した。噴礫 1 は東西方向に長い溝状で、やや弧を描いており、長さ 2.2m、幅 35cm を測る。地山の浅黄色シルト～粘土層の下層に堆積する灰黄色粗砂～礫層から最大径 15cm の礫が噴き上がっており、高さは 1.2m を測る。SK8 と近接していたが、前後関係は不明である。噴礫 2 は東西方向に長い溝状で、長さ 1.68m、幅 86cm、噴礫 1 同様、地山以下の粗砂～礫層から最大径 10cm の礫が噴き上がっており、高さ 1.2m を測る。噴礫 3 は、西半が調査区外に延びるが、幅 30cm を測り、東西方向に長い溝状を呈すると考えられる。噴礫 4 は東西方向に長い溝状で、やや弧を描いており、長さ 1.75m、幅 50cm を測る。噴礫 1・2 同様、地山以下の粗砂～礫層から最大径 10cm の礫が噴き上がっており、高さ 1.2m を測る。噴礫 5・6 は調査区北西端で検出したため、詳細は不明である。いずれの噴礫も時期は不明である。松林遺跡（通学路）において同様の噴礫に弥生中期中葉の上器が供獻されており、この噴礫と同時期のものと考えられる。



第56図 喷礫 1・喷礫 2 平・断面図



第 57 図 噴煙 3・噴煙 4 平・断面図

第4章 まとめ

第1節 遺構の変遷について

今回の調査は細長いトレンチ状の調査であり、不明な点が多いが、土坑20基、溝24条、掘立柱建物2棟を含むピット79基を検出し、弥生時代中期から近世までの遺物がコンテナ10箱分出土した。概ね弥生中期中葉、弥生終末期、古墳時代後期～奈良時代、奈良時代以降、近世の5時期に大別できる。以下に各時期の主要遺構の変遷を掲載し、まとめに変えたい。

弥生中期中葉

確実な弥生中期中葉の遺構としては土坑でSK8、ピットでSP1、SP15がある。いずれも調査地北東端に所在する。なお、遺物を含まない土坑やピットも調査地北東端に偏っており、これらの土坑やピットも当該期の可能性が考えられる。調査地北東端以外では、土坑・ピット等の遺構は散漫であることから、遺跡の北東端が弥生中期中葉の集落域の南限と考えられる。なお、調査で検出された地震痕跡である噴礫は、平成7年度の調査でも検出されており、弥生中期中葉の時期が考えられている。今回の調査では遺構との切り合いが無く不明であるが、東西方向に帯状に延びる点や、同じ礫層から噴き上がっている点などの共通点から、同時期のものである可能性が高い。

弥生終末期

弥生終末期の遺物は今回の調査で最も多く出土しているが、確実に当該期の遺構と断定できるものは無い。特に遺跡全体で溝群を検出しているが、当該期のものと古墳時代後期～奈良時代のものを明確に分類できない。古墳時代～奈良時代の溝出土遺物の人半が当該期のものであることから、SD1・2のように弥生終末期の土器片数点しか出土していないような遺構の時期を特定しにくい。これら溝群に切られて検出したSK16については、当該期の可能性が考えられる。遺物量に対し、遺構が少ない点は、溝の上流にあたる多肥松林遺跡（県道）でも同傾向であることから、集落はさらに南に存在すると考えられる。

古墳時代後期～奈良時代

SD9-10-17が該当する。特にSD17は多肥松林遺跡（都市計画道路）I区 SD03から流れ込み、松林遺跡（通学路）SD201に続くものと考えられる。松林遺跡（通学路）の調査では、弥生後期～終末期の遺物しか含んでいないため、弥生終末期の埋没を考えていたが、今回の調査で概ね7世紀前半頃まで存続する溝であることが判明した。なお、SD17上面においてSD20・23・24が検出されており、これらの溝は若干後出するものの、条里地割の制約を受けていないことから、条里制施行直前の溝と考えられる。これら以外の溝については、先述のとおり、弥生終末期のものと分類不可能である。また、溝以外の当該期の遺構は見られない。

奈良時代以降

弥生終末期もしくは古墳時代後期～奈良時代の溝群と考えられるSD3・4の上面で検出した掘立柱建物SB2を当該期の遺構とした。建物方位が条里地割に合致しており、条里制施行期以降のものと考えられる。調査地北東端で検出したSB1も出土遺物は無く、時期は不明であるが、条里地割に合致している。いずれも、出土遺物は無く、時期は不明である。

近世

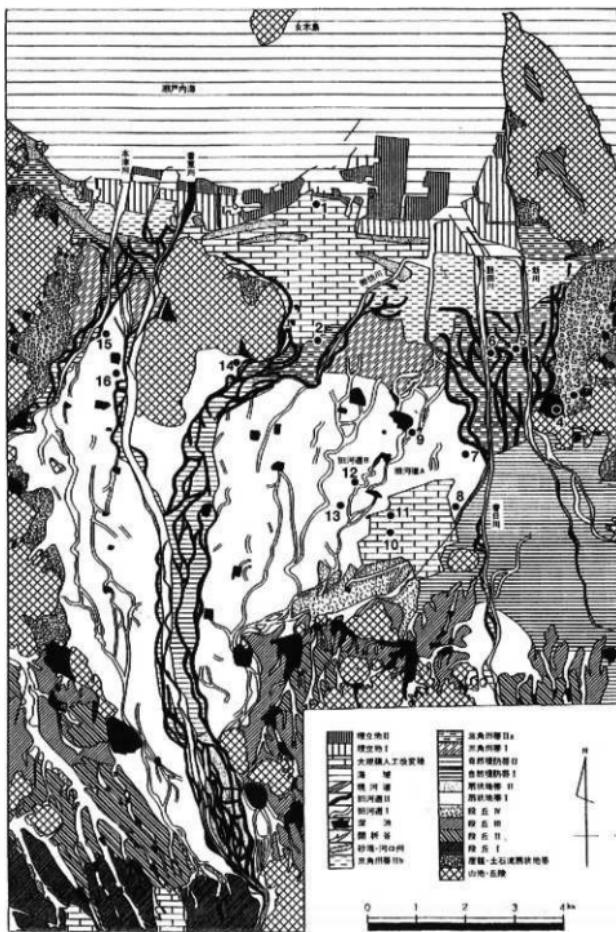
今回の調査地では時期不明の掘立柱建物を除けば、中世の遺構は見られず、遺物も出土していない。今回の調査で検出した遺構のうち最も新しいものがSD5で、19世紀の遺構と考えられる。SD5は香川郡1条と2条の条界に位置している。松林遺跡（通学路）においては、この延長部分では14世紀の溝しか検出していない。現用水路は松林遺跡（通学路）の南で東へ直角に向きを変えている。この溝に平行して18世紀の遺物を含むSD105が検出されていることから、概ね近世頃には現在の水路とほぼ同じ流路となったことがわかる。この他、SK18もSD5とほぼ同じ埋土であることから、当該期の遺構と考えられる。

第2節 高松市における検出された地震痕跡について

100～150年の間隔で発生の恐れがあるとされる東南海・南海地震の防災対策を検討している中央防災会議の専門調査会は平成15年12月16日、「東南海・南海地震対策大綱」を決定した。この大綱において「東南海・南海地震に関わる防災対策特別措置法」に基づき、東南海・南海地震が発生した場合、震度6弱以上の揺れや3メートル以上の津波に見舞われる可能性が高く、建物の耐震化や避難経路の再構築などが必要な「防災対策推進地域」を指定した。推進地域は静岡県から宮崎県までの太平洋沿岸のほか、瀬戸内沿岸の自治体も含まれ、被害が広範囲に及ぶことが改めて示された。高松市もこの防災対策推進地域に指定されており、南海地震発生時には甚大な被害が想定されている。また、中央構造線や長尾断層などを震源域とする内陸型地震についても注意を払わなければならない。

遺跡発掘調査においては、しばしば地震の痕跡が検出されている。遺構との切り合い関係から地震年代を特定することができ、また記録に残っていない地震の発見にもつながることから、地震考古学という新たな分野が確立されている。高松平野の遺跡においても、近年の発掘調査件数の増加に伴い、数多くの地震痕跡を検出している。平成8年の集成（大島1996）では6遺跡であったが、現在16遺跡にまで増加している。このため、これら地震痕跡の集成を行い、その傾向を探ってみる。

まず、高松平野で検出された地震痕跡の年代であるが、特定できるものは少ない。まず、松林遺跡では弥生中期中葉の土器が供獻されていることから、弥生中期中葉と判断で



第58図 地震跡検出遺跡位置図（高橋 1992 地形分類図に加筆）

きる。実年代については今後の科学的な年代決定の確定を待ちたいが、讃岐山脈南麓の中央構造線活断層系父尾断が 2250 ± 130 BP直後頃に大地震を発生させた可能性が高いという指摘（岡田・堤 1997）があり、これに伴う可能性が考えられる。また、川南東遺跡においては18～19世紀の旧河道を切っており、昭和の南海地震での被害はなかったという土地所有者の話から安政の南海地震（1854年）のものと判断している。川南西遺跡では、慶長の伏見地震（1596年）または宝永の南海地震（1707年）の可能性が高いと考えられている。これら以外の地震痕跡については、具体的な年代は不明である。高松平野の場合、堆積が浅く、耕作土直下地山となるところも少なくなく、ほとんどの遺跡では同一面において弥生時代から近世の遺構が検出される。仮に遺構との切り合いがあった場合でも地盤痕跡を切る遺構と切られる遺構の2時期の遺構がなければ年代の特定はできない。このため、地震の年代の特定が困難な地域と言わざるをえない。

次に、地盤と地形分類との関係である。第58図は高松平野の地形分類図（高橋 1992）に地震痕跡検出遺跡を重ねたものである。この地盤痕跡の分布図からすると、ほぼ扇状地帯と三角州帯に偏る傾向がある。分布では三角州帯より扇状地帯の方が多いが、三角州帯は地盤定期が近世以降の部分が多く、遺跡の分布が少ないとから、三角州帯より扇状地帯の方が発生頻度が高いとは言い切れない。また、分布の傾向として、下池、長池、大池をつなぐ香東川旧流路（旧河道A）沿いに多い点が注目できる。また、高松平野では、川水が多く所在する。その分布（新見 1989）は、現御坊川（江戸時代の香東川付替以前の旧流路）流域と、香東川旧流路（概ね中辻までには埋没完了）に多いことが指摘できる。出水は白噴地下水脈であり、地下水が豊富に所在することを意味するものである。このため、旧河道周辺には現在でも地下水脈が所在し、液状化の起こりやすい環境が整っていることが指摘できる。遺跡ではこれら旧河道も検出されることから、旧河道との関連について表2に記した。16例のうち、旧河道の上面で検出した遺跡は6例で、全体の37.5パーセントである。調査面積が非常に狭く、不明な遺跡5例を除くと、残りの地震痕跡も旧河道に隣接した位置で検出しており、地盤痕跡（液状化現象）は旧河道との関連が指摘できる。

以上、高松平野で検出された地震痕跡についてまとめてみた。分布域に関しては旧河道との密接な関係が

表2 高松市内における地震痕跡検出地一覧表（～2004.6.30）

	遺跡名	所在地	時期	遺構切り合い・時期決定要素	地形分類	旧河道との関連	文献
1	高松御跡（松平大膳家・土塁跡）	丸之内	～16世紀末	16世紀末までの遺構面で検出	人工改変地（三角州帯）	全城が旧河道の妙帯	1
2	東中筋遺跡	桜町	中世～近世	中世～近世の層まで噴出	三角州帯	繩文時代の河道上	2・3
3	久本古墳	新町町	10世紀～11世紀末	10世紀の層を切り、11世紀末の遺構面形成層にバックされる	扇疊・土石流扇状地帯	不明	4
4	久木池跡	新町町	～現代	時序不明の溝を切る	扇疊・土石流扇状地帯	時序不明の旧河道に隣接	5
5	川南東遺跡	春日町	1854年	18～19世紀の旧河道を切り、昭和の福地地帯での被害なし	三角州帯	江戸後期の河道上（全城が中世までの旧河道の妙帯）	6
6	川南西遺跡	春日町	近世前半～近世中葉	16世紀末の層を切り、18世紀の洪水層にバックされる	三角州帯	今城が中世までの旧河道の妙帯	7
7	八条1丁目遺跡	六条町	～現代	床土直下の地山で検出	扇状地帯	弥生後期～古墳後期の旧河道に隣接	8
8	六条下所地区	六条町	～現代	床土直下の地山で検出	扇状地帯	不明	9
9	弘福寺領讃岐園山田部田園保遺跡	林町	弥生前期～後期	弥生前期の水田を切り、弥生後期以前の洪水を層まで噴出	扇状地帯	不明	10
10	空堀町遺跡	林町	14世紀～	14世紀の柱穴を切る	人工改変地（扇状地帯）	古墳時代中期の河道上	11
11	一角遺跡	林町	～弥生終末期	弥生終末期までの遺構面で検出	人工改変地（扇状地帯）	弥生終末期の旧河道に隣接	12
12	四町遺跡	多肥下町	古墳時代前期～中世	弥生終末期の堅穴住居SH09を切り、近世の層に削平される	扇状地帯	弥生前期～古墳前期の旧河道に隣接	13
13	松林遺跡	多肥上町	弥生中期中葉	弥生中期中葉の土器堆积	扇状地帯	繩文後期の旧河道に隣接	14
14	西ハゼ店遺跡	西ハゼ町	～弥生初期中葉	弥生初期中葉の旧河道に切られる	扇状地帯	弥生以前の妙帯	15
15	筑城城跡	鏡町	16世紀以降	16世紀の柱穴を切る	扇状地帯	不明	16
16	飯田町東木遺跡	飯田町	中世前半～	中世前半の堆積層を切る	扇状地帯	不明	17

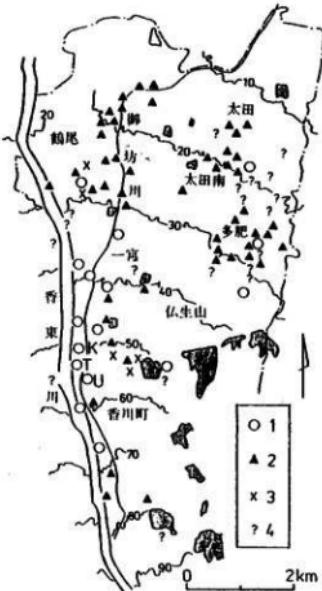
指摘できるが、年代の特定が不十分である。高松市における地震の被害状況については、近世（宝永・安政）の南海地震時の記録しかないことからも、地震痕跡の調査により、地震の被害について検討していくことが重要と考えられる。

引用文献

- 大鷲和則 1996「香川県」発掘された地盤痕跡
- 埋蔵文化財救援連絡会議・埋蔵文化財研究会
- 岡山篤正・堤浩之 1997「中央構造線活動系父尾断層の完新世断層活動一徳島県市毛町でのトレンチ調査」『地学雑誌』106
- 高橋学 1992「高松平野の地形環境」『讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領廣枝山川山川削除調査報告書』高松市教育委員会
- 新見治 1989「泉と地下水」『地学雑誌』98-2

参考文献

1. 小川賢 2004「新ヨンデンビル別館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡（松平大膳家上層遺跡）」高松市教育委員会・四電ビジネス株式会社
2. 小川賢・中西克也 2001「都市計画道路東浜港花ノ宮線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第一冊 東中筋遺跡 第一次調査」高松市教育委員会
3. 小川賢 2004「都市計画道路東浜港花ノ宮線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第二冊 東中筋遺跡 第二次調査」高松市教育委員会
4. 大鷲和則 2004「高松市指定史跡 久木古墳 保存整備、市道新田町61号線改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」高松市教育委員会
5. 大鷲和則 2004「久米池遺跡」香川県埋蔵文化財調査年報 平成14年度 香川県教育委員会
6. 大鷲和則 2000「都市計画道路室町新田原埋蔵文化財発掘調査報告書 第二冊 川南・東遺跡」高松市教育委員会
7. 山元敏裕・木光甲正 1999「都市計画道路室町新田原埋蔵文化財発掘調査報告書 第一冊 川南・西遺跡」高松市教育委員会
8. 北山健一 1995「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5回 六条・上所遺跡」香川県教育委員会
9. 山元敏裕 2003「六条町下所地区」「高松市内発掘調査報告 平成14年度国庫補助事業」高松市教育委員会
10. 山本英之 1992「讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領廣枝山川山田園調査報告書」高松市教育委員会
11. 木下晴・2002「空堀跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊」香川県教育委員会
12. 大鷲和則 2000「特別養護老人ホームさくら荘建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 角道跡」高松市教育委員会
13. 川畠聰 2001「大田第二土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 四原遺跡」高松市教育委員会
14. 大鷲和則 1996「香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」高松市教育委員会
15. 大鷲和則 1999「ハゼ土川遺跡」香川県埋蔵文化財調査年報 平成9年度 香川県教育委員会
16. 山本英之 1999「高松市立弦弦公民館改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 篠城城跡」高松市教育委員会
17. 大鷲和則 2004「飯山町東青木遺跡」「高松市内発掘調査概報 平成15年度国庫補助事業」高松市教育委員会



第59図 高松平野の出水分布（1980年代半ば：新見, 1989）
1：不断泉 2：一時泉 3：埋立・枯渇 4：不明・測定不能

土器觀察表

番号	器種	図版	遺物名	法面(cm)	口径(cm)×底径(cm)×高さ(cm)	特徴	内面	色 質 (上=外面 下=内面)		地土	性質
								上	下		
1	弥生土器 盤	20	SKB	(5.6)	マツツ		板子テ	N4/0 灰		やや密	良好
2	弥生土器 盤	20	SKB	(7.4)	マツツ		板ナデ	10YR5/1 滅灰	1mm以下の石英・長石含む	やや密	良好
3	弥生土器 盤	20	SKB	(6.6)	ナデ	直立	指標圧のちタテハケ	7.5YR6/1 にぶい場		やや粗	良好
4	弥生土器 盤	20	SKB	(10.3)	ナデのちコヘラガガキ		指標圧	10YR5/2 黒褐色	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好
5	弥生土器 盤	20	SKB	(5.3)	直立タテハケ 周辺変形		指標圧	2.5YR5/6 前赤褐色		やや粗	良好
6	弥生土器 盤	20	SKB	(12.0)	ナデ	直立タテハケのちヨコヘラガガキ	7.5YR5/3 にぶい場	2mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
7	弥生土器 盤	22	SKB16	(4.2)	タテハケ		指標圧	10YR5/2 黒褐色	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良好
8	弥生土器 盤	24	SP1	30.2	(26.7)	ナデのちヨコヘラガガキ	指標圧のちヨコハケ	7.5YR5/3 にぶい場	2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良好
9	弥生土器 盤	24	SP1	18.1	(2.8) ナ		ナデ	7.5YR6/4 青褐色		やや粗	良好
10	弥生土器 盤	24	SP1	8.8 (10.1)	ナデヘラガガキ		タテハケ	SYR6/3 にぶい場		やや粗	良好
11	弥生土器 盤	25	SP15	5.2 (8.7)	タテヘラガガキ		指標圧のちタテヘラケズリ	7.5YR4/2 黑褐色	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
12	弥生土器 盤	25	SP15	8.1 (13.6)	タテヘラガガキ		ナデ・指標圧	7.5YR4/2 黑褐色	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
13	弥生土器 盤	26	SD1	(6.6)	タテハケ		指標圧	7.5YR6/4 にぶい場	3mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
14	弥生土器 盤	27	SD2	3.8 (4.1)	マツツ		マツツ	SYR7/3 黑褐色	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
15	弥生土器 盤	27	SD2	19.4 (5.5)	ナデ		ヨコヘラケズリ	7.5YR6/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
16	須恵器 盤	33	SD9	33.2 (9.1)	平行タテのちカキ目		同心円あて具模	SYT7/1 白		やや粗	良好
17	弥生土器 盤	33	SD9	4.8 (1.7)	マツツ		マツツ	10YR8/2 白灰		やや粗	良好
18	弥生土器 盤	33	SD9	(2.8)	ヨコヘラケズリ		マツツ	10YR8/3 青褐色	3mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好
19	弥生土器 盤	34	SD10	14.9 (2.0)	ナデ		ナデ	7.5YR5/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
20	土師器 盤	34	SD10	14.2 (7.1)	タテキ		タテヘラケズリ	7.5YR7/2 黑褐色	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
21	弥生土器 盤	34	SD10	8.6 (2.3)	マツツ		マツツ	10YR7/4 にぶい場	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
22	弥生土器 盤	34	SD10	4.0 (2.1)	マツツ		マツツ	10YR8/2 白灰		やや粗	良好
23	弥生土器 盤	34	SD10	5.6 (2.4)	マツツ		タテヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
24	弥生土器 盤	34	SD10	5.0 (3.6)	ナデヘラガガキ		タテヘラケズリ	10YR6/3 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
25	土師器 盤	34	SD10	14.8 (3.5)	ヨコナデ		ヨコナデ	10YR7/3 にぶい場	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
26	須恵器 盤	34	SD10	19.5 5.0 3.8	回転ヘラケズリ・回転ナデ		回転ナデ	N5/0 灰		密	良好
27	須恵器 盤	34	SD10	8.0 (3.6)	回転ナデ・ヘラ切り		回転ナデ	N5/0 灰		密	良好
28	須恵器 盤	34	SD10	(5.4)	回転ナデ	付赤土1	回転ナデ	SYR7/1 白		密	良好
29	弥生土器 盤	35	SD11	22.0 (5.8)	マツツ		マツツ	N7/0 長石		やや粗	良好
30	弥生土器 盤	35	SD17	24.0 (3.7)	ヨコナデ	付赤土1	ヨコナデ	SYR7/2 長石		やや粗	良好
31	弥生土器 盤	44	SD17	22.4 (3.2)	マツツ	付赤土2	マツツ	10YR9/2 白		やや粗	良好
32	弥生土器 盤	44	SD17	18.0 (4.3)	タテハケ		指標圧	10YR9/2 白		やや粗	良好
33	弥生土器 盤	44	SD17	12.8 (5.6)	ナデ		指標圧	7.5YR5/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良好
34	弥生土器 盤	44	SD17	13.7 (2.6)	ヨコナデ		ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良好
35	弥生土器 盤	44	SD17	14.4 (1.4)	ヨコナデ		ヨコナデ	10YR9/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良好
36	弥生土器 盤	44	SD17	(9.0)	ヨコナデ	付赤土の背置	指標圧	10YR9/3 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良好
37	弥生土器 盤	44	SD17	(14.4)	ヨコナデ	ヨコナデの指標圧	タテヘラケズリの指標圧・ヨコナデ	SYR7/3 長石	1mm以下の石英・長石・雲母含む	やや粗	良好
38	弥生土器 盤	44	SD17	(9.2)	ヨコナデ		指標ナデ	7.5YR4/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
39	弥生土器 盤	44	SD17	21.6 (4.1)	マツツ		指標ナデ	10YR5/3 にぶい場	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
40	弥生土器 盤	44	SD17	22.0 (2.6)	ナデ		マツツ	7.5YR5/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良好
41	弥生土器 盤	44	SD17	24.4 (3.5)	ナデ	付赤土	タテヘラケズリの指標圧・ヨコナデ	7.5YR4/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・雲母含む	やや粗	良好
42	弥生土器 盤	44	SD17	29.8 (2.7)	タテキ		指標ナデ	10YR6/3 にぶい場	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
43	弥生土器 盤	44	SD17	27.2 (4.6)	ヨコヘラケズリ		マツツ	2.5YR7/2 白		やや粗	良好
44	弥生土器 盤	44	SD17	17.0 (5.5)	マツツ		マツツ	7.5YR5/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良好
45	弥生土器 盤	44	SD17	19.8 (2.4)	ヨコナデ		ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい場	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好
46	弥生土器 盤	44	SD17	(3.2)	マツツ		指標圧	10YR8/1 白		密	良好
								10YR8/1 白		密	良好

44	共生土器 高杯	44 SD17	23.0 (3.9)	ナデ	ヘラケズリ	7.SYR-4 / にじいろ 7.SYR-4 / 桜	ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
45	共生土器 高杯	44 SD17	20.2 (2.4)	ナデ	ヨコヘラケズリ	7.SYR-5 / 明照 7.SYR-5 / 明照	ナデ	セイロ 2mm以下の石英・長石含む	良好
46	共生土器 高杯	44 SD17	19.0 (3.8)	ナデ	ヨコヘラケズリ	SYR-4 / にじいろ 7.SYR-4 / 桜	ナデ	セイロ 2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
50	共生土器 高杯	44 SD17	20.2 (4.2)	ナデ	ヨコヘラケズリ	7.SYR-4 / 明照 7.SYR-4 / 桜	ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
51	共生土器 高杯	44 SD17 45.2	(3.8) 透明白	マツツ	マツツ	7.SYR-5 / にじいろ 100YR-3 / にじいろ 7.SYR-4 / 桜	マツツ	セイロ 2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
52	共生土器 透明白	44 SD17	(2.7)	マツツ	マツツ	7.SYR-5 / にじいろ 100YR-3 / 反照	マツツ	セイロ 2mm以下の石英・長石含む	良好
53	共生土器 小丸丸土器	44 SD17	10.0 (2.4)	マツツ	マツツ	SYR-7 / 桜	マツツ	セイロ 2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
54	共生土器 透明白	45 SD17 21.9	(5.9)	ナデ	ナデ	7.SYR-5 / にじいろ 100YR-3 / にじいろ 7.SYR-4 / にじいろ	ナデ	セイロ 2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
55	共生土器 透明白	45 SD17	(2.7)	ナデ	ナデ	7.SYR-5 / にじいろ 100YR-3 / にじいろ 7.SYR-4 / にじいろ	ナデ	セイロ 2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
56	共生土器 透明白	45 SD17	2.8 (1.8) 浅成前の穿孔	マツツ	マツツ	7.SYR-4 / 透明白 7.SYR-4 / 浅成前	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
57	共生土器 透明白	45 SD17	2.3 (1.4) 浅成前の穿孔	マツツ	マツツ	100YR-1 / 黒 2.5YR / 3 黄質	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石含む	良
58	共生土器 透明白	45 SD17	2.3 (2.2)	マツツ	マツツ	100YR-2 / 反照	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石含む	良好
59	共生土器 透明白	45 SD17	3.6 (1.9)	ナデ	指顎圧	SYR-6 / 桜 2.5YR / 黄質	ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
60	共生土器 透明白	45 SD17	4.0 (2.7)	ナデ	マツツ	2.5YR / 6 明赤紫 100YR-1 / にじいろ	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石含む	良
61	共生土器 透明白	45 SD17	3.4 (2.8)	マツツ	マツツ	2.5YR / 6 明赤紫 2.5YR / 3 食青	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石含む	良好
62	共生土器 透明白	45 SD17	6.0 (1.9)	マツツ	マツツ	2.5YR / 6 明赤紫 2.5YR / 1 黄透	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石含む	良好
63	共生土器 透明白	45 SD17	6.0 (3.6)	マツツ	マツツ	5YR-6 / 黄 100YR-2 / にじいろ	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
64	土壤器 高杯	45 SD17	(3.2) 浅成後の穿孔	マツツ	ヨコヘラケズリ	100YR-7 / にじいろ 2.5YR / 2 黄透	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石・鈍母含む	良
65	土壤器 高杯	45 SD17	(5.8)	マツツ	ヨコヘラケズリ	SYR-6 / 透明白 7.SYR-2 / 白	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
66	土壤器 高杯	45 SD17 11.6	(5.3)	マツツ	マツツ	2.5YR / 6 明赤紫 2.5YR / 2 白	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
67	渦巻器	45 SD17 15.6	(5.2)	平行タタキの丸き目	四輪ナデ	Ns/9 灰 Ns/9 灰	四輪ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石含む	良好
68	渦巻器	45 SD17	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ	S8E/1 青灰 S8E/1 青灰	回転ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石含む	良好
69	渦巻器	45 SD17 13.9	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ	SP9S/1 青灰 100YR-2 / にじいろ	回転ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石含む	良好
70	共生土器 高杯	46 SD17 14.0	(2.0)	マツツ	マツツ	SYR-6 / 透明白 SYR-6 / 9	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石・鈍母含む	良
71	共生土器 高杯	46 SD17 17.0	(2.7)	マツツ	指顎圧	100YR-7 / にじいろ 100YR-5 / にじいろ	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
72	共生土器 高杯	46 SD17 13.9	(4.1)	マツツ	指顎圧	SYR-5 / 明赤紫 SYR-5 / 明赤紫	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
73	共生土器 高杯	46 SD17 14.0	(4.8)	マツツ	指顎圧	7.SYR-5 / にじいろ 7.SYR-5 / 4 にじいろ	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
74	共生土器 高杯	46 SD17 12.6	(8.1)	ナデ	ナデ	100YR-7 / にじいろ 100YR-7 / 2 反照	ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石・鈍母含む	良
75	共生土器 高杯	46 SD17 15.7	(5.6)	ナデ	ヨコヘラケズリのら指顎圧	7.SYR-5 / 4 にじいろ 100YR-5 / にじいろ	ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
76	共生土器 高杯	46 SD17 14.0	(4.3)	マツツ	マツツ	7.SYR-5 / 3 にじいろ 100YR-5 / にじいろ	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
77	共生土器 高杯	46 SD17 13.0	(6.0)	タチハケ	タチハラケスリのヨコハケ	100YR-6 / にじいろ 100YR-6 / にじいろ	タチハラケ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
78	共生土器 高杯	46 SD17 11.2	(3.8)	マツツ	マツツ	2.5YR / 6 明赤 100YR-1 / 桜	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
79	共生土器 高杯	46 SD17 18.6	(3.1) 透明白	マツツ	マツツ	100YR-5 / にじいろ 100YR-5 / にじいろ	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
80	共生土器 高杯	46 SD17 31.2	(1.7)	マツツ	マツツ	100YR-6 / 透明白 7.SYR-3 / 透明白	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	不良
81	共生土器 高杯	46 SD17 24.0	(2.1)	ナデ	ナデ	7.SYR-5 / にじいろ 100YR-4 / にじいろ	ナデ	セイロ 2mm以下の石英・長石含む	良
82	共生土器 高杯	46 SD17 22.9	(2.8)	ヨコナデ	ヨコナデ	7.SYR-5 / 4 にじいろ 7.SYR-5 / 4 にじいろ	ヨコナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
83	共生土器 高杯	46 SD17 14.8	(7.3)	ナデ	指顎ナデ	7.SYR-6 / 4 にじいろ 100YR-1 / 桜	ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
84	共生土器 高杯	46 SD17 16.4	(3.3)	マツツ	マツツ	100YR-5 / にじいろ 7.SYR-5 / 明照	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
85	共生土器 高杯	46 SD17 14.2	(9.9)	タチハケ	指顎圧	7.SYR-5 / 4 にじいろ 100YR-5 / にじいろ	タチハケ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
86	共生土器 高杯	46 SD17 17.6	(3.4)	マツツ	指顎圧	SYR-6 / 4 にじいろ SYR-6 / 4 にじいろ	マツツ	セイロ 2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
87	共生土器 高杯	46 SD17 14.6	(3.6)	マツツ	マツツ	7.SYR-5 / 3 透明白 7.SYR-5 / 2 反照	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
88	共生土器 高杯	46 SD17 17.2	(2.7)	マツツ	マツツ	SYR-5 / 4 にじいろ 7.SYR-5 / 明照	マツツ	セイロ 2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
89	共生土器 高杯	46 SD17 17.8 (11.6)	タチハラガ牛 ヨコスカシカ方2段	ヨコヘラケズリ	ヨコヘラケズリ	2.5YR / 6 透明白 2.5YR / 6 透明白	ヨコヘラケズリ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
90	共生土器 高杯	46 SD17	23.8 (3.4)	ナデ	ヨコヘラケズリ	SYR-5 / 6 明赤 SYR-5 / 6 明赤	ナデ	セイロ 2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
91	共生土器 高杯	46 SD17	(4.7)	ナデ	ナデ	2.5YR-8 / 桜 2.5YR-8 / 桜	ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石含む	良好
92	共生土器 高杯	46 SD17 23.6	(8.0)	ヨコヘラケズリの分筋へラフガキヨコヘラカギヨコヘラケズリ	ヨコヘラケズリ	SYR-5 / 4 にじいろ 7.SYR-4 / 桜	ナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
93	共生土器 高杯	46 SD17 19.1	(3.0)	マツツ	マツツ	7.SYR-5 / 4 にじいろ 7.SYR-5 / 4 にじいろ	マツツ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
94	共生土器 高杯	46 SD17 23.8	(2.7)	ヨコナデ	ヨコナデ	7.SYR-5 / 4 にじいろ 7.SYR-5 / 4 にじいろ	ヨコナデ	セイロ 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好

95	衛生土器 糞杯	46	SD17	22.2	(3.5)	マツメ	マツメ	10YR5/3 にじる黄緑 10YR5/2 灰青緑	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
96	衛生土器 糞杯	46	SD17	24.4	(4.9)	ヨコヘラケヅリ	ナデ	10YR5/3 にじる黄緑 10YR5/4 にじる黄緑	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
97	衛生土器 大型鉢	47	SD17	35.6	(5.6)	ヨコヘラケヅリ	マツメ	5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	5mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
98	衛生土器 大型鉢	47	SD17	35.6	(7.6)	ヨコヘラケヅリ	ナデ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	7mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
99	衛生土器 大型鉢	47	SD17	11.8	(3.6)	マツメ	ナデ	7.5YR5/4 にじる緑 10YR7/2 にじる黄緑	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
100	衛生土器 小割丸底土器 底盤	47	SD17	1.5	(1.5)	ナデ	椎頭庄	5YR6/6 緑 5YR6/6 緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
101	衛生土器 底盤	47	SD17	10.2	(3.2)	マツメ	マツメ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
102	衛生土器 底盤	47	SD17	5.8	(3.1)	タテヘラガキギ	タテヘラケヅリ	SYR1.1/1 緑 SYR4/4 にじる黄緑	5mm以下の石英・長石・雲母含む	やや粗	良	
103	衛生土器	47	SD17	5.8	(2.6)	マツメ	ヨコヘラケヅリ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	7mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良	
104	衛生土器 底盤	47	SD17	5.8	(2.1)	マツメ	タテヘラケヅリ	10YR1/7.7 緑 10YR5/2 底黄緑	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
105	衛生土器 底盤	47	SD17	5.0	(2.5)	マツメ	タテヘラケヅリ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	2mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
106	衛生土器 底盤	47	SD17	3.2	(3.1)	マツメ	タテヘラケヅリ	10YR5/3 にじる黄緑 7.5YR5/4 にじる緑	5mm以下の石英・長石・雲母含む	やや粗	良	
107	衛生土器 底盤	47	SD17	4.0	(5.6)	マツメ	タテヘラケヅリ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良	
108	衛生土器 底盤	47	SD17	5.2	(3.0)	マツメ	マツメ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
109	衛生土器 底盤	47	SD17	4.6	(2.6)	マツメ	マツメ	2.5YR5/6 暗赤緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
110	衛生土器 底盤	47	SD17	4.6	(2.1)	赤	タテヘラケヅリ	10YR4/6 赤 10YR4/6 赤	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
111	衛生土器 底盤	47	SD17	5.0	(6.1)	マツメ	板ナデ	10YR5/2 底黄緑 2.5YR5/6 黄灰	2mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
112	衛生土器 底盤	47	SD17	5.2	(2.6)	ナデ	板ナデ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
113	衛生土器 底盤	47	SD17	2.7	(2.5)	マツメ	板ナデ	2.5YR7/2 黄灰 10YR5/1 純灰	2mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
114	衛生土器 底盤	47	SD17	3.2	(4.6)	南頭庄	ヨコハケ	2.5YR7/6 緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
115	衛生土器 底盤	47	SD17	4.6	(3.4)	南頭庄ナデ	ナデ	10YR7/2 底黄緑 10YR7/2 にじる黄緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
116	衛生土器 底盤	47	SD17	4.4	(1.3)	南頭庄	南頭庄	10YR5/3 暗赤緑 2.5YR4/6 緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
117	衛生土器 底盤	47	SD17	3.4	(2.1)	南頭庄	マツメ	10YR5/3 逸黄緑 10YR5/3 逸黄緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
118	衛生土器 底盤	47	SD17	7.8	(3.5)	マツメ	マツメ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・藍石・雲母含む	やや粗	良	
119	衛生土器 底盤	47	SD17	9.6	(2.1)	マツメ	マツメ	SYR5/6 蓝青緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
120	衛生土器 底盤	47	SD17	5.8	(3.6)	マツメ	マツメ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
121	衛生土器 底盤	47	SD17	2.2	(2.1)	マツメ	マツメ	2.5YR5/6 緑 2.5YR5/1 雪灰	2mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
122	土耕器 籠	47	SD17	15.0	(4.2)	ナデ	ヨコヘラケヅリ	SYR5/6 緑 7.5YR5/3 逸黄緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
123	土耕器 籠	47	SD17	15.8	(3.2)	マツメ	マツメ	SYR5/6 緑 7.5YR5/3 逸黄緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
124	土耕器	47	SD17	25.8	(2.0)	マツメ	マツメ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/1 纯灰	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
125	土耕器 灰杯	47	SD17	11.4	(7.8)	板ナデ	ヨコヘラケヅリのちヨコハケ	SYR7/6 纯灰 7.5YR5/3 にじる緑	3mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
126	深層陶器	47	SD17	14.2	9.5	4.3	回転ヘラケヅリ・回転ナデ	回転ナデ	N6/0 灰 N7/0 灰	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好
127	深層陶器	47	SD17	6.2	(2.5)	南頭庄ナデ・回転ヘラケヅリ	回転ナデ	10BGS/1 青灰 10BGS/1 青	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
128	衛生土器	48	SD17	39.6	(5.2)	マツメ	マツメ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/2 にじる緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
129	衛生土器	48	SD17	22.0	(2.6)	ナデ	ナデ	SYR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
130	衛生土器	48	SD17	28.8	(6.0)	マツメ	マツメ	7.5YR5/4 にじる緑 10YR2/1 黑褐	2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良	
131	衛生土器	48	SD17	20.2	(4.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	3mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
132	衛生土器	48	SD17	13.8	(1.8)	マツメ	マツメ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/1 黑褐	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良	
133	衛生土器	48	SD17	13.8	(1.4)	ナデ	ナデ	10YR5/3 にじる黄緑 10YR5/3 にじる黄緑	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良	
134	衛生土器	48	SD17	16.0	(1.1)	マツメ	マツメ	7.5YR5/3 にじる緑 7.5YR5/3 にじる緑	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
135	衛生土器	48	SD17	16.0	(1.8)	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/3 にじる黄緑 10YR4/3 にじる黄緑	1mm以下の石英・長石含む	やや粗	良好	
136	衛生土器	48	SD17	13.4	(5.0)	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良	
137	衛生土器	48	SD17	14.8	(3.2)	マツメ	南頭庄	10YR5/3 にじる黄緑 10YR5/3 にじる黄緑	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
138	衛生土器	48	SD17	16.0	(4.0)	ナデ	南頭庄	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良好	
139	衛生土器	48	SD17	12.4	(6.0)	マツメ	南頭庄	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	3mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良	
140	衛生土器	48	SD17	14.8	(3.2)	マツメ	南頭庄	10YR5/3 にじる黄緑 10YR5/3 にじる黄緑	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良	
141	衛生土器	48	SD17	12.0	(8.2)	タテハケ	タテハケ	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	5mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良	
142	衛生土器	48	SD17	10.7	(5.3)	タテハケ	南頭庄	10YR5/3 にじる黄緑 10YR5/3 にじる黄緑	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	やや粗	良	
143	衛生土器	48	SD17	10.7	(3.5)	マツメ	南頭庄	7.5YR5/4 にじる緑 7.5YR5/4 にじる緑	3mm以下の石英・長石・雲母含む	やや粗	良	
144	衛生土器	48	SD17	10.8	(4.6)	マツメ	南頭庄	7.5YR5/4 にじる緑 10YR5/3 にじる黄緑	3mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良	
145	衛生土器	48	SD17	12.9	(8.2)	マツメ	南頭庄	7.5YR5/3 にじる緑 10YR5/3 にじる黄緑	3mm以下の石英・長石・角閃石含む	やや粗	良	

105	恵生土番 鹿部	SD17	6.3 (2.4)	マツツ	タテヘラケズリ	NSG-6 鹿部	やや粗	良好
106	恵生土番 鹿部	SD17	6.9 (2.7)	マツツ	タテヘラケズリ	7SYR5/4 にじいろ 7SYR5/4 にじいろ	やや粗	良好
107	恵生土番 鹿部	SD17	4.5 (1.5)	ナデ	タテヘラケズリ	2SYR1/1 黄斑	やや粗	良好
108	恵生土番 鹿部	SD17	8.0 (2.5)	マツツ	タテヘラケズリ	10SYR5/4 にじいろ 10SYR5/2 にじいろ	やや粗	良好
109	恵生土番 鹿部	SD17	3.4 (4.2)	ナデ	椎頭圧	10SYR5/2 黄斑	やや粗	良
110	恵生土番 鹿部	SD17	4.1 (2.0)	マツツ	椎頭圧	10SYR5/4 にじいろ 7SYR6/4 にじいろ	やや粗	良
111	恵生土番 鹿部	SD17	3.8 (2.3)	マツツ	椎頭圧	10SYR5/6 6 種	やや粗	良
112	恵生土番 鹿部	SD17	7.0 (1.6)	ナデ	椎頭圧	10SYR5/4 にじいろ 7SYR6/4 にじいろ	やや粗	良好
113	恵生土番 鹿部	SD17	4.0 (1.6)	マツツ	椎頭圧	7SYR1/1 黄斑	やや粗	良
114	恵生土番 鹿部	SD17	3.8 (3.1)	ナデ	椎頭圧	10SYR5/2 にじいろ 10SYR4 にじいろ	やや粗	良好
115	恵生土番 鹿部	SD17	2.0 (1.9)	ナデ	椎頭圧	2SYR1/2 黄斑	やや粗	良
116	恵生土番 鹿部	SD17	4.2 (3.0)	ナデ	椎頭圧	7SYR1/4 にじいろ 10SYR7/3 にじいろ	やや粗	良
117	恵生土番 鹿部	SD17	4.7 (3.2)	ナデ	椎頭圧	10SYR5/3 にじいろ 10SYR5/4 にじいろ	やや粗	良好
118	恵生土番 鹿部	SD17	5.6 (4.0)	マツツ	マツツ	5SYR6/6 種	やや粗	良
119	恵生土番 鹿部	SD17	6.4 (2.6)	マツツ	マツツ	10SYR4/4 にじいろ 10SYR4/4 にじいろ	2m以下の石基・長石含む	良好
120	恵生土番 鹿部	SD17	4.6 (2.5)	マツツ	マツツ	2SYR1/2 黄斑	やや粗	良
121	恵生土番 鹿部	SD17	9.0 (2.0)	マツツ	マツツ	10SYR5/3 にじいろ 10SYR5/2 にじいろ	1m以下の石基・長石含む	良好
122	恵生土番 鹿部	SD17	9.0 (2.6)	マツツ	マツツ	7SYR5/3 にじいろ 7SYR5/4 にじいろ	1m以下の石基・長石含む	良好
123	恵生土番 鹿部	SD17	1.4 (8.0)	ナデ	タテヘラケズリ	7SYR5/4 にじいろ 7SYR5/4 にじいろ	1m以下の石基・長石含む	良
124	土壌鑿 茎	SD17	18.7 (8.6)	ナデ	ヨハハケ	SYR7/4 にじいろ 7SYR7/4 にじいろ	やや粗	良好
125	土壌鑿 茎	SD17	14.2 (2.8)	ナデ	ヨハハケ	7SYR7/4 にじいろ 7SYR7/4 にじいろ	4m以下の石基・長石含む	良好
126	土壌鑿 茎	SD17	12.0 (3.4)	マツツ	マツツ	7SYR8/4 にじいろ 7SYR8/4 にじいろ	1m以下の石基・長石含む	良好
127	土壌鑿 茎	SD17	11.8 (6.0)	マツツ	マツツ	7SYR8/4 にじいろ 7SYR8/4 にじいろ	1m以下の石基・長石含む	良好
128	土壌鑿 茎	SD17	9.2 (5.0)	S3 種混合	株ナデ	SYR5/2 黄斑	やや粗	良
129	土壌鑿 茎	SD17	(8.2)	マツツ	ヨハハケズリ	SYR5/5 黄斑	2m以下の石基・長石含む	良
130	土壌鑿 茎	SD17	(7.8)	ナデ	ヨハハケズリ	7SYR8/6 種	1m以下の石基・長石含む	良
131	土壌鑿 茎	SD17	(5.1)	ナデ	ヨハハケズリ	7SYR8/4 黄斑 7SYR8/4 黄斑	中等	良
132	土壌鑿 茎	SD17	(5.6)	ナデ	ヨハハケズリ	7SYR8/6 種	2m以下の石基・長石含む	良
133	土壌鑿 茎	SD17	10.0 (7.0)	ナデ	ヨハハケズリ	7SYR8/6 黄斑 7SYR8/6 黄斑	3m以下の石基・長石含む	良好
134	土壌鑿 茎	SD17	14.8 (5.4)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	SYR4/4 にじいろ SYR4/4 にじいろ	1m以下の石基・長石含む	良
135	土壌鑿 茎	SD17	14.0 (2.7)	回転ナデ	回転ナデ	SYT/1 黄斑	1m以下の石基・長石含む	良
136	不明 土製品	SD17	2.1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	7SYR8/2 黄斑 7SYR8/3 黄斑	1m以下の石基・長石含む	良
137	土壌鑿 茎	SD10	8.5 (2.0)	マツツ	マツツ	2SYR5/6 黄斑	中等	良
138	恵生土番 鹿部	SD20	6.5 (2.0)	マツツ	マツツ	2SYR5/6 黄斑	やや粗	良
139	恵生土番 鹿部	SD20	13.3 (4.5)	ヨハハケズリ・回転ナデ	回転ナデ	7SYR1/2 にじいろ 10SYR3/3 黄斑	2m以下の石基・長石含む	良好
140	恵生土番 鹿部	SD13	16.8 (3.6)	マツツ	椎頭圧	10SYR5/3 にじいろ 10SYR5/3 にじいろ	1m以下の石基・長石含む	良好
141	恵生土番 鹿部	SD13	3.8 (5.4)	タキ	椎頭圧	SYR7/4 にじいろ SYR7/4 にじいろ	1m以下の石基・長石含む	良好
142	土壌鑿 茎	SD15	18.7 (2.8)	マツツ	マツツ	7SYR5/4 にじいろ 2SYR5/2 黄斑	1m以下の石基・長石含む	良好

木器観察表

番号	器種	図版	遺物名	法量(cm)			特徴
				長	幅	厚	
W1	三カン削材	51	SD17	16.7	5.6	2.5	ほば削皮まで残る。わずかに加工痕が残る。
W2	三カン削材	51	SD17	44.6	4.7	4.9	ほば削皮まで残る。わずかに加工痕が残る。
W3	板材	51	SD17	47.9	8.6	2.1	やや厚めの板材。生垣部は焼付で変色している。
W4	板材	52	SD17	35.4	3.6	0.7	薄い板材。わずかに加工痕がある。
W5	板材	52	SD17	43.3	3.4	1.9	薄い板材。わずかに加工痕がある。
W6	板材	52	SD17	55.0	4.2	1.3	薄い板材。わずかに加工痕がある。
W7	弓	62	SD17	164.8	3.0	2.2	加工痕跡がられないが、張状に彎曲

石器観察表

番号	器種	図版	遺物名	法量(cm)			重量(g)	特徴
				長	幅	厚		
S1	削器	29	SK8	4.3	2.9	0.5	5.2	背面は敲打による調整を行なうが、刃部は未調整。 片面は全面に削跡、裏面は細かい剥離が認められる。
S2	刮削器	24	SP1	9.6	4.4	0.8	24.1	片面は全面に削跡、裏面は細かい剥離が認められる。
S3	刮削器	30	SD6	7.2	4.2	0.8	19.8	片面は全面に削跡、裏面は上下2面の剥離が認められる。
S4	石鏃	45	SD17	3.5	2.0	0.6	2.7	頭部が大きく、両面より鋸歯。
S5	石鏃	45	SD17	3.9	4.0	0.4	6.0	わずかに頭と尾端である突出部を残す。
S6	石鏃	47	SD17	4.7	5.9	1.4	56.5	頭部より大さなし頭部を残す。
S7	石鏃	51	SD17	2.8	1.6	0.2	1.2	平底式、刃部の鋸歯は無い。



写真1 試掘状況（3Tr）



写真2 試掘状況（9Tr）



写真3 機械掘削状況



写真4 遺構検出状況



写真5 調査区北東部完掘状況（北から）



写真6 調査区東部中央完掘状況（北西から）



写真7 調査区南東部完掘状況（北から）



写真8 調査区南東部完掘状況（南から）



写真 9 調査区南部完掘状況（西から）



写真 10 調査区西部完掘状況（南から）



写真 11 調査区西部完掘状況（北から）

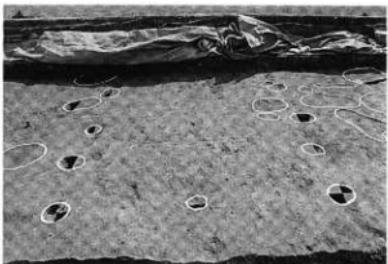


写真 12 SB1 半裁状況（西から）

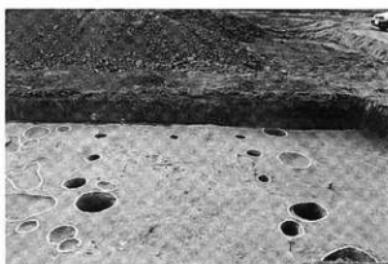


写真 13 SB1 完掘状況（東から）



写真 14 SB2 完掘状況（東から）



写真 15 SK8 断面（北から）



写真 16 SK8 土器出土状況（南から）

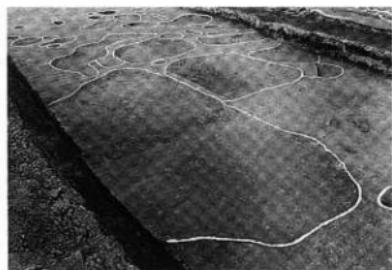


写真 17 SK8 完掘状況（南から）



写真 18 SP1 土器出土状況（西から）

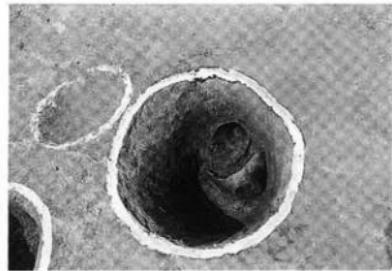


写真 19 SP15 土器出土状況（南から）

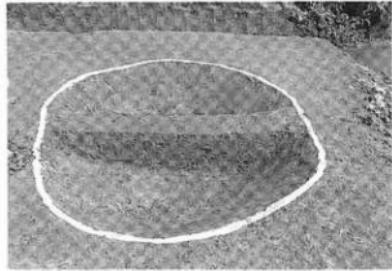


写真 20 SK18 断面（南から）



写真 21 SD1 完掘状況（東から）

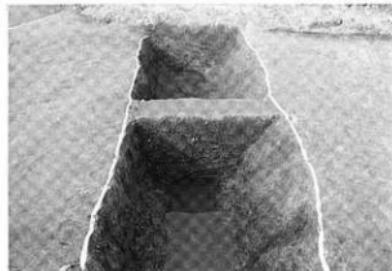


写真 22 SD2 断面（東から）



写真 23 SD2 完掘状況（東から）

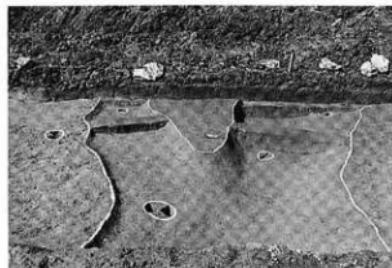


写真 24 SD3・4・SB2 断面（東から）



写真 25 SD8 完掘状況（南西から）



写真 26 SD9 完掘状況（南西から）

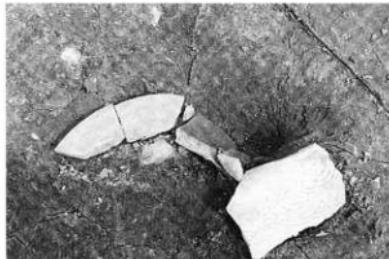


写真 27 SD9 土器出土状況（南から）



写真 28 SD10 完掘状況（南から）



写真 29 SD10 断面（南から）



写真 30 SD11 完掘状況（南から）



写真 31 SD15 断面（南から）

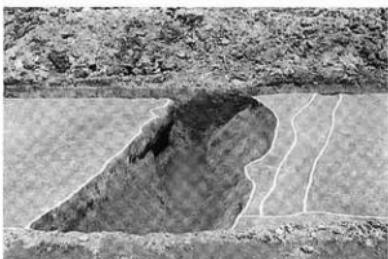


写真 32 SD15 完掘状況（南から）



写真 33 SD16・17 完掘状況（南東から）

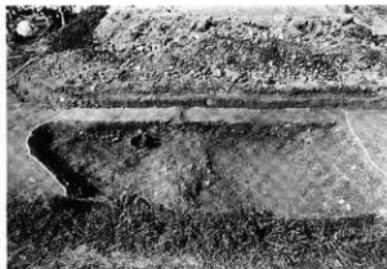


写真 34 SD17 南部断面（南から）



写真 35 SD17 南部完掘状況（南から）



写真 36 SD17 土器 32 出土状況（南から）



写真 37 SD17 完掘状況（南から）



写真 38 SD17 中部断面（南から）



写真 39 SD17 土器 66 出土状況（南から）



写真 40 SD17 土器 37 出土状況（南から）



写真 41 SD17 土器 64 出土状況（西から）



写真 42 SD17 北部断面（南から）



写真 43 SD17 完掘状況（南から）



写真 44 SD17 完掘状況（北から）



写真 45 SD17 完掘状況（北東から）



写真 46 SD17 堀削状況（南から）



写真 47 SD17 木器出土状況（北から）



写真 48 SD17 土器 69 出土状況（東から）



写真 49 SD17 土器 126 出土状況（南から）



写真 50 SD17 土器 149 出土状況（南から）



写真 51 SD17 土器 213 出土状況（南から）



写真 52 SD17 土器 89 出土状況（西から）



写真 53 SD20・23 断面（北から）

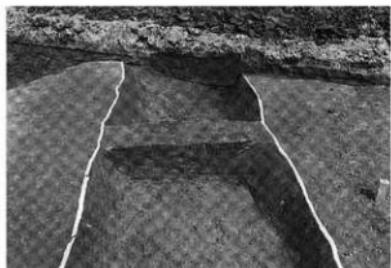


写真 54 SD24 断面（東から）



写真 55 墳蹟 1・2 断面（東から）

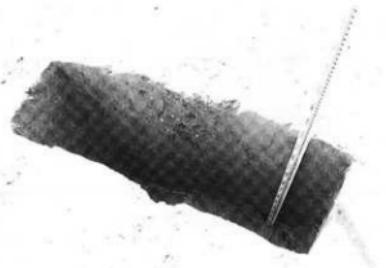
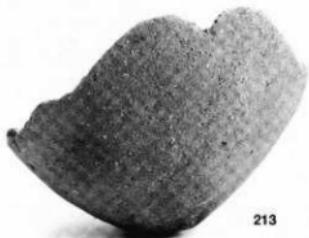


写真 56 墳蹟 4 断面（東から）



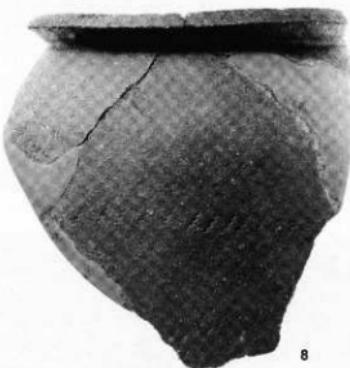
213



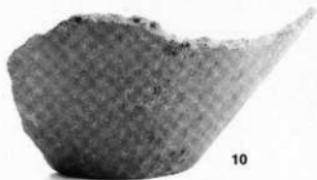
6



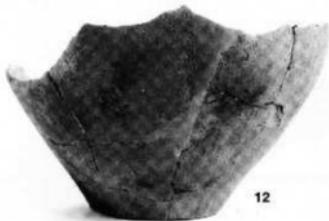
11



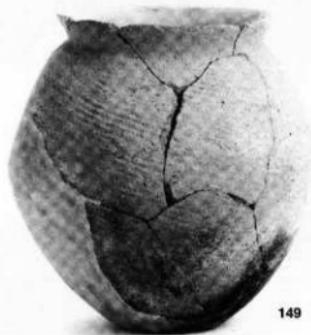
8



10



12



149

写真 57 松林遺跡出土遺物①



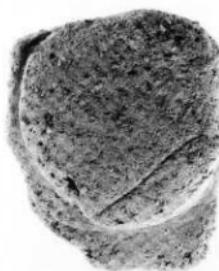
148



29



147



17



185



53



231



92

写真 58 松林遺跡出土遺物②



89



64



220



223



125



28

写真 59 松林遺跡出土遺物③



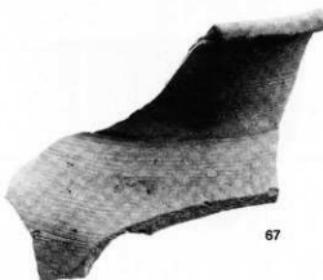
25



16



229



67



224



69



126



66

写真 60 松林遺跡出土遺物④

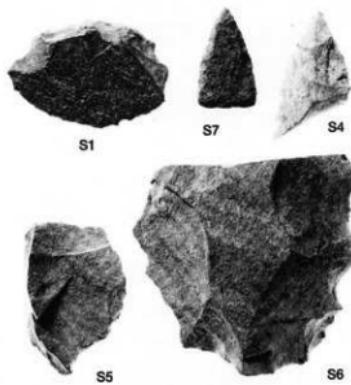


写真 61 松林遺跡出土遺物⑤

報告書抄録

ふりがな	まつばやしいせき						
書名	松林遺跡(第2次調査)						
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第77集						
編著者名	大嶋 和則						
編集機関	高松市教育委員会						
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087-839-2636						
発行年月日	西暦2004年9月30日						
ふりがな 所収遺跡名	じよいぢ 所在地	コード		北緯 ○.′.〃	東経 ○.′.〃	調査期間	調査面積
		市町村	遺跡番号				
まつばやしいせき 松林遺跡	かわせけん 香川県 たかまつし 高松市 たかみまち 多肥上町	37201		34° 17' 30"	134° 03' 20"	2004.4.1～4.12	800 m ² 宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
松林遺跡	集落	弥生	土坑 ピット	弥生土器 石器		噴礫	
		古墳	溝	須恵器 上師器			
		奈良以降	掘立柱建物				
		近世	溝 土坑	陶磁器			

松林遺跡

第2次調査

「松林遺跡」に係る調査(行動実績調査報告書)一

平成16年9月30日

編 集 高松市教育委員会
高松市番町一丁目8番15号

発 行 高松市教育委員会
株ユーリックホーム

印 刷 有限会社中央ファイリング